

都民の結婚等に関する実態及び意識に ついてのインターネット調査

平成30(2018)年12月
東京都生活文化局

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	3
2 調査設計	3
3 報告書の見方	4

II 調査回答者の属性

1 居住地域区分	9
2 年齢	10
3 性別	10
4 性別・年齢別（男性）	11
5 性別・年齢別（女性）	11
6 雇用形態	12
7 同居している世帯の構成	13
8 居住形態	14

III 調査結果

1 結婚することの利点	17
2 結婚することの具体的な利点	20
3 独身でいることの利点	25
4 独身でいることの具体的な利点	28
5 恋人との交際状況	33
6 恋人が欲しいか否かの状況	35
7 恋人と交際する上での不安	38
8 恋人を欲しいと思わない理由	41
9 交際相手との結婚の希望	44
10 現在の交際相手と知り合った契機	47
11 生涯を通じての結婚意向	51
12 結婚意向者の結婚に対する考え	54
13 結婚意向者の結婚時期	57
14 結婚の障害の有無	60
15 結婚の具体的な障害	63
16 結婚したい年齢	68
17 結婚相手を決めるときの重視度	74
18 独身でいる理由	91
19 現在の結婚に向けた活動	98

20	婚活の具体的な行動をとっていない理由	101
21	婚活するとしたらどのような婚活をしたいか	104
22	「いずれ結婚するつもり」と思ったことの有無	107
23	考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性	110
24	「いずれ結婚するつもり」に変わる理由	113
25	東京都に期待する結婚支援の取組	120
26	都が結婚支援を行っていることの認知状況	124
27	東京都の結婚支援についての意見・要望	126

IV 調査票

アンケート調査票	129
----------	-----

I 調査の概要

1 調査目的

東京都は、結婚を希望しながらも一步を踏み出せないでいる都民の後押しをするため、結婚に向けた気運の醸成に取り組んでいる。結婚は個人が自分の人生観に基づき決めるものではあるが、望んでいてもなかなか一步を踏み出せないでいる都民を後押しする効果的な施策を実施するため、都民の結婚等に関する実態及び意識についてインターネット調査を実施した。

2 調査設計

(1) 調査地域 東京都全域

(2) 調査対象 東京都在住の18歳以上50歳未満の未婚の男女

(3) 標本数 3,000標本以上

有効回収数 男性1,687人、女性1,524人の合計3,211人

(性別、年齢別の都内の未婚者の人口比の近似値で回収を行った)

なお、性別、年齢別の有効回収数は下記のとおり

	有効回収数 (人)
全 体	3,211
男性 (計)	1,687
18～19歳	143
20～24歳	369
25～29歳	323
30～34歳	258
35～39歳	224
40～44歳	204
45～49歳	166
女性 (計)	1,524
18～19歳	142
20～24歳	369
25～29歳	318
30～34歳	228
35～39歳	181
40～44歳	158
45～49歳	128

※東京都の未婚者数は、平成27年国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）を用いた

(4) 標本抽出 重複を除いたモニター母集団の登録情報データベースを基に、18～49歳の東京都内在住者かつ未婚者のモニターを抽出した

(5) 調査方法 WEBシステムを利用したインターネット調査

(6) 調査票 IV章の調査票を使用

(7) 調査時期 平成30年7月26日～平成30年8月27日

(8) 調査実施機関 株式会社総合企画

3 報告書の見方

- (1) 各項目のはじめに質問項目とともに示してある「n」は、回答者数のことである。質問に対する回答は、1つの場合やいくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、合計比は通常100%を超える。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで示した。また、図中のクロス集計では、小数点以下第1位を四捨五入して整数で示した。このため、すべての選択肢の比率を合計しても100%にならない場合がある。
- (3) 図表中、スペースの都合上で回答選択肢を短縮している場合がある。
- (4) 今回の都の調査結果と国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）及び内閣府の調査結果を比較するにあたり、社人研が平成27年6月に実施した「第15回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」の独身者調査は、結果の分析を18歳以上35歳未満の未婚者を中心に行っていること、また、内閣府が平成26年12月に実施した「結婚・家族形成に関する意識調査」は20歳以上39歳までの国民を対象としていることから、都の結果をそれぞれの調査の年齢区分に合わせて集計し、比較分析をしている。ただし、今回の都の調査結果と2つの国の調査結果を比較分析するにあたり、調査手法や調査時期が異なるため、あくまで参考に留めるものとする。

また、「第15回出生動向基本調査」は、訪問配布した調査票を回収用封筒に密閉した状態で訪問回収しているため「不詳」が、「結婚・家族形成に関する意識調査」は、郵送により回答を回収しているため「無回答」がそれぞれ発生している。一方、今回の都の調査はWEB画面で回答漏れや回答に矛盾があると次ページに進めないよう制限して実施したため、不詳・無回答は出現していない。

それぞれの調査設計は下記のとおり。

i) 第15回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査-独身者調査-）

1. 実施主体 国立社会保障・人口問題研究所
2. 調査対象 全国の18歳以上50歳未満の独身者
3. 標本数 調査票配布数（調査客体数）11,442人、回収数は9,674票、回収率は84.5%だった。ただし、記入状況の悪い922票を無効票として集計対象から除外し、有効票数は8,752票、有効回収率は76.5%となった
4. 標本抽出 全国の18歳以上50歳未満の独身者を母集団とし、国勢調査地区を抽出単位とする層化無作為二相集落抽出法により標本抽出を行った
5. 調査方法 調査方法は配票自計、密封回収方式
6. 調査時期 平成27年6月1日現在の事実について調査された

ii) 結婚・家族形成に関する意識調査

1. 実施主体 内閣府政府統括官（共生社会政策担当）
2. 調査対象 全国の20歳～39歳の男女
3. 標本数 7,000人 有効回収数2,643人 有効回収率37.8%
うち、未婚数は1,215人
4. 標本抽出 住民基本台帳による層化二段無作為抽出法

5. 調査方法 郵送法（回答方法は、郵送・インターネットの併用）

6. 調査時期 平成26年12月5日～平成27年1月16日

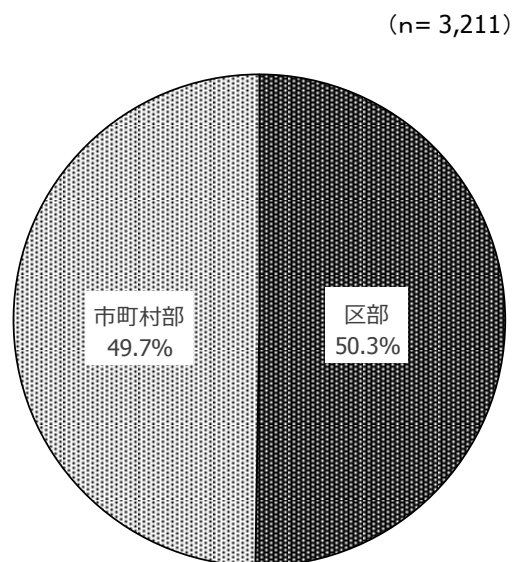
（5）今回の調査は、あくまで未婚者のみのサンプルに基づいた集計であるため、年齢が高くなるほど結婚した人が集計対象から外れていくことに注意する必要がある。

Ⅱ 調査回答者の属性

1 居住地域区分

問1 現在お住まいの区市町村（単数回答）

居住地域区分は、区部が50.3%、市町村部が49.7%となっている。

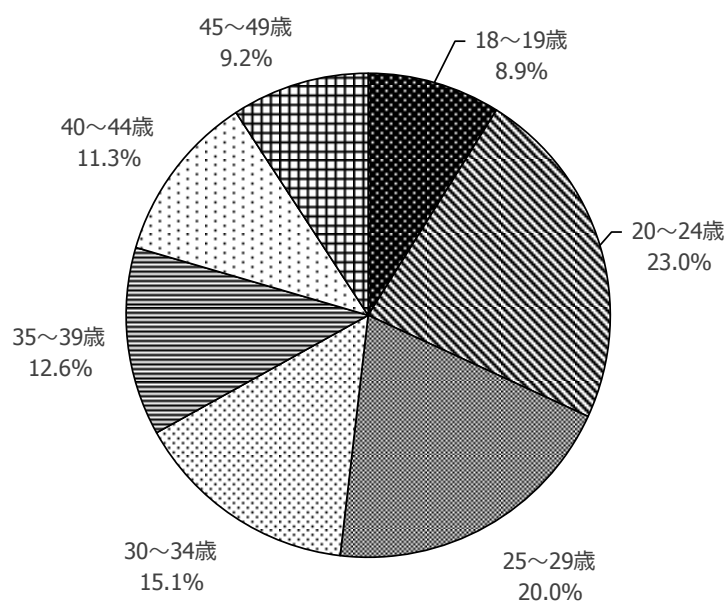


2 年齢

問2 現在のあなたの年齢（単数回答）

回答者の年代は、「20～24歳」の割合が23.0%で最も高く、次いで「25～29歳」が20.0%、「30～34歳」が15.1%と続いている。

(n = 3,211)

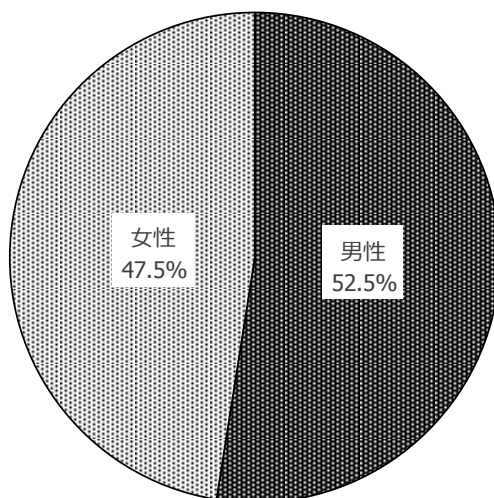


3 性別

問4 あなたの性別（単数回答）

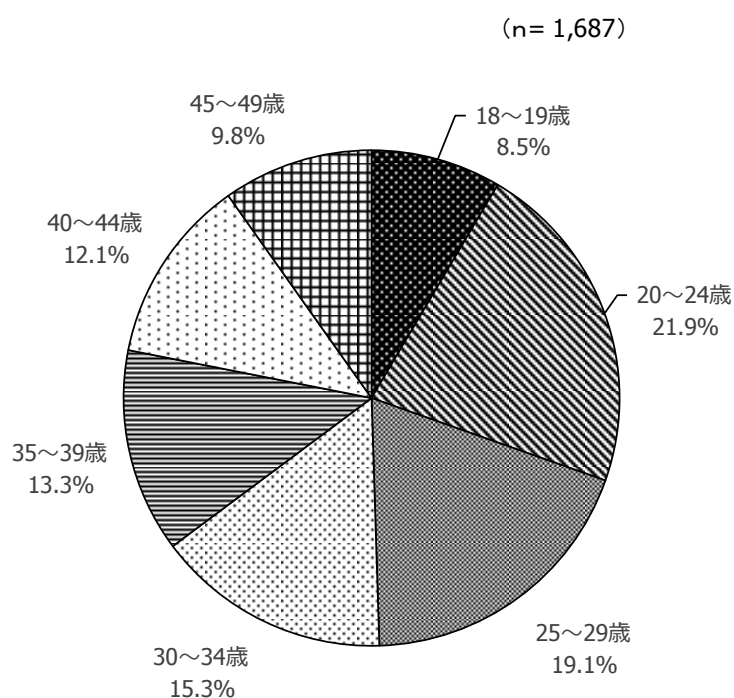
性別は、男性が52.5%、女性が47.5%となっている。

(n = 3,211)



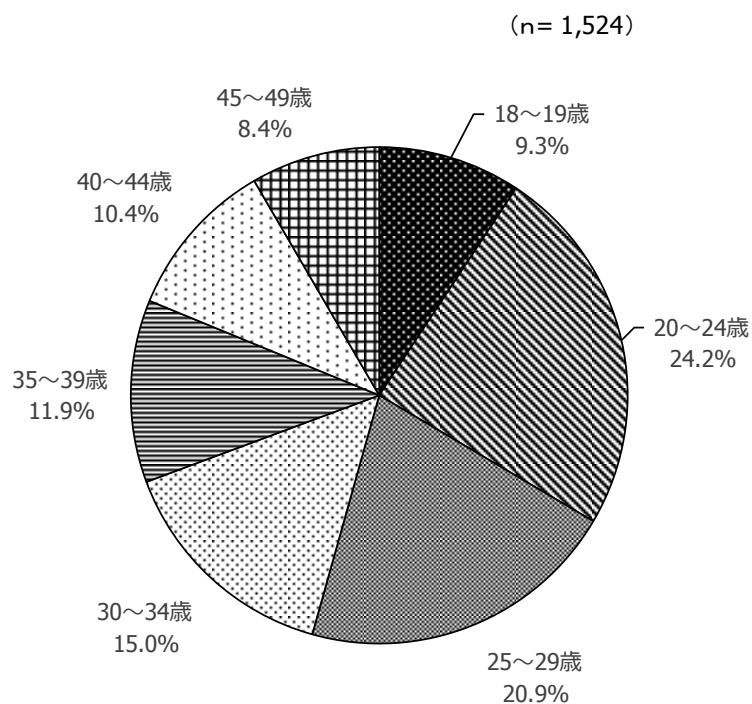
4 性別・年齢別（男性）

回答者のうち、男性の年齢は、「20～24歳」の割合が21.9%で最も高く、次いで「25～29歳」が19.1%となっている。



5 性別・年齢別（女性）

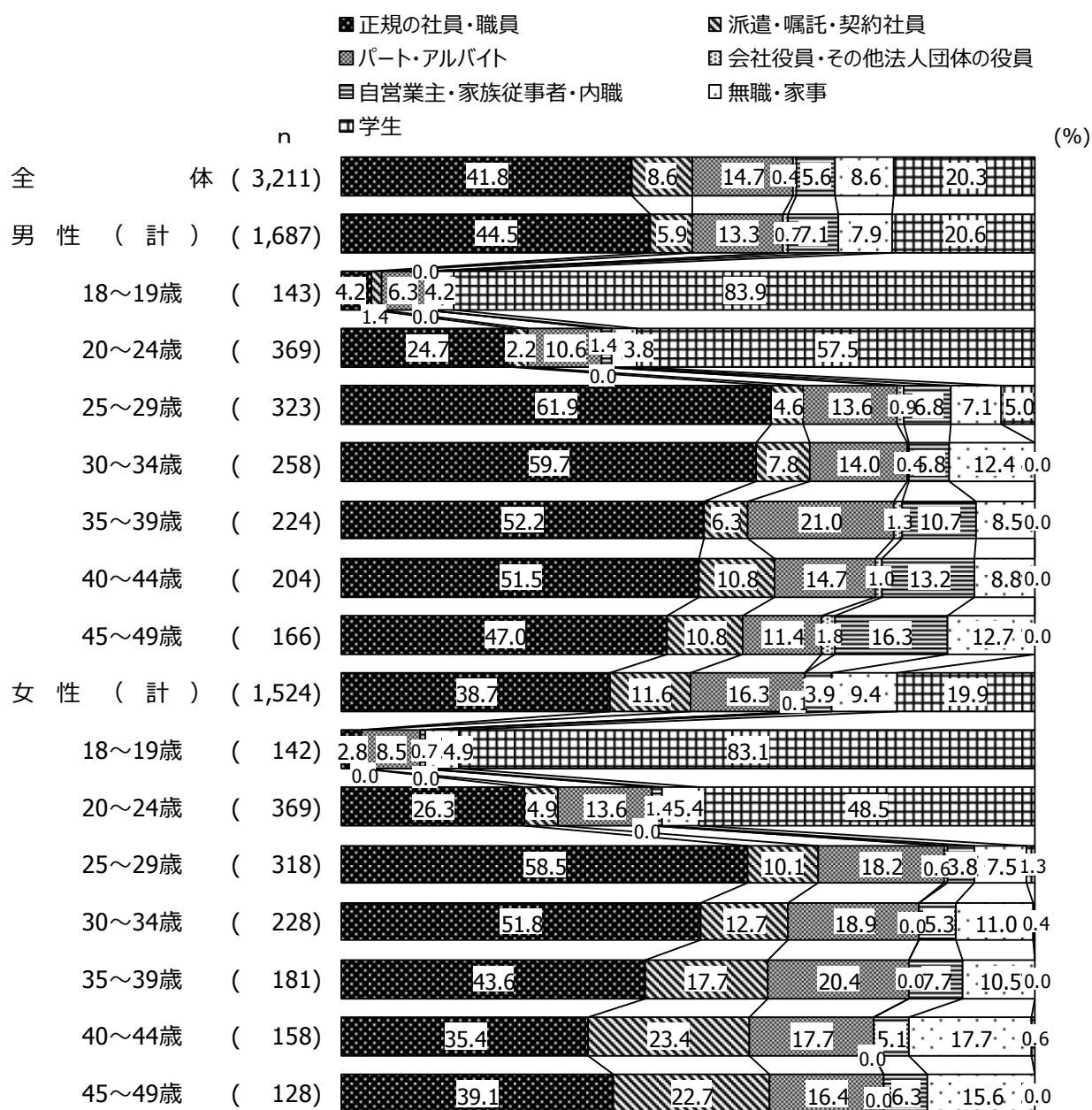
回答者のうち、女性の年齢は、「20～24歳」の割合が24.2%で最も高く、次いで「25～29歳」が20.9%となっている。



6 雇用形態

問5 あなたの雇用形態（単数回答）

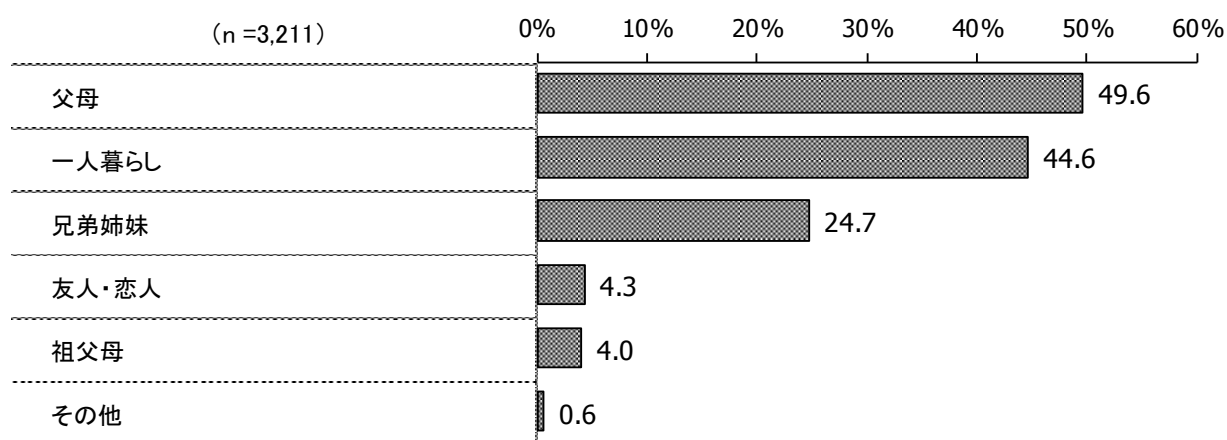
全体では、「正規の社員・職員」が41.8%で最も高く、次いで「学生」が20.3%、「パート・アルバイト」が14.7%、「派遣・嘱託・契約社員」と「無職・家事」が同率で8.6%、「自営業主・家族従業者・内職」が5.6%、「会社役員・その他法人団体の役員」が0.4%となっている。



7 同居している世帯の構成

問6 あなたと同居している世帯の構成（複数回答）

全体では、「父母」が49.6%で最も高く、次いで「一人暮らし」が44.6%、「兄弟姉妹」が24.7%などとなっている。



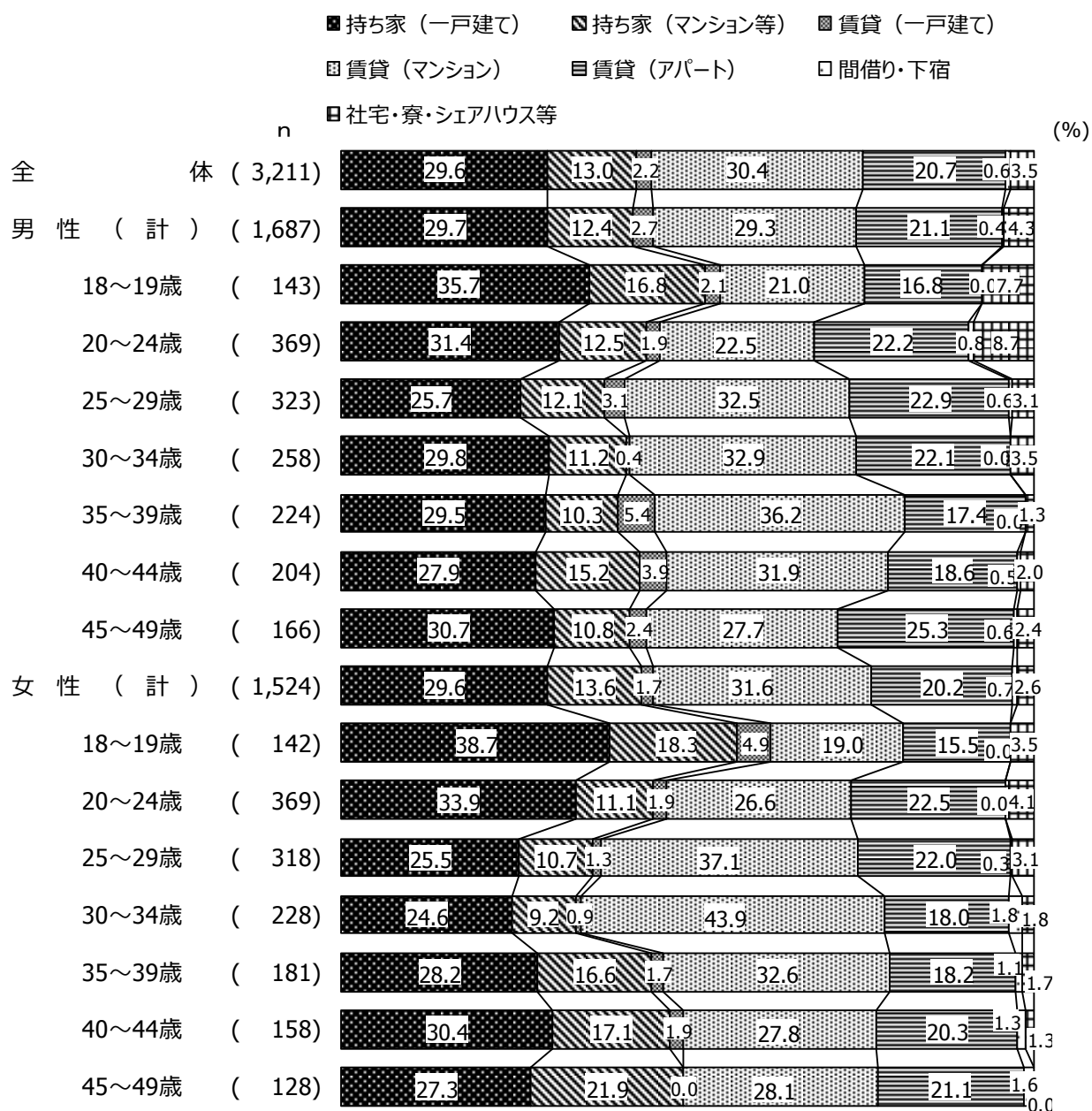
	n	一人暮らし	父母	祖父母	兄弟姉妹	友人・恋人	その他	(%)
男性（計）	1,687	47.6	49.6	4.3	24.4	2.1	0.4	
18～19歳	143	25.9	72.7	10.5	46.9	-	1.4	
20～24歳	369	39.0	58.0	7.6	34.7	2.4	0.3	
25～29歳	323	53.9	42.4	4.6	26.0	1.9	0.3	
30～34歳	258	52.3	43.4	3.9	17.8	4.3	0.4	
35～39歳	224	50.0	48.7	1.8	17.9	1.3	-	
40～44歳	204	52.5	45.6	0.5	14.7	1.5	1.0	
45～49歳	166	56.6	41.0	-	10.2	2.4	-	
女性（計）	1,524	41.2	49.5	3.7	25.0	6.6	0.8	
18～19歳	142	17.6	76.1	9.9	57.0	2.8	0.7	
20～24歳	369	35.2	53.7	6.0	34.7	8.9	0.5	
25～29歳	318	43.1	43.7	2.5	20.8	10.1	-	
30～34歳	228	50.9	42.1	3.9	15.8	5.7	1.8	
35～39歳	181	49.7	44.8	1.1	14.9	4.4	0.6	
40～44歳	158	43.0	48.7	1.3	19.0	3.8	0.6	
45～49歳	128	48.4	43.8	-	10.2	3.9	2.3	

※網掛け部分が濃くなるほど割合が高くなることを表す

8 居住形態

問7 あなたの住居形態（単数回答）

全体では、「賃貸（マンション）」の割合が30.4%で最も高く、次いで「持ち家（一戸建て）」が29.6%、「賃貸（アパート）」が20.7%、「持ち家（マンション等）」が13.0%などとなっている。



Ⅲ 調査結果

1 結婚することの利点

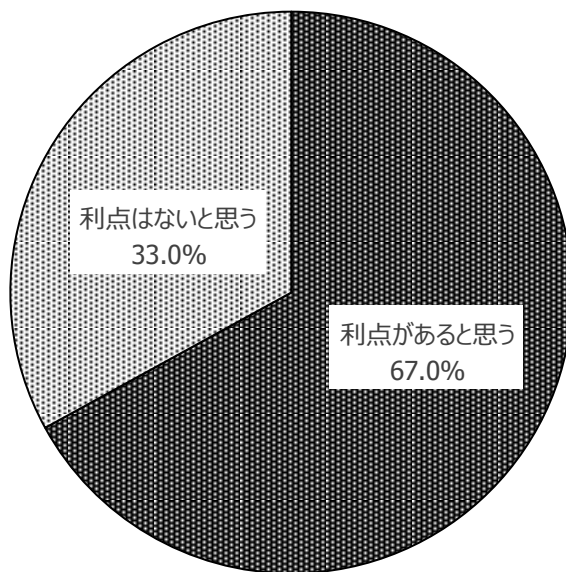
問8 今のあなたにとって、結婚することには何か利点があると思いますか。(単数回答)

【結婚することの利点の例】

経済的に余裕が持てる／社会的信用を得たり、周囲と対等になれる／精神的な安らぎの場が得られる／現在愛情を感じている人と暮らせる／自分の子供や家族を持てる／生活上便利になる／親から独立できる／親を安心させたり、周囲の期待にこたえられるなど

今のあなたにとって、結婚することには何か利点があるか否かについては、「利点があると思う」は67.0%と全体の約2/3を占め、一方、「利点はないと思う」は33.0%となっている。

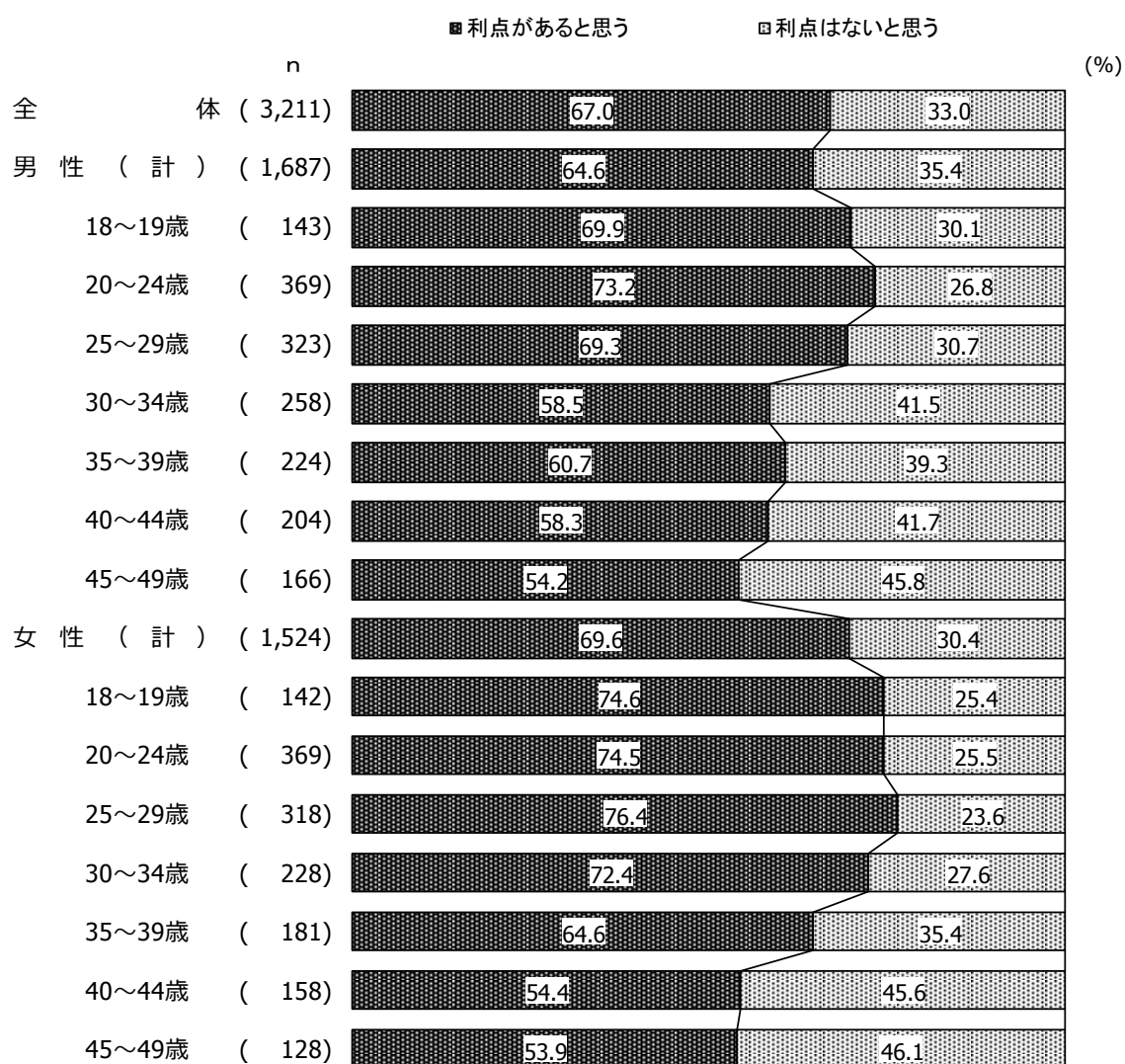
(n= 3,211)



【性別・年齢別】

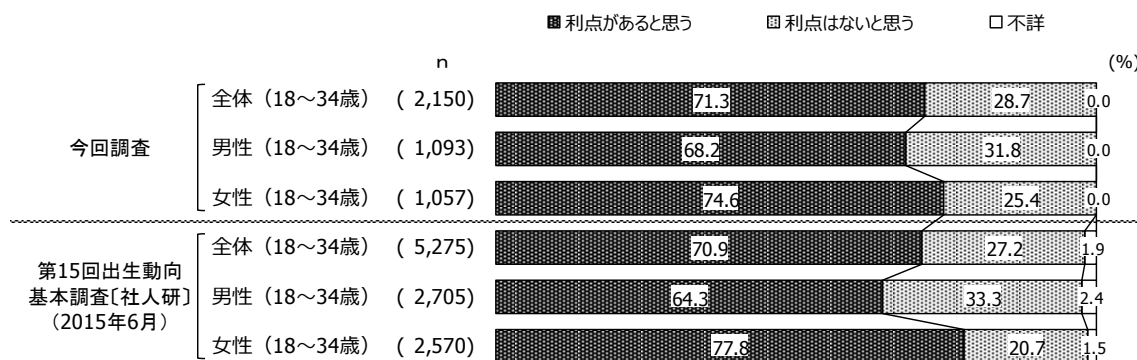
性別でみると、「利点があると思う」の割合は男性（計）が64.6%、女性（計）が69.6%となっており、女性のほうが男性よりも高くなっている。

性別・年齢別では、男性の20～24歳と女性の18～34歳で「利点があると思う」の割合が7割を超えている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「利点があると思う」の割合は全体で71.3%、第15回出生動向基本調査の「利点があると思う」の割合は全体で70.9%となっており、大きな差はみられない。

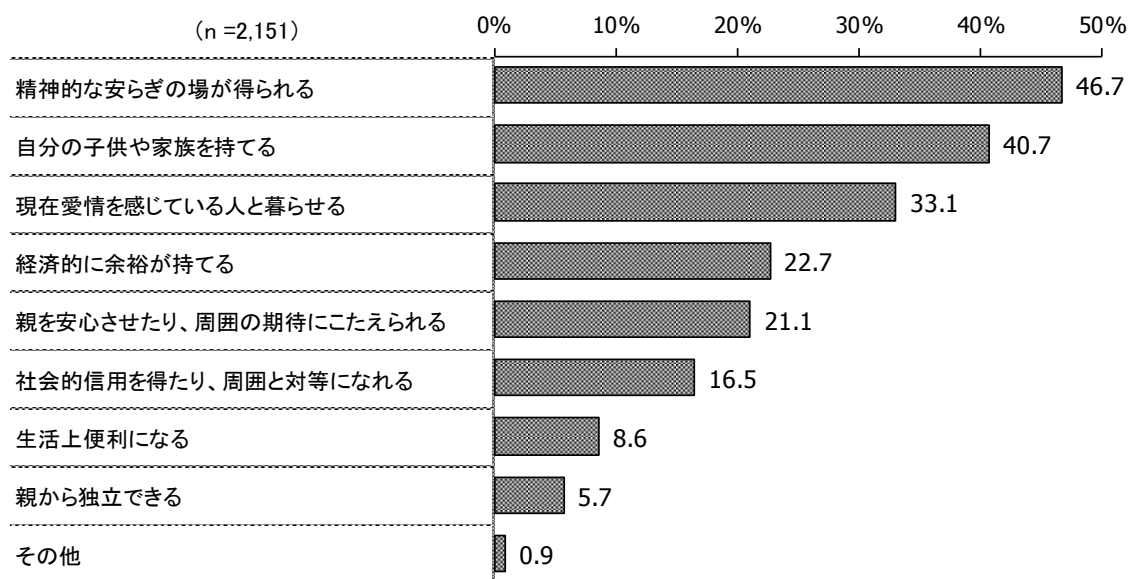


2 結婚することの具体的な利点

問9 前問で「利点があると思う」にチェックをつけた方は、次の中から具体的な利点を2つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の利点】【第2の利点】それぞれ1つずつ）

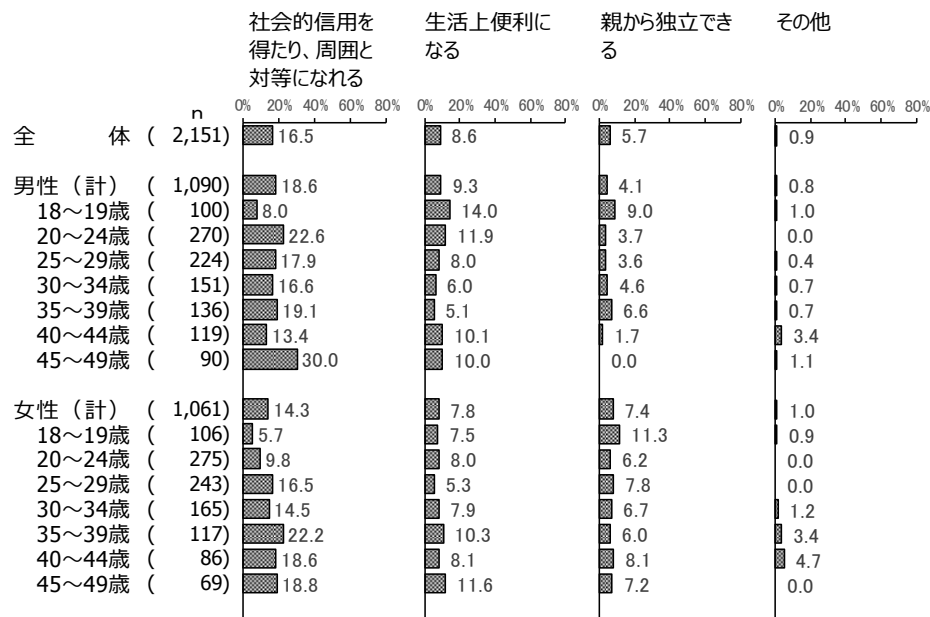
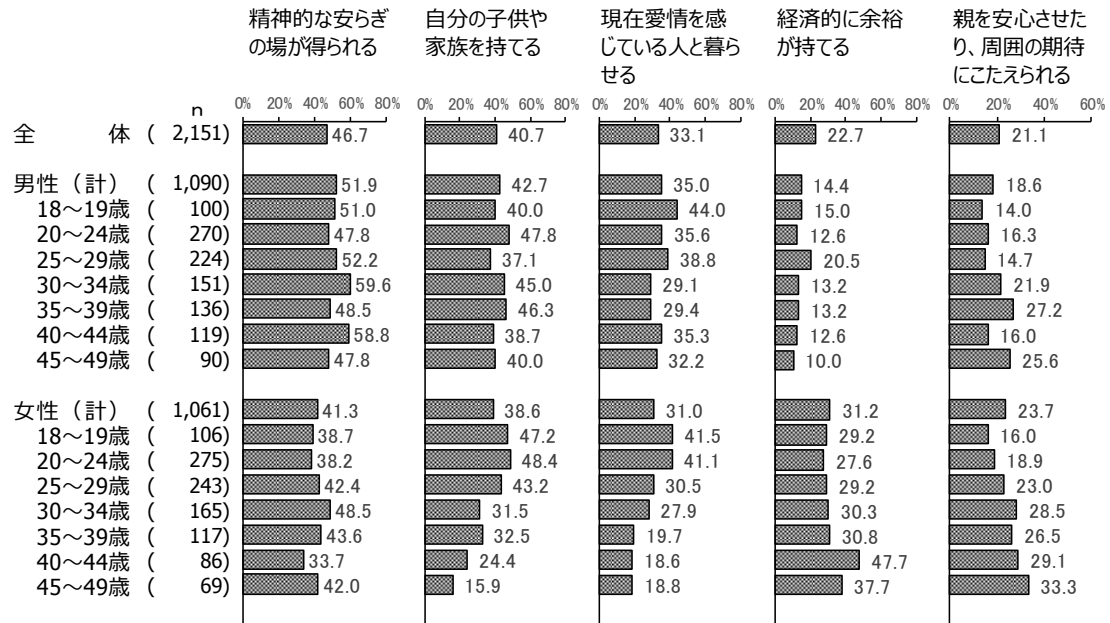
結婚することの具体的な利点については、「精神的な安らぎの場が得られる」が46.7%で最も高く、次いで「自分の子供や家族を持てる」が40.7%、「現在愛情を感じている人と暮らせる」が33.1%、「経済的に余裕が持てる」が22.7%、「親を安心させたり、周囲の期待にこたえられる」が21.1%などと続いている。

【最大の利点と第2の利点の合計】



【性別・年齢別】

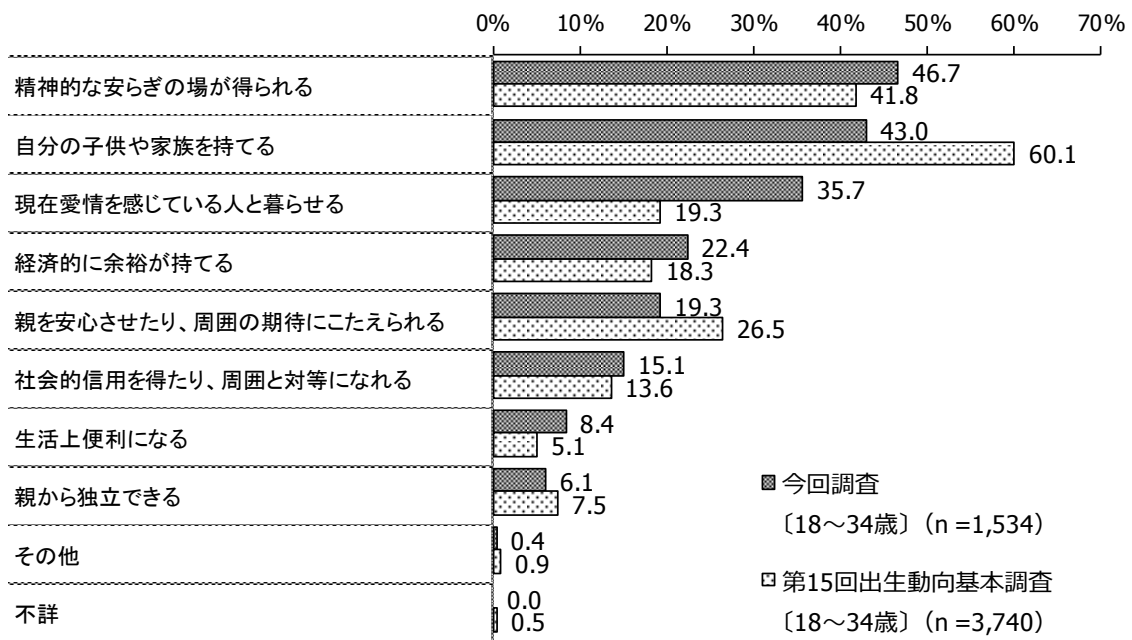
性別でみると、「精神的な安らぎの場が得られる」の割合は男性（計）が51.9%、女性（計）が41.3%となっており、男性のほうが女性よりも高くなっている。一方、「経済的に余裕が持てる」の割合は男性（計）が14.4%、女性（計）が31.2%となっており、女性のほうが男性よりも高くなっている。



【国の調査との比較】

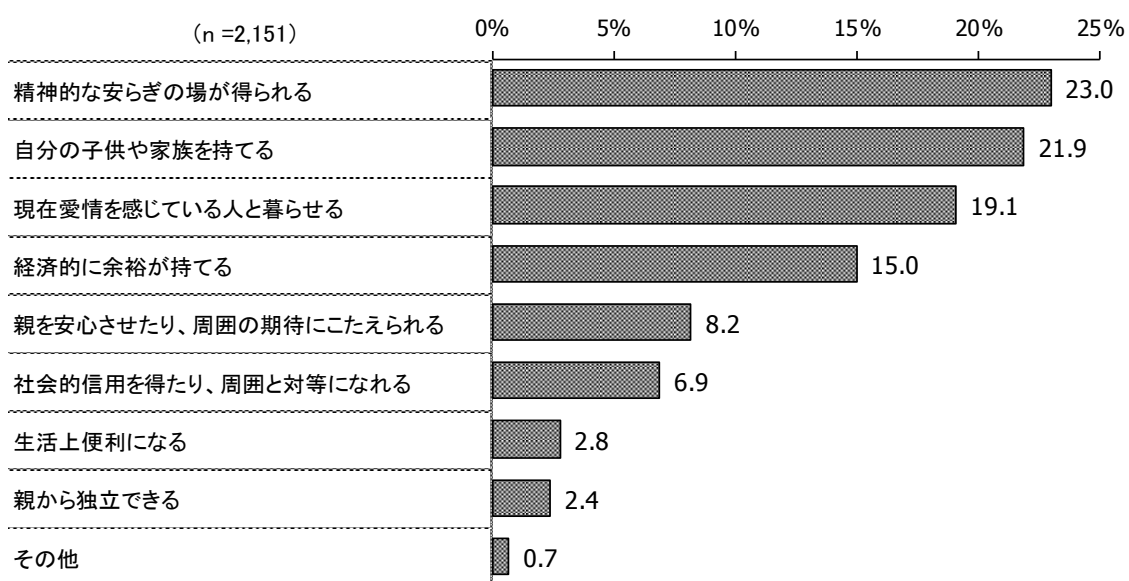
国の調査と比較してみると、「自分の子供や家族を持てる」の割合は今回調査では43.0%、第15回出生動向基本調査では60.1%となっており、今回調査より第15回出生動向基本調査のほうが17.1ポイント高くなっている。一方、「現在愛情を感じている人と暮らせる」の割合は今回調査では35.7%、第15回出生動向基本調査では19.3%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査より16.4ポイント高くなっている。

【最大の利点と第2の利点の合計】



結婚することの最大の利点については、「精神的な安らぎの場が得られる」が23.0%で最も高く、次いで「自分の子供や家族を持てる」が21.9%、「現在愛情を感じている人と暮らせる」が19.1%、「経済的に余裕が持てる」が15.0%、「親を安心させたり、周囲の期待にこたえられる」が8.2%などと続いている。

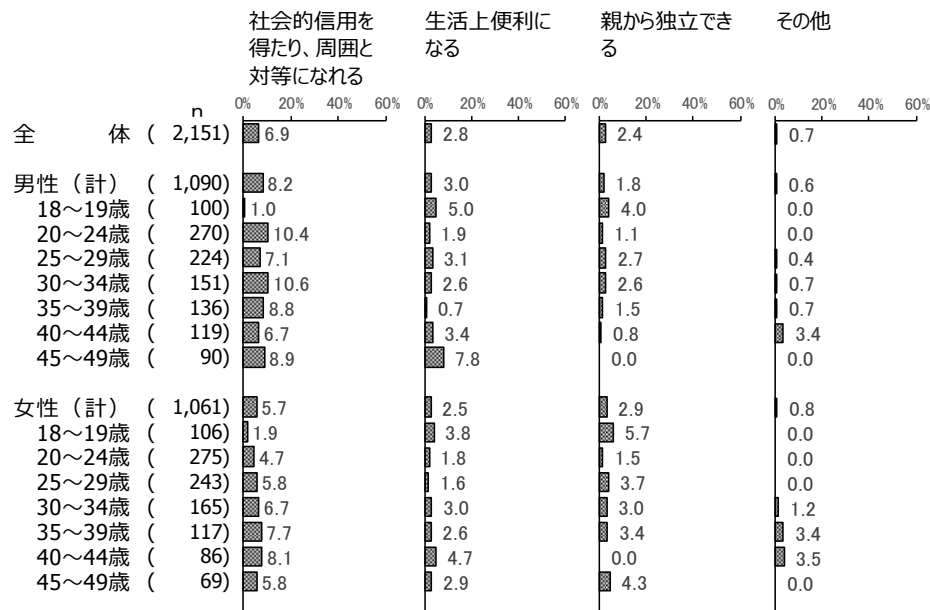
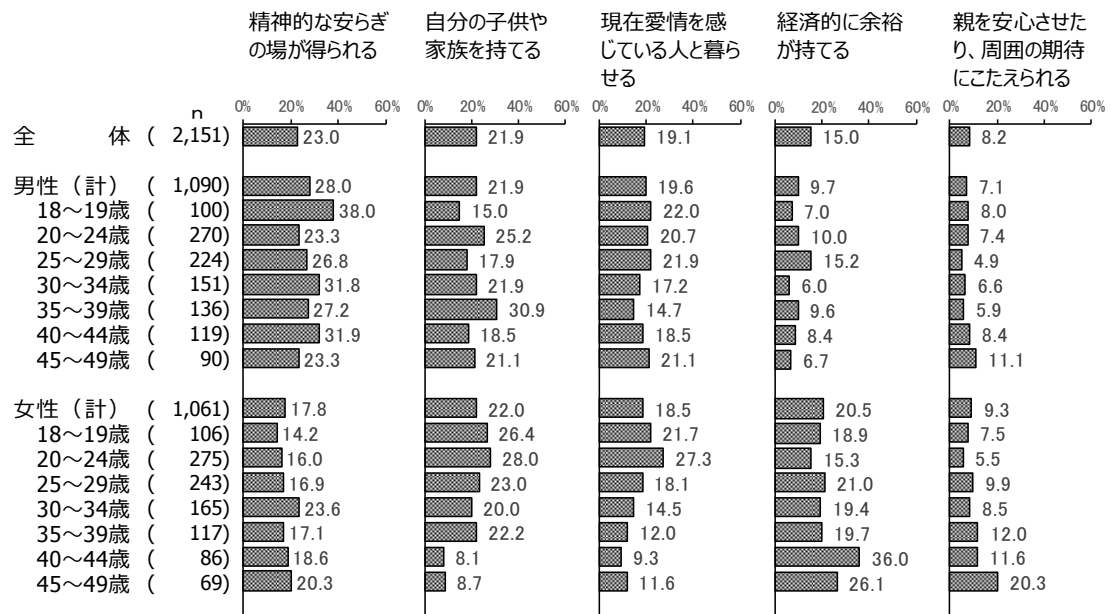
【最大の利点】



【性別・年齢別】

性別でみると、「経済的に余裕が持てる」の割合は男性（計）が9.7%、女性（計）が20.5%となっており、女性のほうが男性よりも10.8ポイント高くなっている。一方、「精神的な安らぎの場が得られる」の割合は男性（計）が28.0%、女性（計）が17.8%となっており、男性のほうが女性よりも10.2ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、女性の40～44歳では「経済的に余裕が持てる」の割合が36.0%と、他の性別・年齢層と比べて高くなっている。



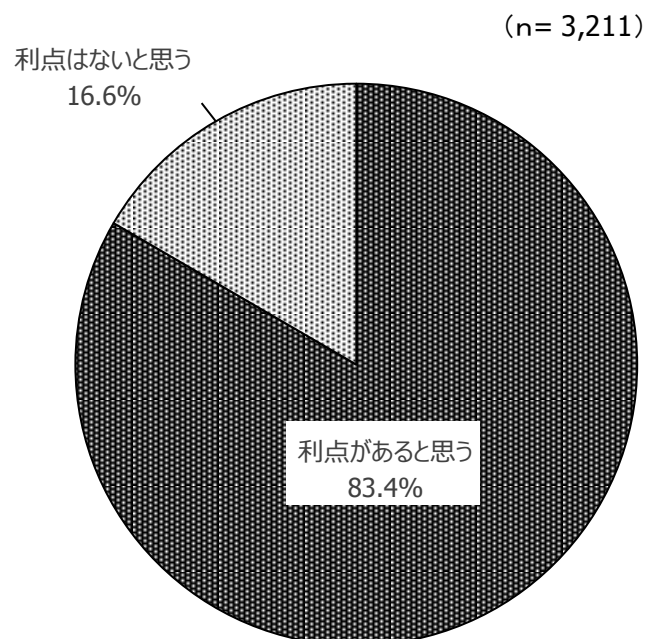
3 独身でいることの利点

問10 逆に、今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。（単数回答）

【独身生活にあり、結婚生活にはない利点の例】

行動や生き方が自由／異性との交際が自由／金銭的に裕福／住宅や環境の選択の幅が広い／
家族を養う責任がなく、気楽／友人などとの広い人間関係が保ちやすい／職業を持ち、社会と
のつながりが保てる／現在の家族とのつながりが保てるなど

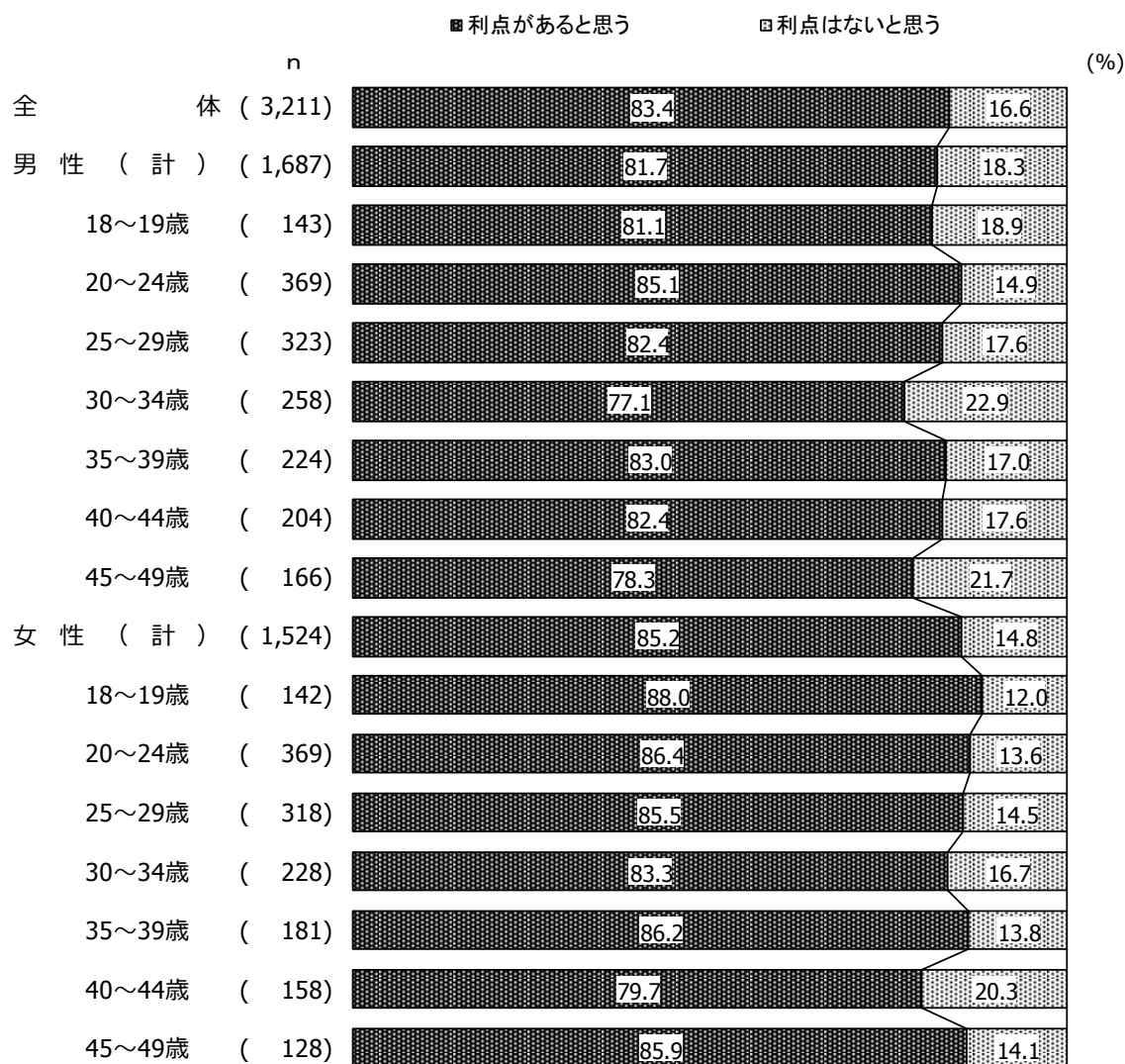
今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があるか否かについては、「利点があると思う」は83.4%と8割を超え、一方、「利点はないと思う」は16.6%となっている。



【性別・年齢別】

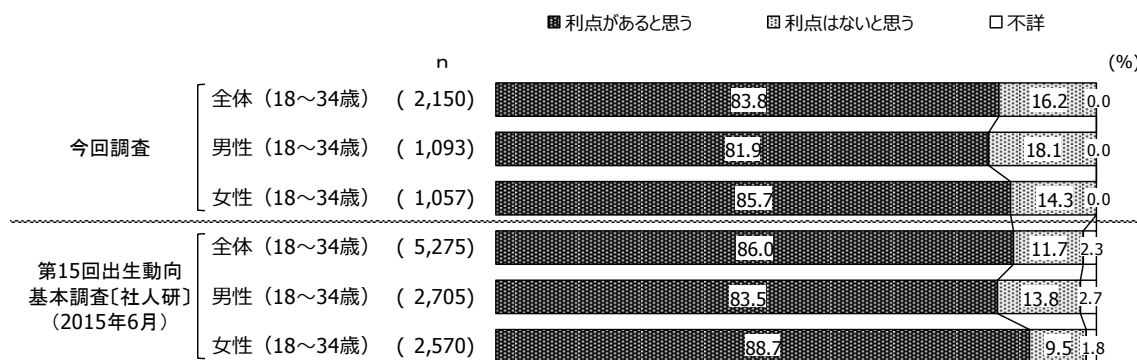
性別でみると、「利点があると思う」の割合は男性（計）が81.7%、女性（計）が85.2%となっており、女性のほうが男性よりも高くなっている。

性別・年齢別でみると、男性の30～34歳と45～49歳、女性の40～44歳で「利点があると思う」の割合が8割を下回り低くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「利点があると思う」の割合は全体で83.8%、第15回出生動向基本調査の「利点があると思う」の割合は全体で86.0%となっており、大きな差はみられない。

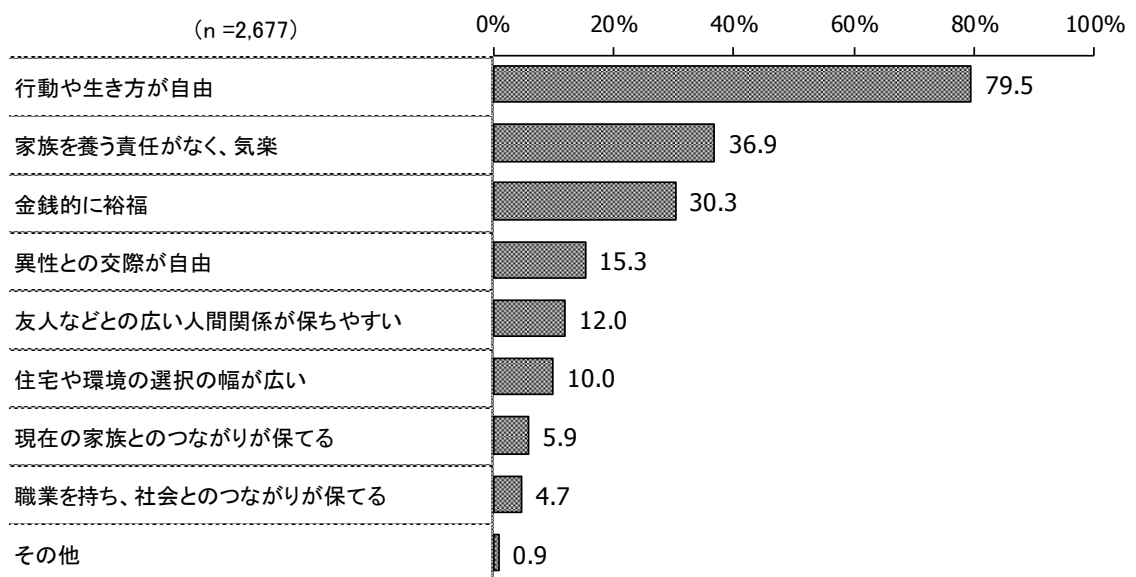


4 独身でいることの具体的な利点

問11 前問で「利点があると思う」にチェックをつけた方は、次の中から具体的な利点を2つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の利点】【第2の利点】それぞれ1つずつ）

独身でいることの具体的な利点については、「行動や生き方が自由」が79.5%で最も高く、次いで「家族を養う責任がなく、気楽」が36.9%、「金銭的に裕福」が30.3%、「異性との交際が自由」が15.3%、「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」が12.0%などと続いている。

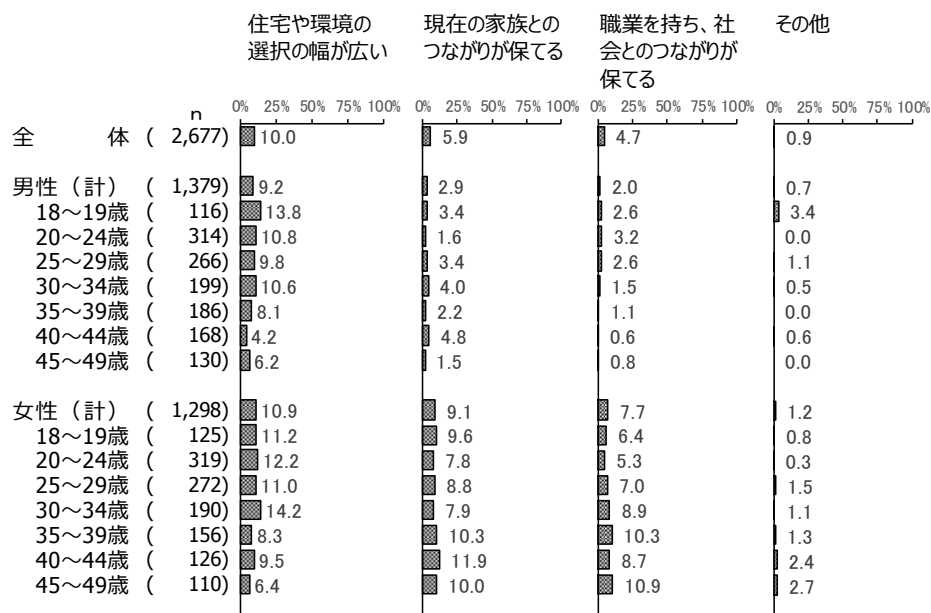
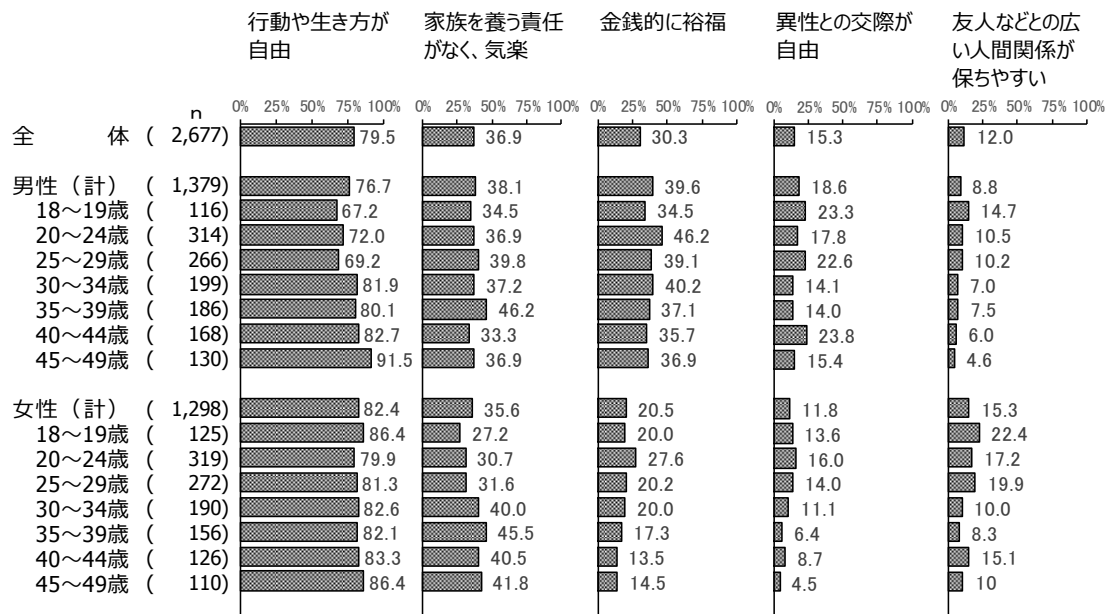
【最大の利点と第2の利点の合計】



【性別・年齢別】

性別でみると、「金銭的に裕福」の割合は男性（計）が39.6%、女性（計）が20.5%となっており、男性のほうが女性よりも高くなっている。一方、「行動や生き方が自由」の割合は男性（計）が76.7%、女性（計）が82.4%となっており、女性のほうが男性よりも高くなっている。

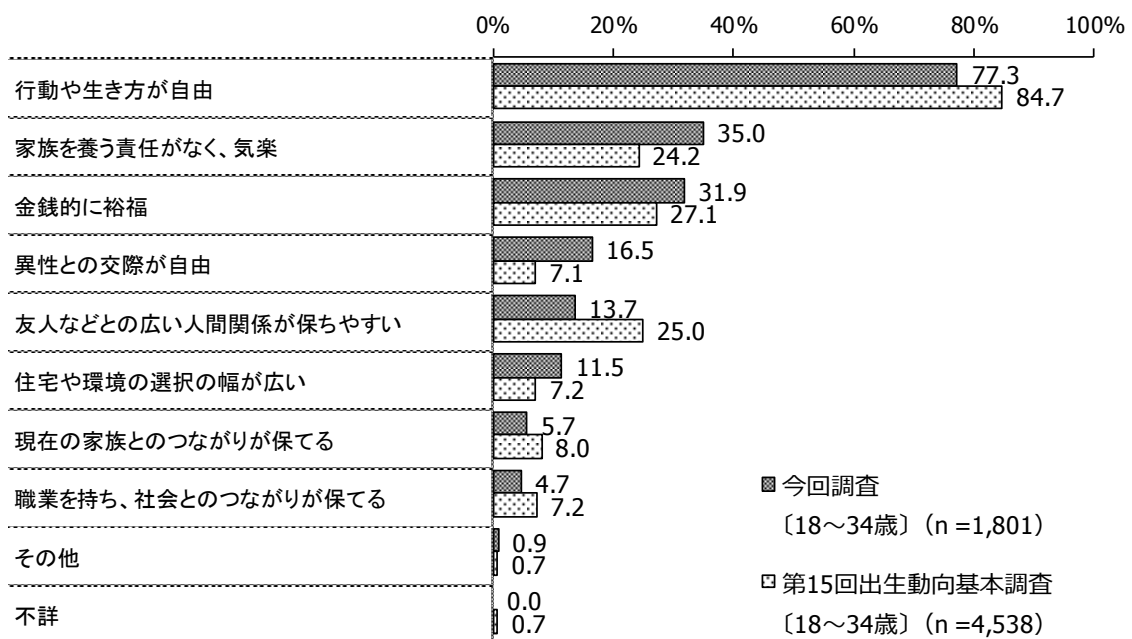
性別・年齢別でみると、「行動や生き方が自由」の割合は、女性ではどの年齢層も約8割～8割半ばとなっており、男性では年齢層が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。



【国の調査との比較】

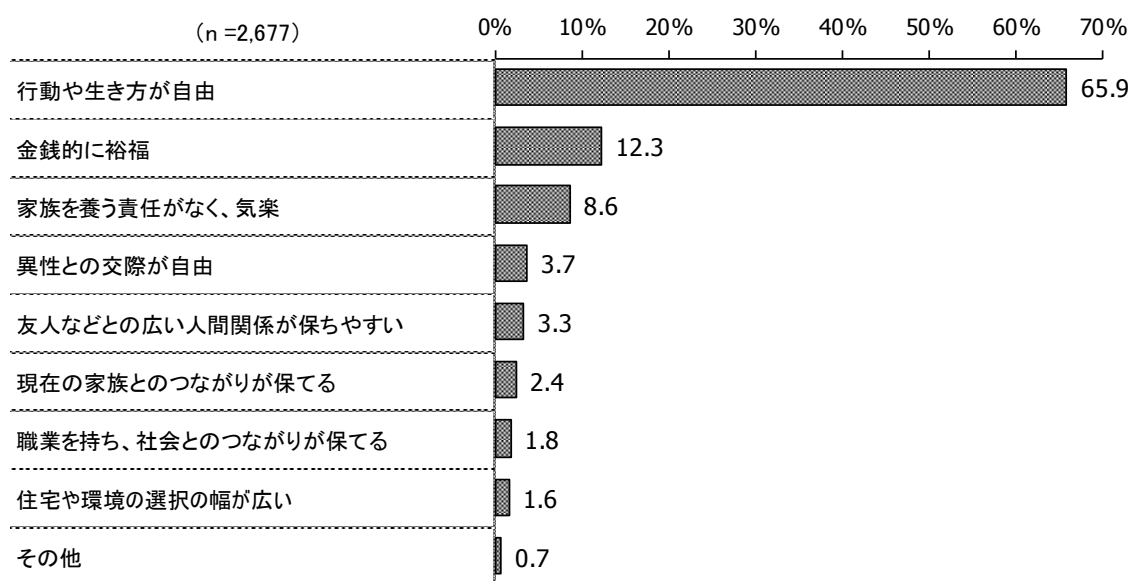
国の調査と比較してみると、「行動や生き方が自由」の割合は今回調査では77.3%、第15回出生動向基本調査では84.7%となっており、今回調査と比べて第15回出生動向基本調査のほうが7.4ポイント高くなっている。一方、今回調査で2番目に高かった「家族を養う責任がなく、気楽」の割合は35.0%、第15回出生動向基本調査では24.2%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査より10.8ポイント高くなっている。

【最大の利点と第2の利点の合計】



独身でいることの最大の利点については、「行動や生き方が自由」が65.9%で最も高く、次いで「金銭的に裕福」が12.3%、「家族を養う責任がなく、気楽」が8.6%などと続いている。

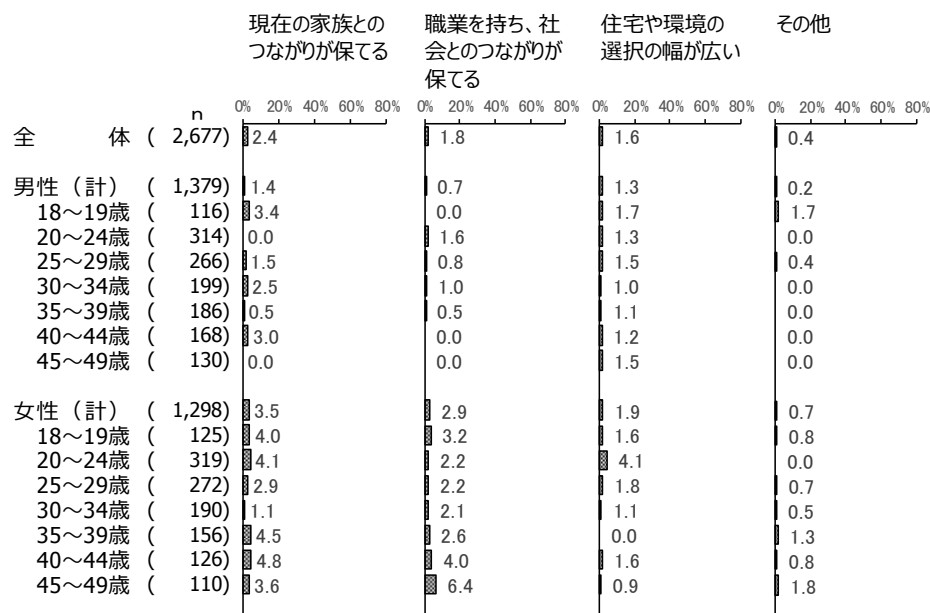
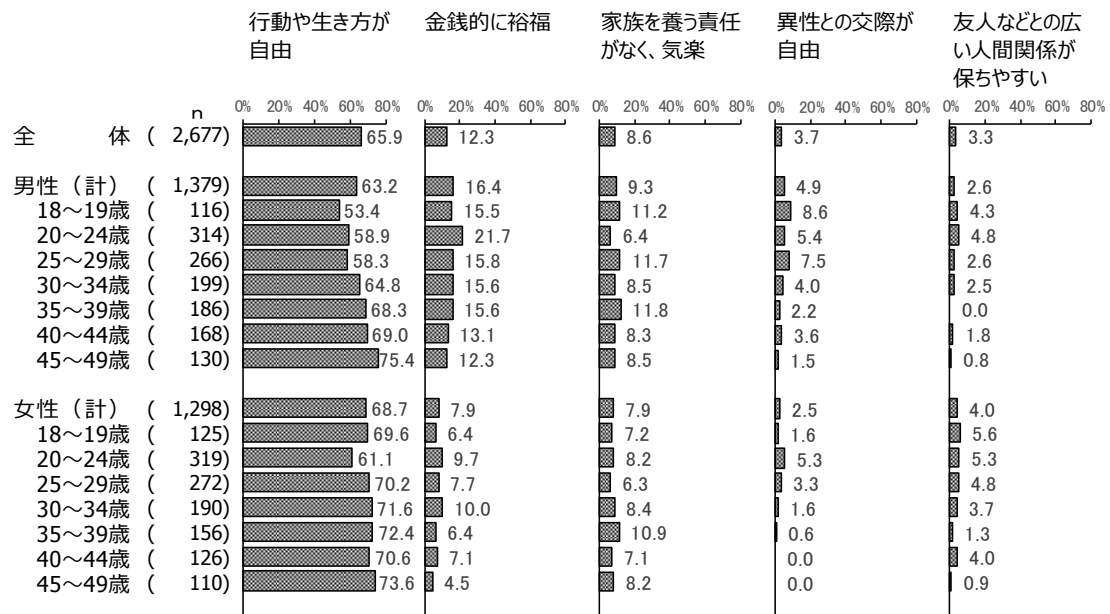
【最大の利点】



【性別・年齢別】

性別でみると、「行動や生き方が自由」の割合は男性（計）が63.2%、女性（計）が68.7%となっており、女性のほうが男性よりも5.5ポイント高くなっている。一方、「金銭的に裕福」の割合は男性（計）が16.4%、女性（計）が7.9%となっており、男性のほうが女性よりも8.5ポイント高くなっている。

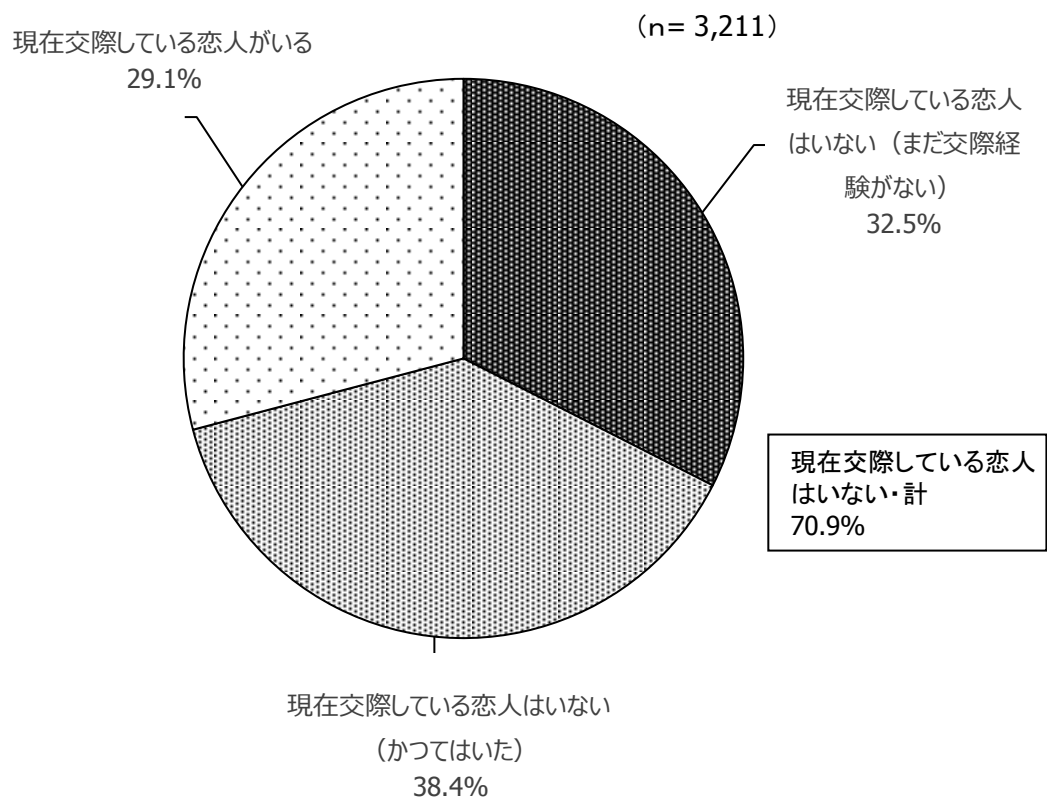
性別・年齢別でみると、「行動や生き方が自由」の割合は、男性では年齢層が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。



5 恋人との交際状況

問12 恋人の方との交際状況についておたずねします。次のうち、あなたにあてはまるものをお選びください。(単数回答)

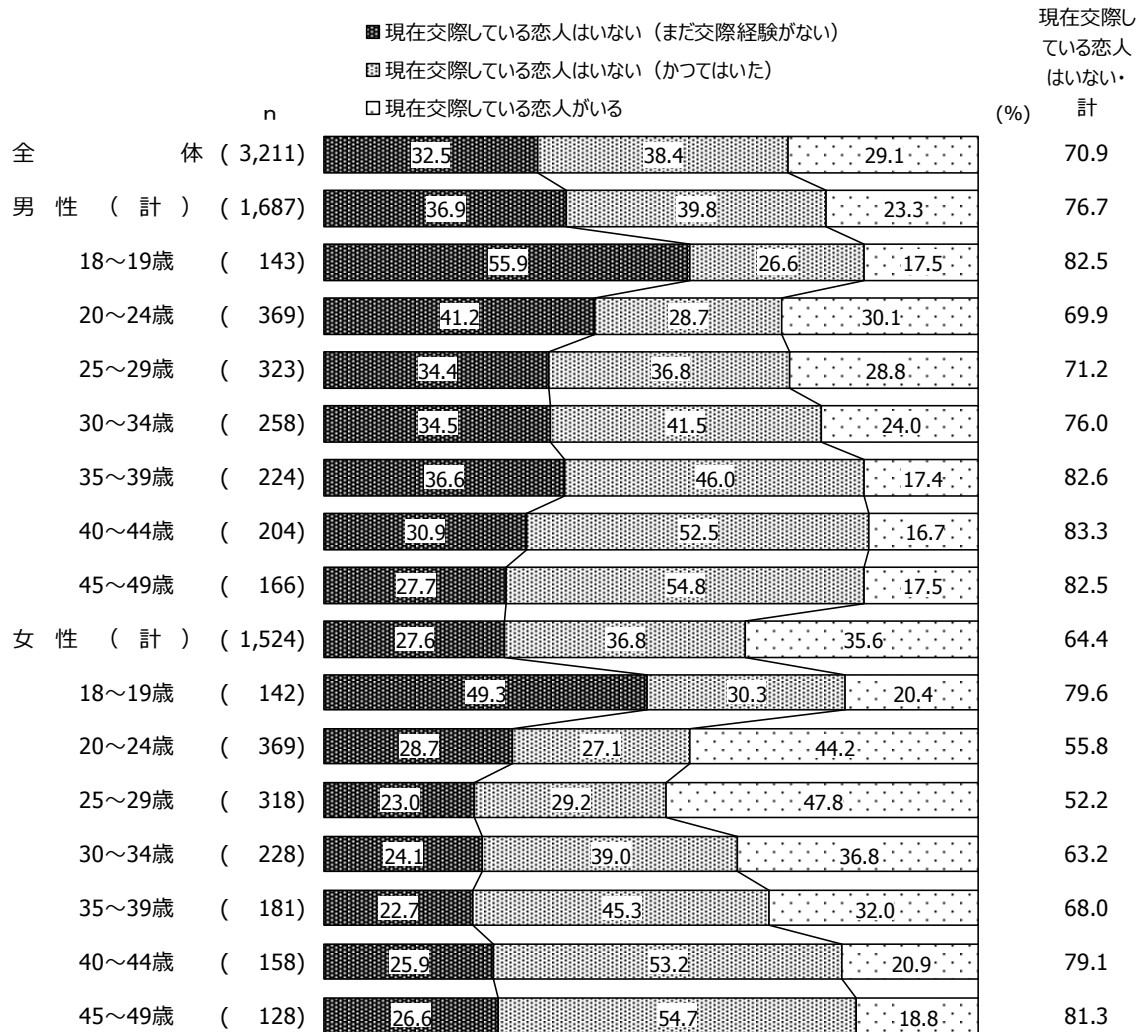
恋人との交際状況は、「現在交際している恋人はいない（かつてはいた）」が38.4%、「現在交際している恋人はいない（まだ交際経験がない）」が32.5%、「現在交際している恋人がいる」が29.1%となっており、「現在交際している恋人はいない（かつてはいた）」と「現在交際している恋人はいない（まだ交際経験がない）」を合わせた“現在交際している恋人はいない・計”は70.9%となっている。



【性別・年齢別】

性別でみると、「現在交際している恋人はいない（まだ交際経験がない）」の割合は男性（計）が36.9%、女性（計）が27.6%となっており、男性のほうが女性よりも9.3ポイント高くなっている。

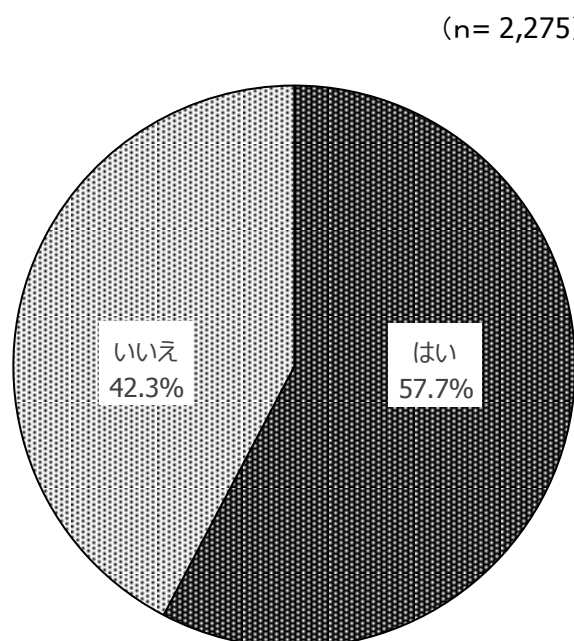
性別・年齢別でみると、性別に関係なく「現在交際している恋人はいない（まだ交際経験がない）」の割合は、18～19歳で高くなっている。また、女性の20～29歳では、「現在交際している恋人がいる」の割合が4割を超えており、他の性別・年齢層より高くなっている。



6 恋人が欲しいか否かの状況

問13 あなたは今、恋人が欲しいですか。あてはまるものをお選びください。(単数回答)

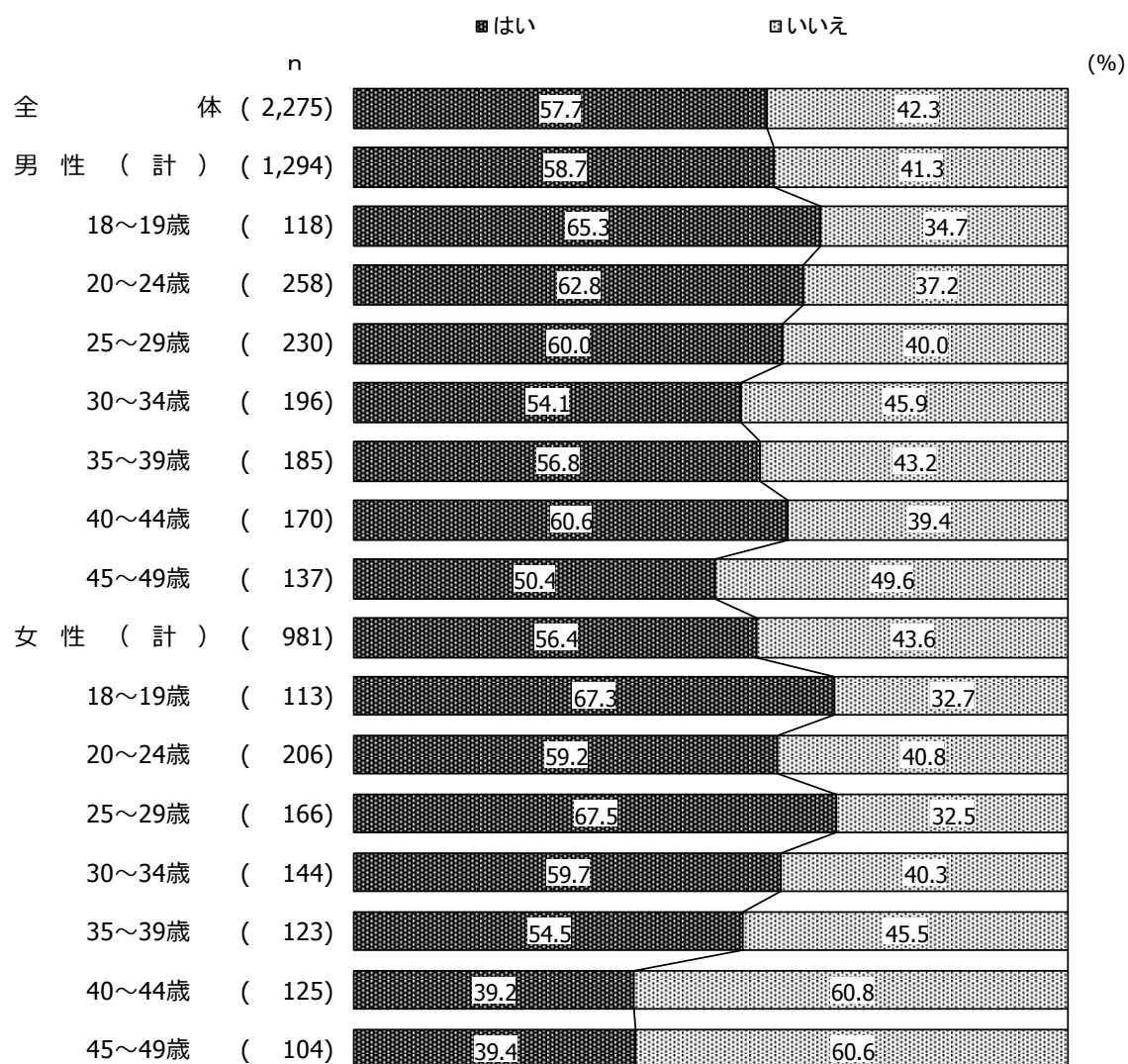
現在交際している恋人はいない人に、今、恋人が欲しいか聴取したところ、「はい」は57.7%、「いいえ」は42.3%となっている。



【性別・年齢別】

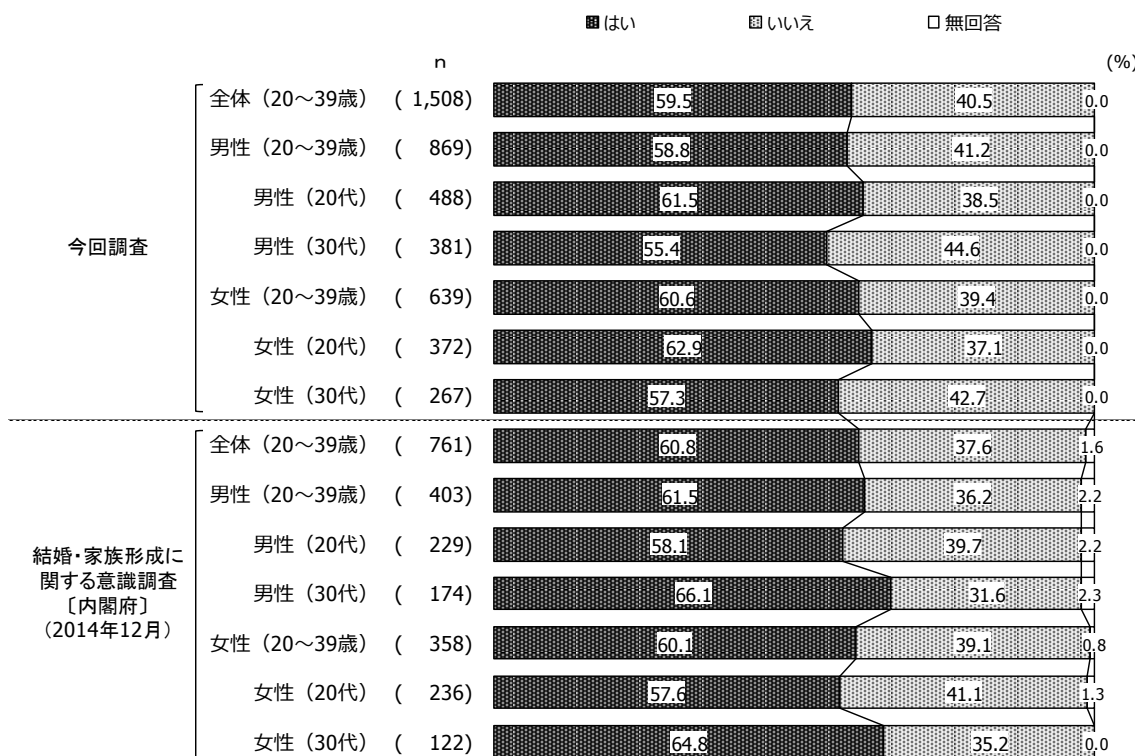
性別でみると、「はい」の割合は男性（計）が58.7%、女性（計）が56.4%となっており、大きな差はみられない。

性別・年齢別でみると、女性の40～49歳では、「いいえ」の割合が約6割となっており、他の性別・年齢層より高くなっている。



【国の調査との比較】

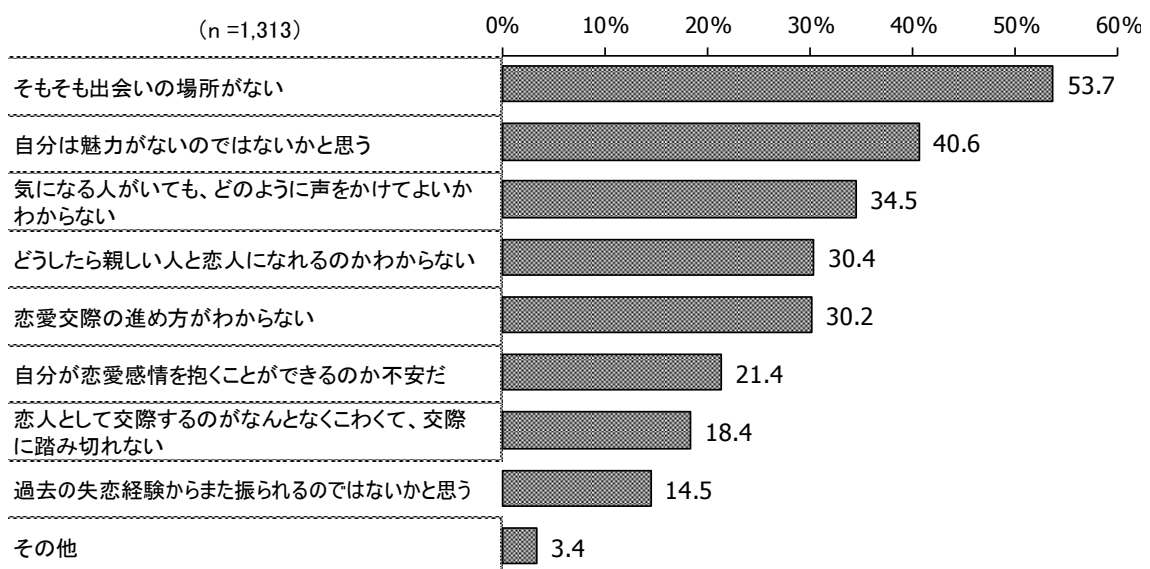
国の調査と比較してみると、今回調査の「はい」の割合は全体で59.5%、結婚・家族形成に関する意識調査の「はい」の割合は全体で60.8%となっており、大きな差はみられない。



7 恋人と交際する上での不安

問14 恋人として交際する上での不安は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。（複数回答）

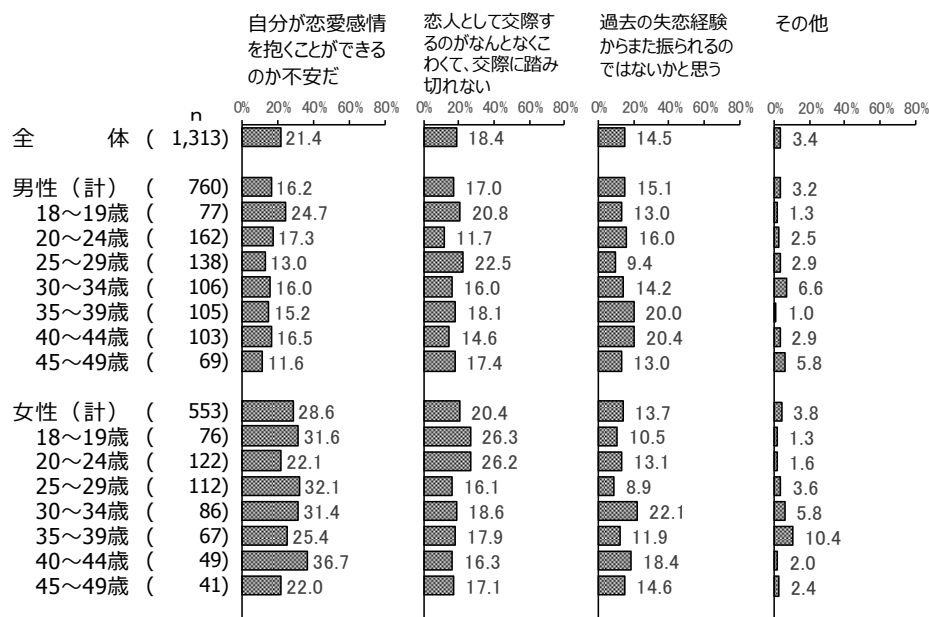
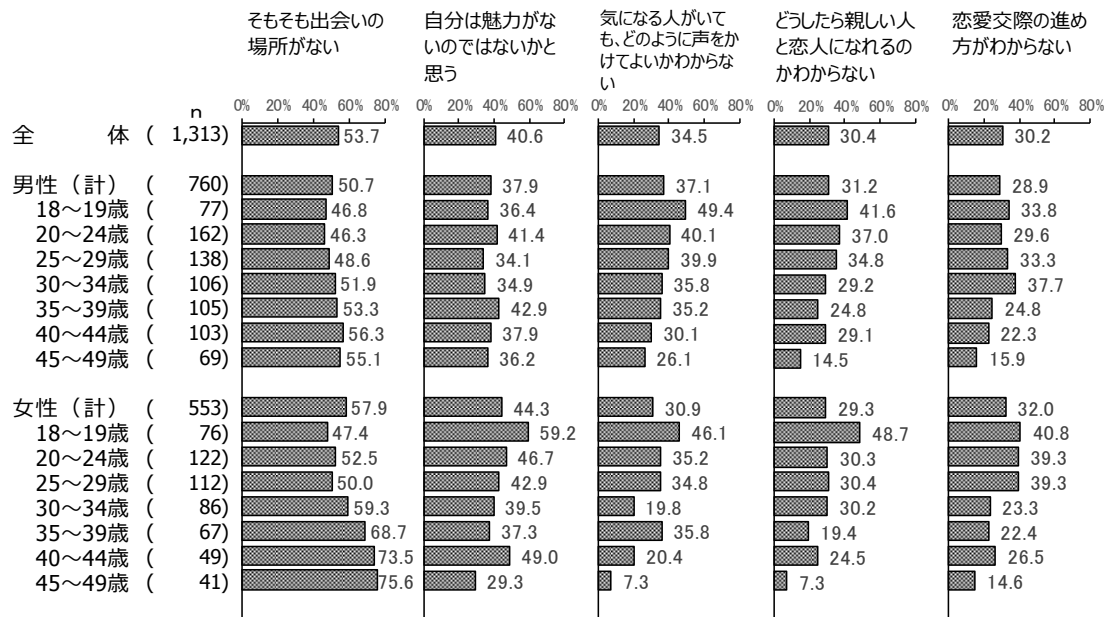
今、恋人が欲しいと回答した人に、恋人として交際する上での不安を聴取したところ、「そもそも出会いの場所がない」が53.7%で最も高く、次いで「自分は魅力がないのではないかと思う」が40.6%、「気になる人がいても、どのように声をかけてよいかわからない」が34.5%、「どうしたら親しい人と恋人になれるのかわからない」が30.4%、「恋愛交際の進め方がわからない」が30.2%などと続いている。



【性別・年齢別】

性別でみると、「そもそも出会いの場所がない」、「自分は魅力がないのではないかなと思う」の割合は、女性のほうが男性よりも高くなっている。一方、「気になる人がいても、どのように声をかけてよいかわからない」は男性のほうが女性よりも高くなっている。

性別・年齢別でみると、女性の35歳以上では「そもそも出会いの場所がない」の割合が高い。また、「気になる人がいても、どのように声をかけてよいかわからない」と「どうしたら親しい人と恋人になれるのかわからない」は、男女ともに18～19歳で高くなっている。



【国の調査との比較】

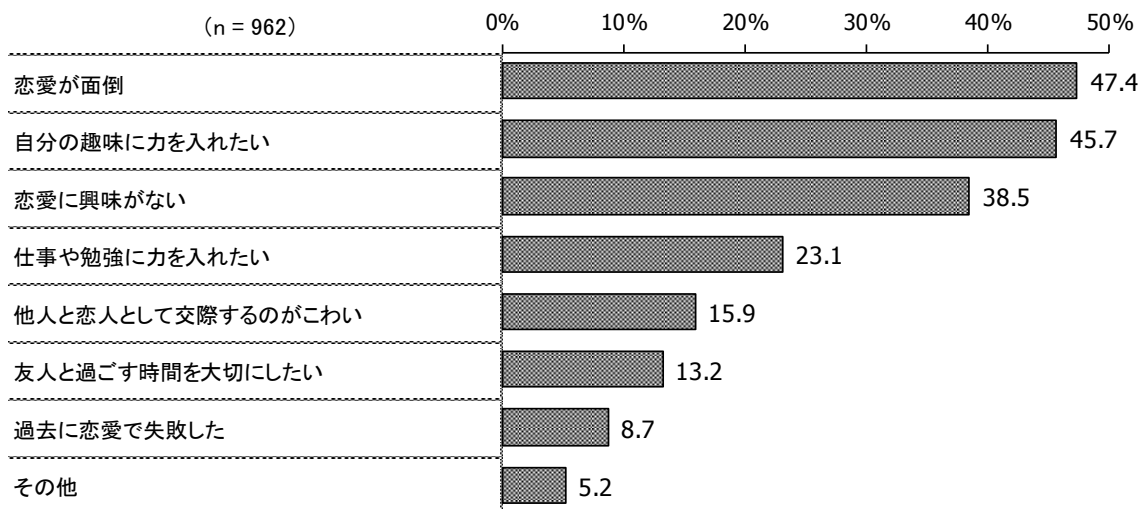
国の調査と比較してみると、全体（20～39歳）における「気になる人がいても、どのように声をかけてよいかわからない」、「どうしたら親しい人と恋人になれるのかかわからない」、「恋愛交際の進め方がわからない」の項目では、今回調査のほうが結婚・家族形成に関する意識調査と比べて10ポイント以上高くなっている。

		n	か わ か ら な い	気 に な る 人 が い て も よ い ど う に し て よ い か わ か ら な い	ど う し た ら 親 し い 人 と 恋 人 に な れ る の か わ か ら な い	恋 愛 交 際 の 進 め 方 が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い	恋 人 と な る こ ろ が わ か ら な い
今回調査	全体(20～39歳)	898	35.4	30.6	32.0	18.3	14.3	40.1	20.7	52.3	3.8	0.0		
	男性(20～39歳)	511	38.2	32.3	31.3	16.8	14.7	38.4	15.5	49.5	3.1	0.0		
	男性(20代)	300	40.0	36.0	31.3	16.7	13.0	38.0	15.3	47.3	2.7	0.0		
	男性(30代)	211	35.5	27.0	31.3	17.1	17.1	38.9	15.6	52.6	3.8	0.0		
	女性(20～39歳)	387	31.8	28.4	32.8	20.2	13.7	42.4	27.6	56.1	4.7	0.0		
	女性(20代)	234	35.0	30.3	39.3	21.4	11.1	44.9	26.9	51.3	2.6	0.0		
	女性(30代)	153	26.8	25.5	22.9	18.3	17.6	38.6	28.8	63.4	7.8	0.0		
結婚・家族形成に関する意識調査 〔内閣府〕 (2014年12月)	全体(20～39歳)	761	20.0	18.4	19.8	12.0	8.0	34.2	20.5	55.5	12.9	8.4		
	男性(20～39歳)	403	21.6	21.6	20.3	12.4	8.4	32.8	16.6	52.4	12.9	10.4		
	男性(20代)	229	22.7	24.0	20.5	14.4	7.0	33.2	14.4	51.1	10.5	11.8		
	男性(30代)	174	20.1	18.4	20.1	9.8	10.3	32.2	19.5	54.0	16.1	8.6		
	女性(20～39歳)	358	18.2	14.8	19.3	11.5	7.5	35.8	24.9	58.9	12.8	6.1		
	女性(20代)	236	18.6	14.8	19.5	11.4	5.5	39.0	23.7	60.6	12.7	6.4		
	女性(30代)	122	17.2	14.8	18.9	11.5	11.5	29.5	27.0	55.7	13.1	5.7		

8 恋人を欲しいと思わない理由

問15 今、恋人が欲しいと思わない理由を教えてください。あてはまるものを全てお選びください。(複数回答)

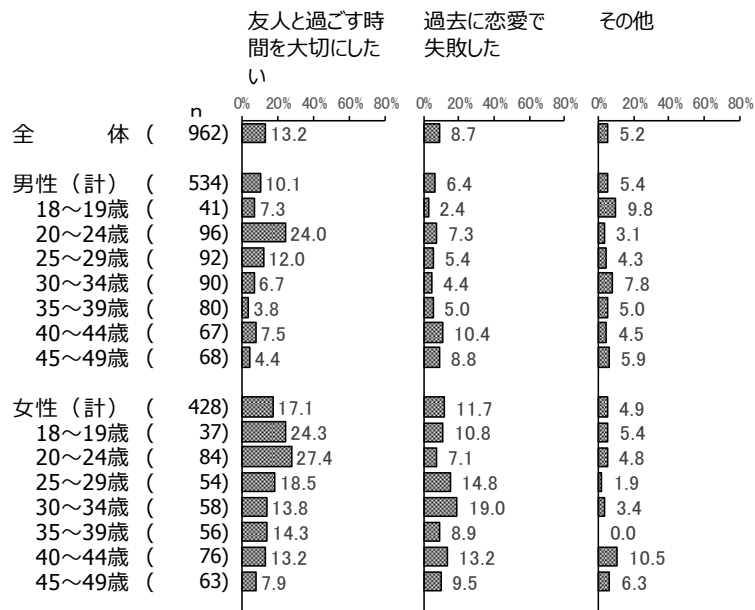
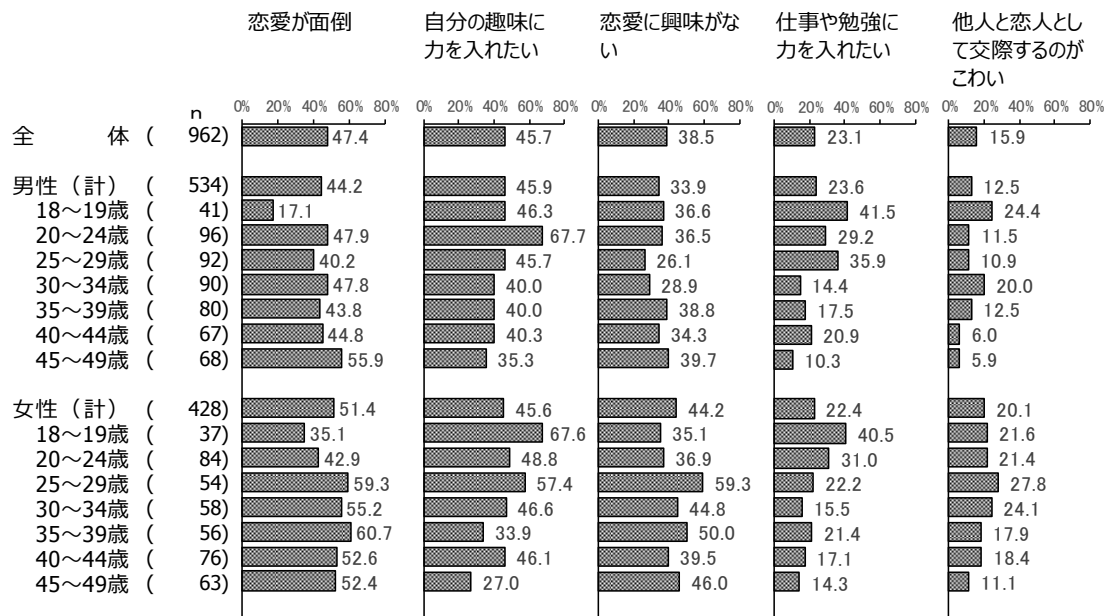
今、恋人が欲しいと思わない人にその理由を聴取したところ、「恋愛が面倒」が47.4%で最も高く、次いで「自分の趣味に力を入れたい」が45.7%、「恋愛に興味がない」が38.5%、「仕事や勉強に力を入れたい」が23.1%、「他人と恋人として交際するのがこわい」が15.9%などと続いている。



【性別・年齢別】

性別でみると、「恋愛に興味がない」の割合は男性（計）が33.9%、女性（計）が44.2%となっており、女性のほうが男性よりも10.3ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男性の20～24歳と女性の18～19歳で「自分の趣味に力を入れたい」の割合が6割代後半と高くなっている。また、女性の25～39歳で「恋愛が面倒」の割合が約6割と高く、女性の25～29歳では「恋愛に興味がない」の割合が59.3%と、他の性別・年齢層よりも高くなっている。



【国の調査との比較】

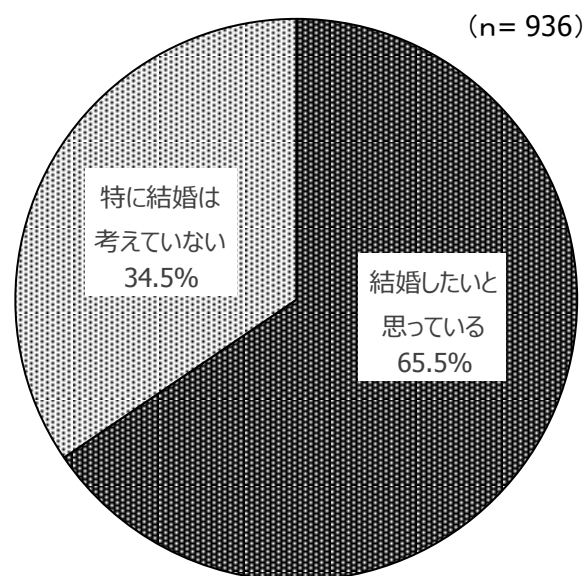
国の調査と比較してみると、全体（20～39歳）における「恋愛に興味がない」は、今回調査は38.2%、結婚・家族形成に関する意識調査は28.0%となっており、今回調査のほうが結婚・家族形成に関する意識調査と比べて10ポイント以上高くなっている。

		n	仕事や勉強に力を入れた	自分の趣味に力を入れた	友人と過ごす時間を大切にしたい	過去に恋愛で失敗した	恋愛が面倒	恋愛に興味がない	他人と恋人として交際するのかわい	その他	無回答	(%)
今回調査	全体(20～39歳)	610	24.1	48.0	15.1	8.2	48.4	38.2	17.4	4.1	0.0	
	男性(20～39歳)	358	24.6	48.9	12.0	5.6	45.0	32.4	13.7	5.0	0.0	
	男性(20代)	188	32.4	56.9	18.1	6.4	44.1	31.4	11.2	3.7	0.0	
	男性(30代)	170	15.9	40.0	5.3	4.7	45.9	33.5	16.5	6.5	0.0	
	女性(20～39歳)	252	23.4	46.8	19.4	11.9	53.2	46.4	22.6	2.8	0.0	
	女性(20代)	138	27.5	52.2	23.9	10.1	49.3	45.7	23.9	3.6	0.0	
	女性(30代)	114	18.4	40.4	14.0	14.0	57.9	47.4	21.1	1.8	0.0	
結婚・家族形成に関する意識調査 〔内閣府〕 (2014年12月)	全体(20～39歳)	286	32.9	45.1	15.4	4.5	46.2	28.0	12.9	10.5	2.4	
	男性(20～39歳)	146	34.2	47.3	14.4	4.8	47.3	25.3	8.9	10.3	1.4	
	男性(20代)	91	42.9	51.6	20.9	3.3	47.3	22.0	7.7	6.6	2.2	
	男性(30代)	55	20.0	40.0	3.6	7.3	47.3	30.9	10.9	16.4	0.0	
	女性(20～39歳)	140	31.4	42.9	16.4	4.3	45.0	30.7	17.1	10.7	3.6	
	女性(20代)	97	33.0	49.5	18.6	5.2	42.3	30.9	18.6	8.2	4.1	
	女性(30代)	43	27.9	27.9	11.6	2.3	51.2	30.2	14.0	16.3	2.3	

9 交際相手との結婚の希望

問16 あなたは、交際相手との結婚の希望はありますか。あてはまるものをお選びください。（単数回答）

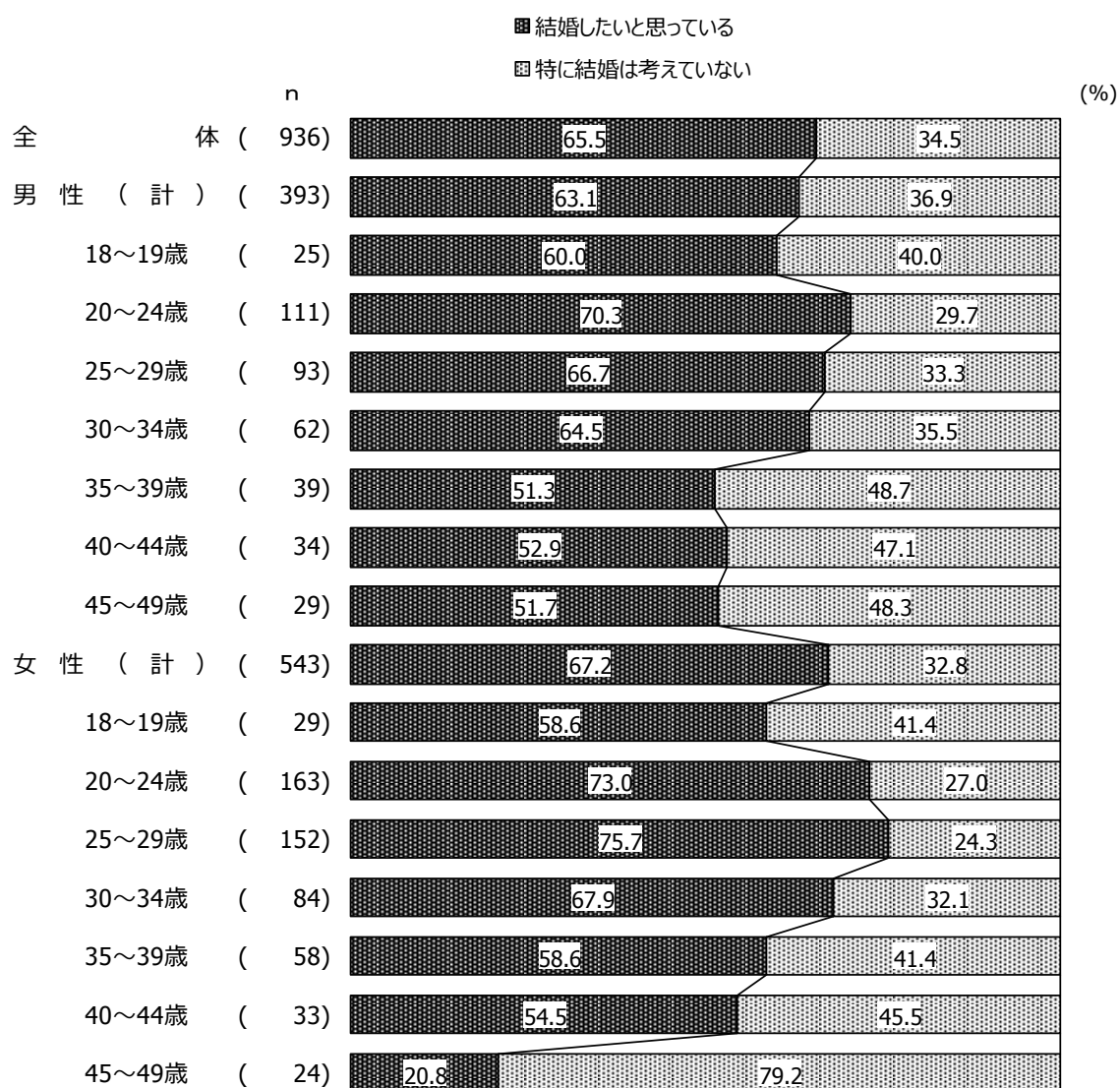
現在交際している恋人がいる人に、交際相手との結婚の希望について尋ねたところ、「結婚したいと思っている」は65.5%、「特に結婚は考えていない」は34.5%となっている。



【性別・年齢別】

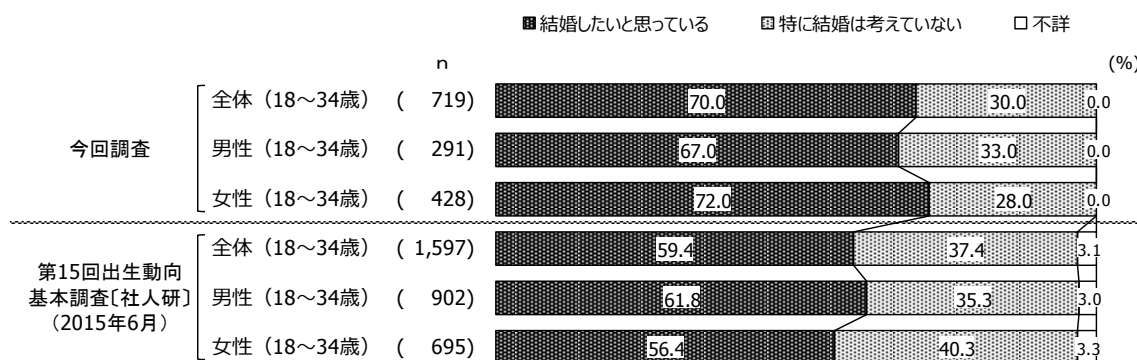
性別でみると、「結婚したいと思っている」の割合は男性（計）が63.1%、女性（計）が67.2%となっており、女性のほうが男性よりも高くなっている。

性別・年齢別では、男性の20～24歳、女性の20～29歳では「結婚したいと思っている」の割合が7割を超えて高く、一方、女性の45～49歳では「特に結婚は考えていない」の割合が約8割と高くなっている。



【国の調査との比較】

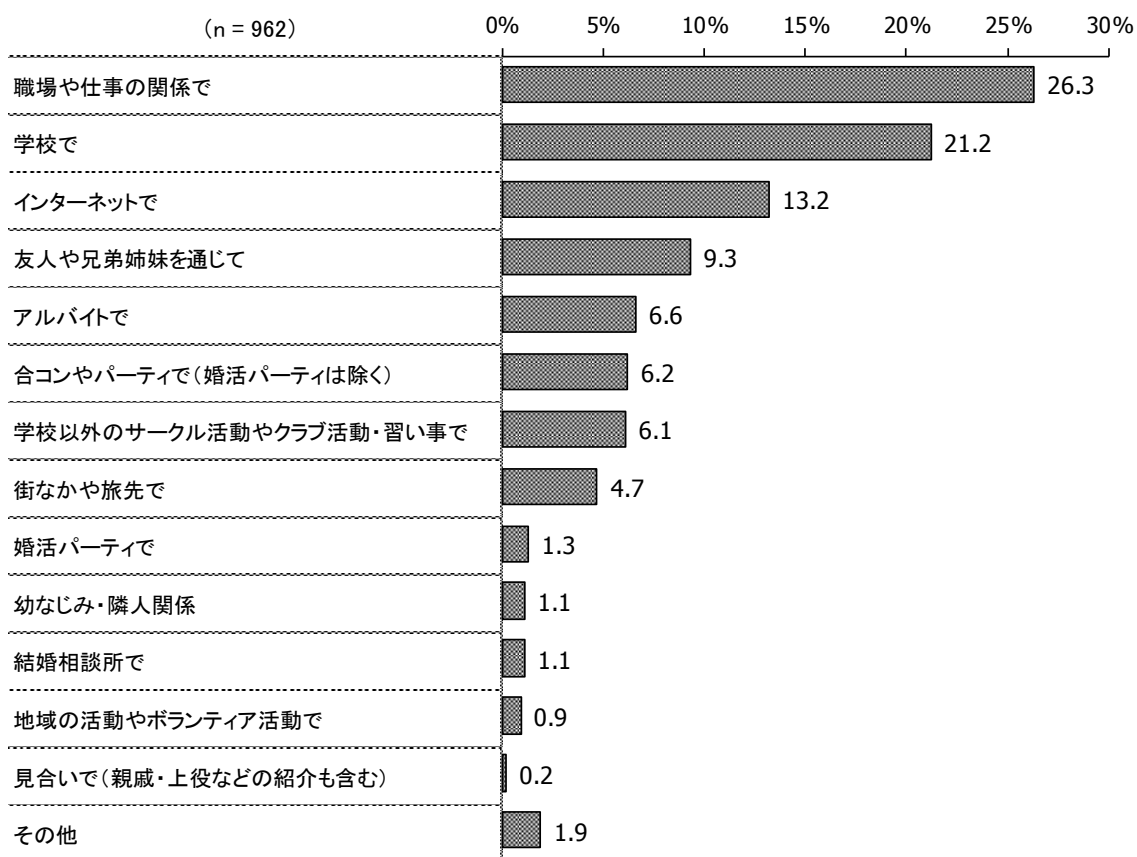
国の調査と比較してみると、今回調査の「結婚したいと思っている」の割合は全体で70.0%、第15回出生動向基本調査の「結婚したいと思っている」の割合は全体で59.4%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査と比べて、10.6ポイント高くなっている。



10 現在の交際相手と知り合った契機

問17 現在の恋人とどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。最もよくあてはまるものをお選びください。(単数回答)

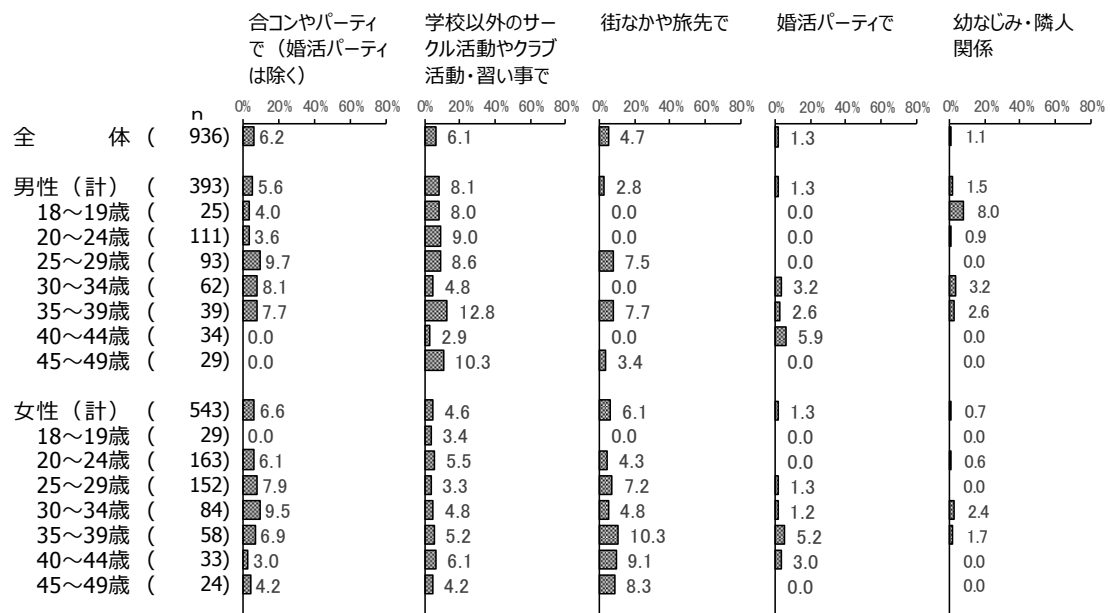
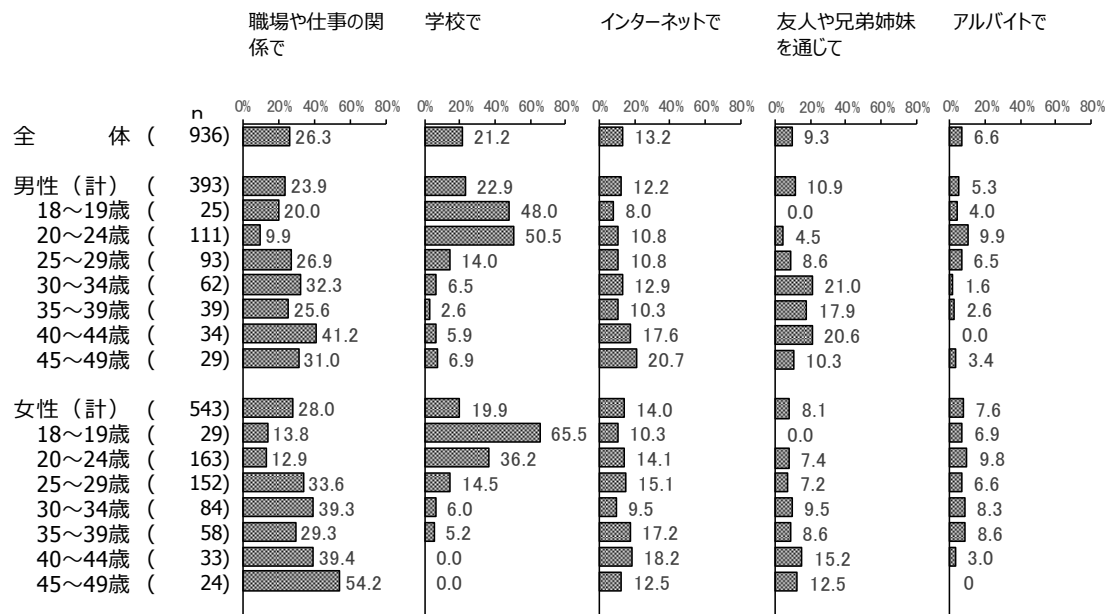
現在交際している恋人がいる人に、現在の恋人とどのようなきっかけで知り合ったか聴取したところ、「職場や仕事の関係で」が26.3%で最も高く、次いで「学校で」が21.2%、「インターネットで」が13.2%、「友人や兄弟姉妹を通じて」が9.3%などと続いている。

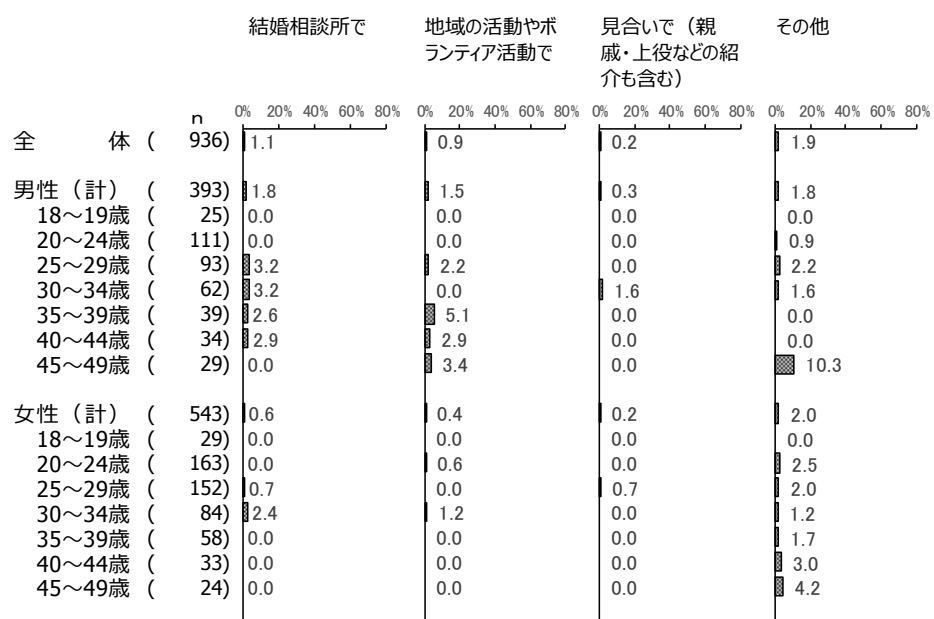


【性別・年齢別】

性別でみると、いずれの項目も大きな差はみられない。

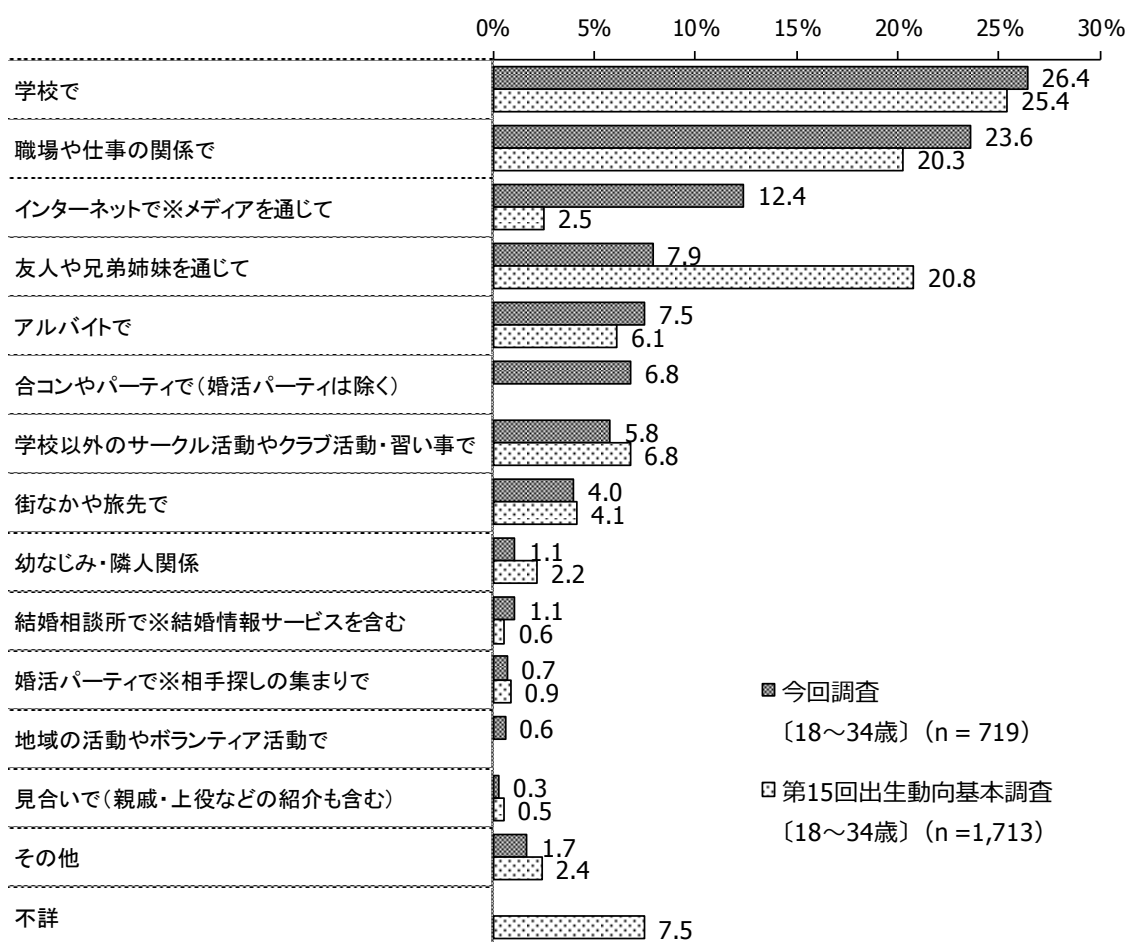
性別・年齢別でみると、性別に関係なく18～24歳では「学校で」の割合が最も高くなって
いる。また、男性の40～44歳と女性の45～49歳で「職場や仕事の関係で」の割合が4割を超
え、高くなっている。





【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「学校で」と「職場や仕事の関係で」は割合もほとんど変わらないが、「インターネットで」の割合は今回調査では12.4%、第15回出生動向基本調査では2.5%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査よりも9.9ポイント高くなっている。一方、「友人や兄弟姉妹を通じて」の割合は今回調査では7.9%、第15回出生動向基本調査では20.8%となっており、今回調査より第15回出生動向基本調査のほうが12.9ポイント高くなっている。



注1) 第15回出生動向基本調査における“メディアを通じて”は「インターネットで」に、“相手探しの集まりで”は「婚活パーティで」に分類している

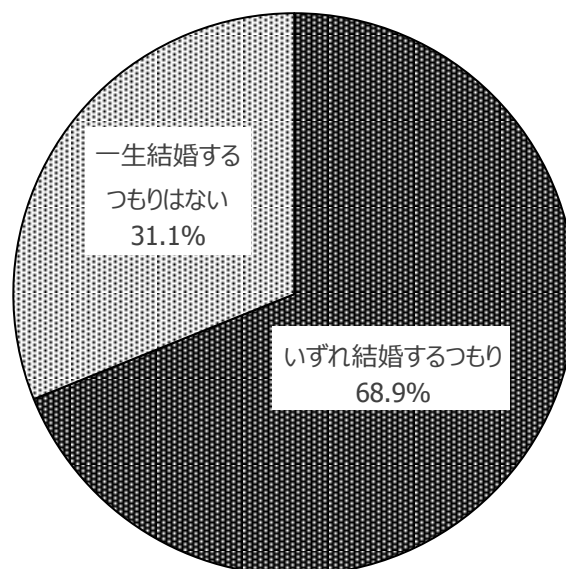
注2) 第15回出生動向基本調査の「結婚相談所で」には、結婚情報サービスを含めて集計している

11 生涯を通じての結婚意向

問18 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。（単数回答）

自分の一生を通じての結婚に対する考えは、「いずれ結婚するつもり」が68.9%、「一生結婚するつもりはない」が31.1%となっている。

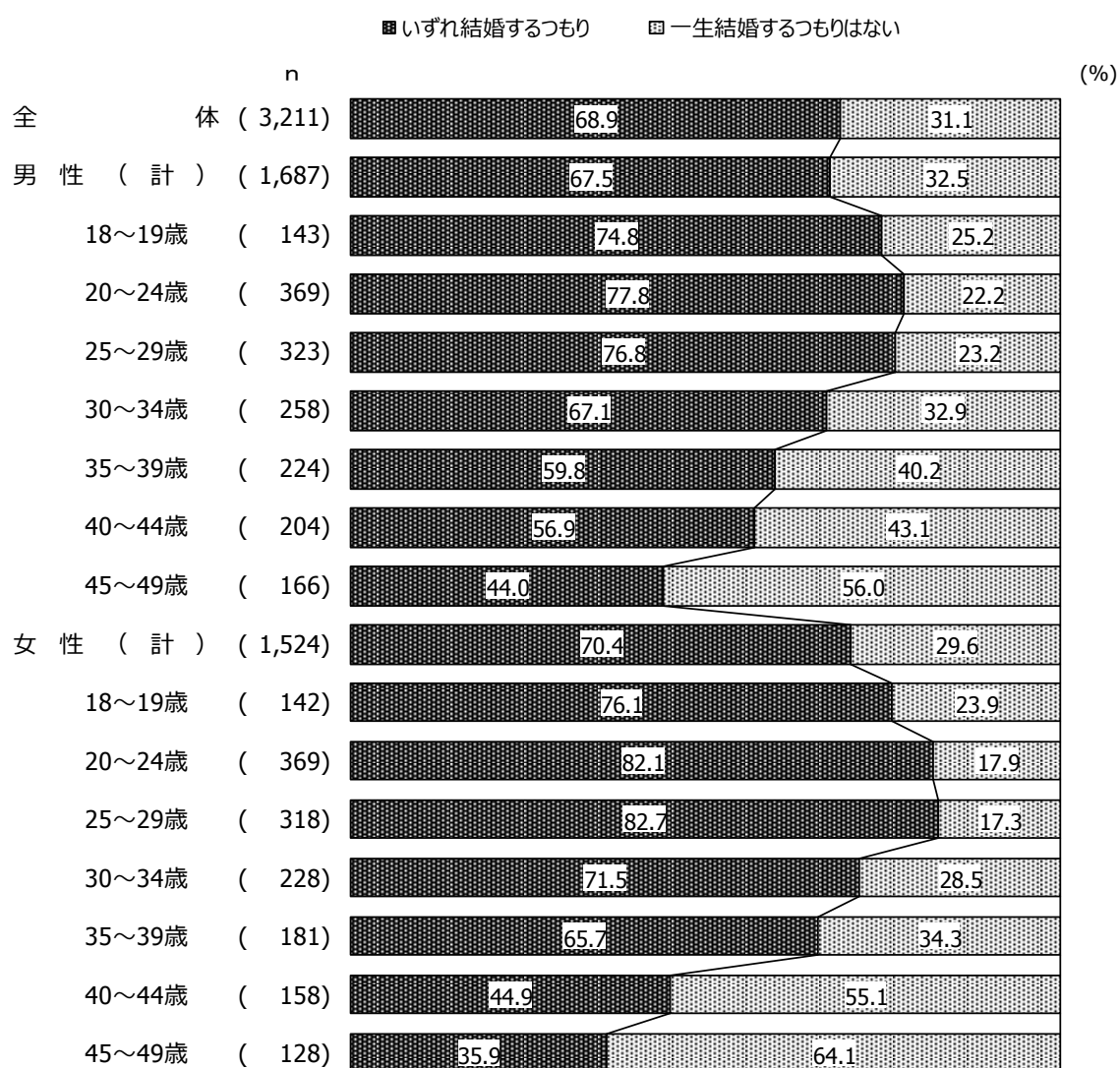
(n= 3,211)



【性別・年齢別】

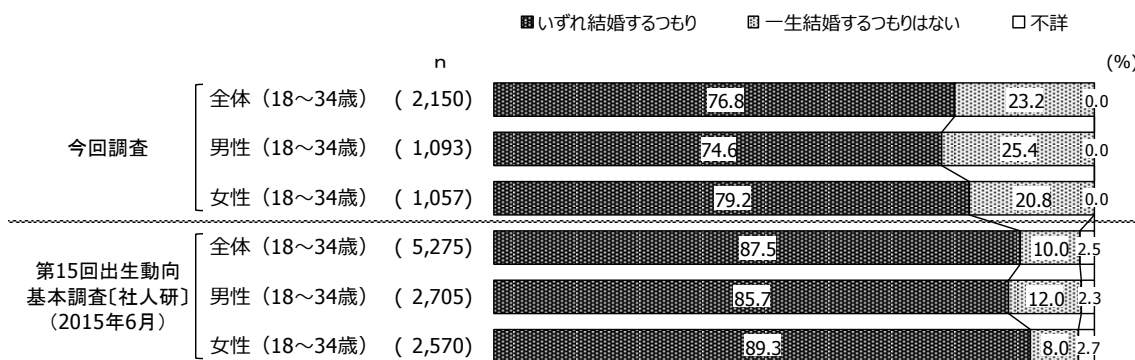
性別でみると、「いずれ結婚するつもり」の割合は男性（計）が67.5%、女性（計）が70.4%となっており、大きな差はみられない。

性別・年齢別では、男女ともに年齢層が低いほど「いずれ結婚するつもり」の割合が高い傾向がみられる。なお、男性の45～49歳、女性の40歳以上では「一生結婚するつもりはない」の割合が半数を超えている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「いずれ結婚するつもり」の割合は全体で76.8%、第15回出生動向基本調査の「いずれ結婚するつもり」の割合は全体で87.5%となっており、今回調査と比べて第15回出生動向基本調査のほうが、10.7ポイント高くなっている。



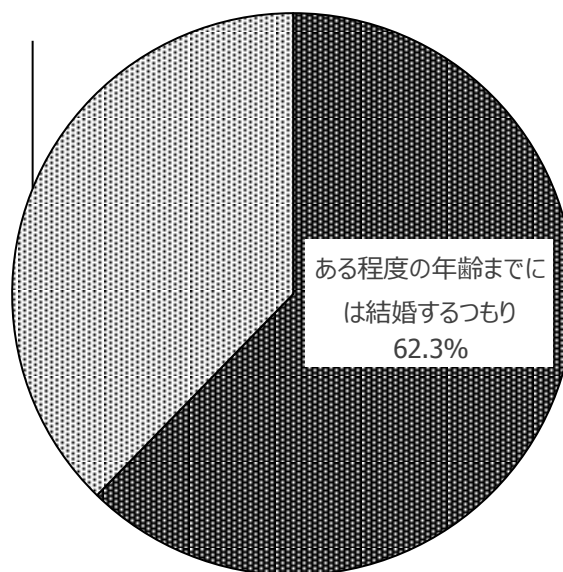
12 結婚意向者の結婚に対する考え

問19 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。（単数回答）

「いずれ結婚するつもり」と回答した人に、同じく自分の一生を通じて考えた場合、結婚に対する考えを聴取したところ、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が62.3%、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が37.7%となっている。

(n= 2,211)

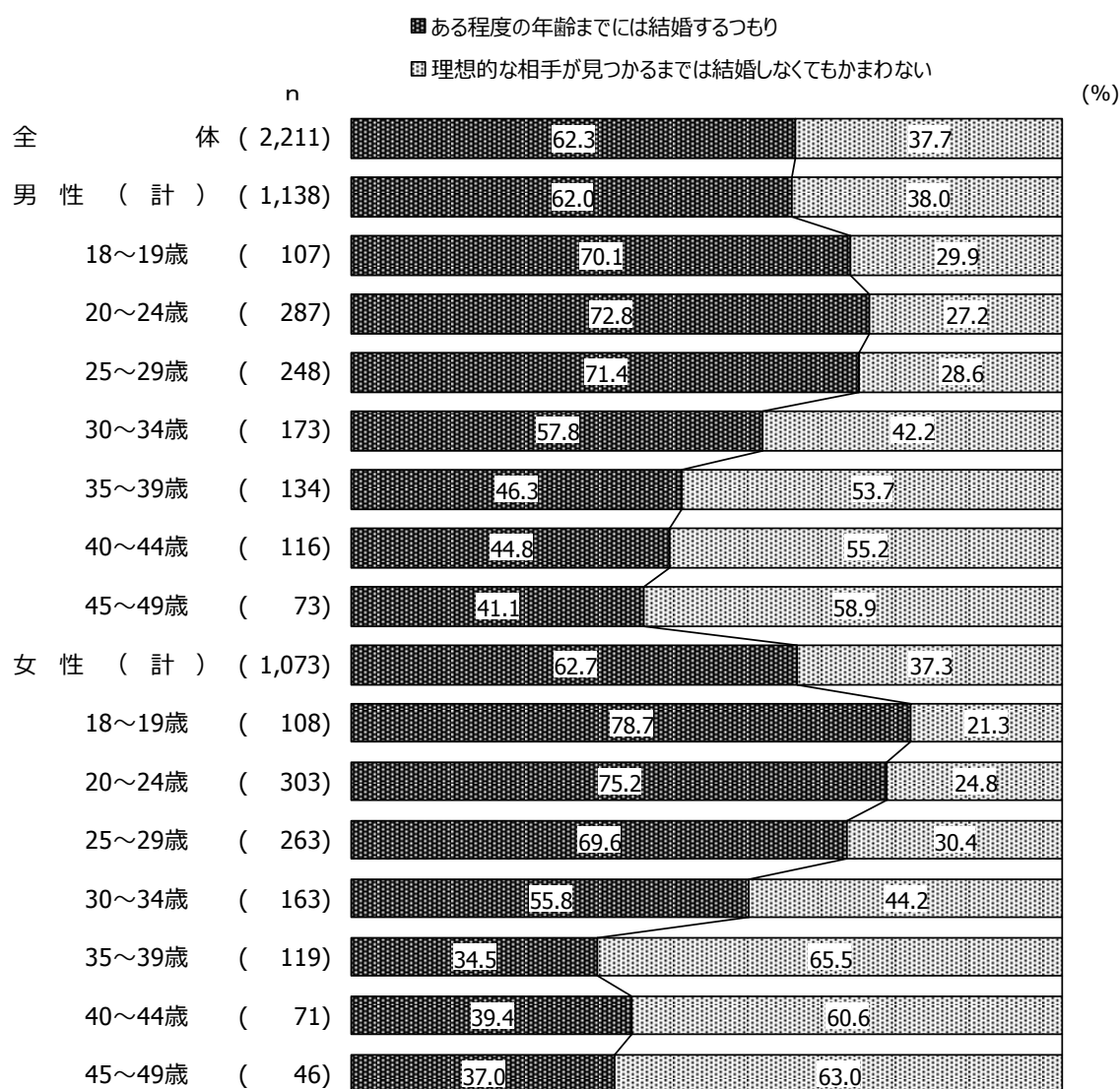
理想的な相手が見つかる
までは結婚しなくてもかまわない
37.7%



【性別・年齢別】

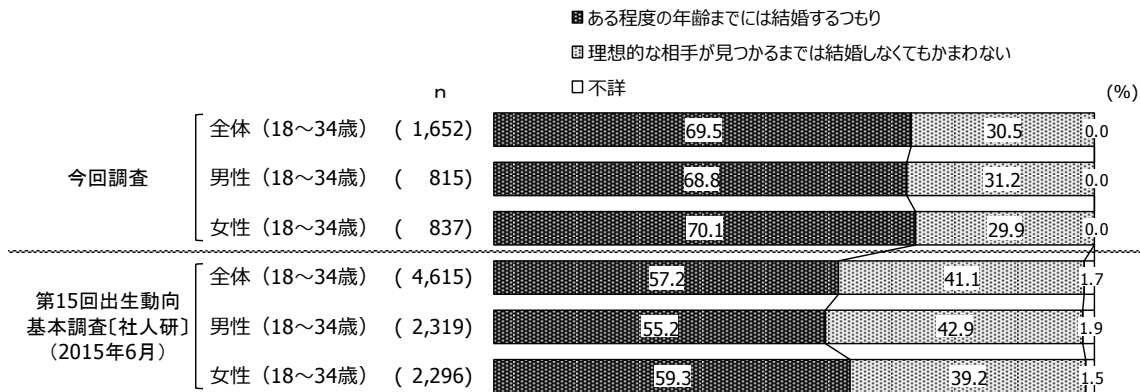
性別でみると、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合は男性（計）が62.0%、女性（計）が62.7%となっており、大きな差はみられない。

性別・年齢別では、男女ともに年齢層が低いほど「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合が高い傾向がみられる。なお、男女ともに35歳以上では「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」の割合が半数を超えている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合は全体で69.5%、第15回出生動向基本調査の「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の割合は全体で57.2%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査と比べて、12.3ポイント高くなっている

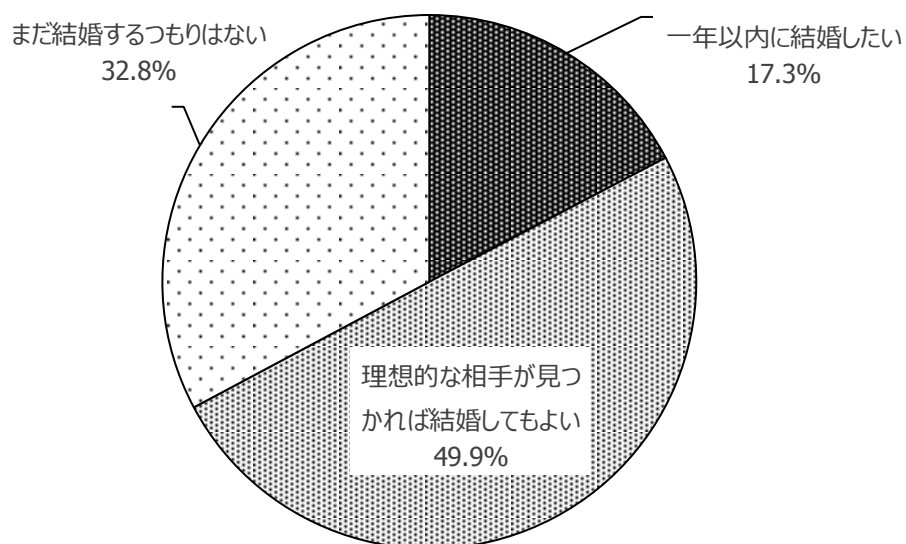


13 結婚意向者の結婚時期

問20 それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。（単数回答）

「いずれ結婚するつもり」と回答した人に、今から一年以内の結婚に関してはどのように考えているかを聴取したところ、「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」が49.9%とほぼ半数を占めて最も高く、次いで「まだ結婚するつもりはない」が32.8%、「一年以内に結婚したい」が17.3%となっている。

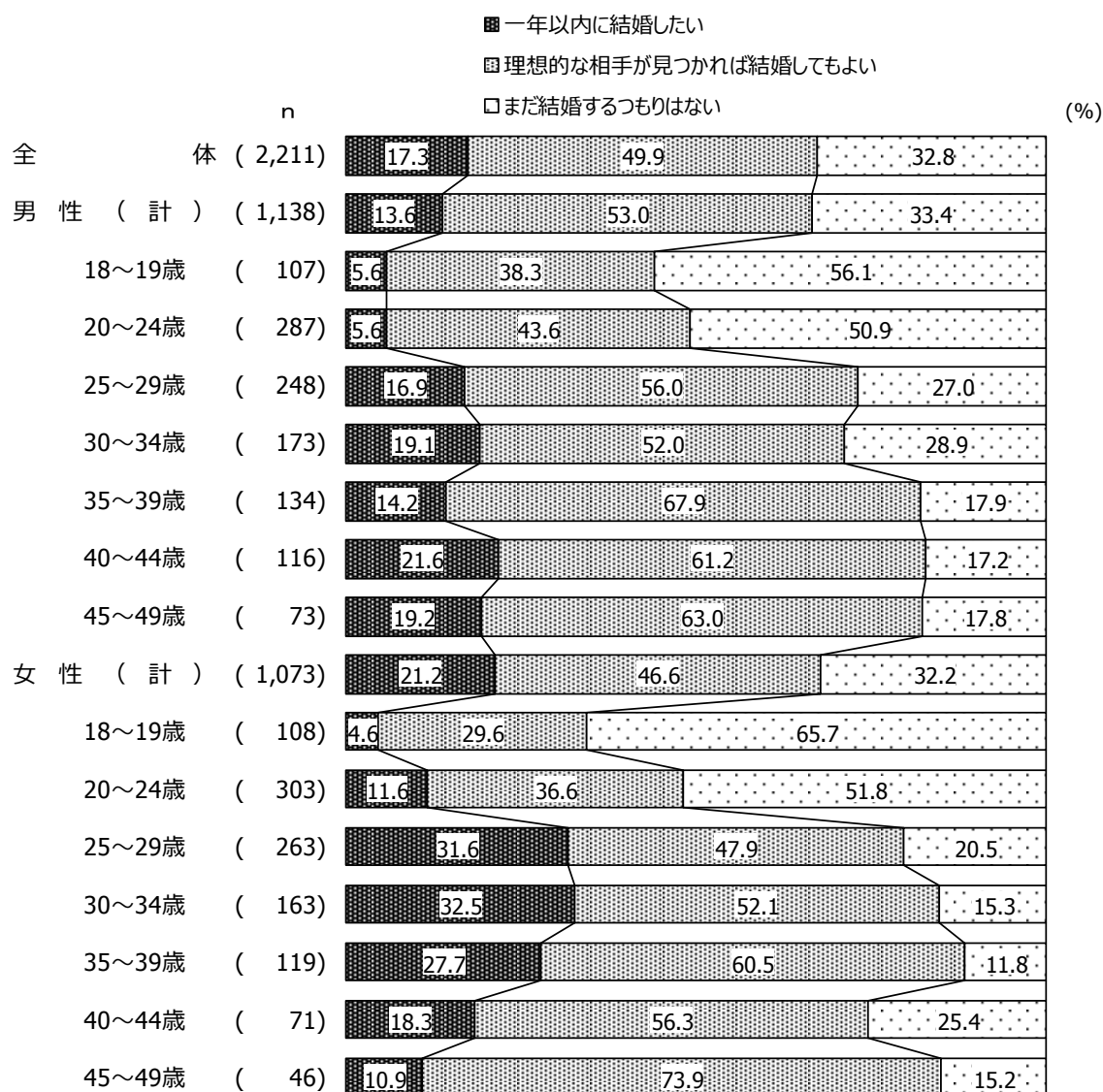
(n= 2,211)



【性別・年齢別】

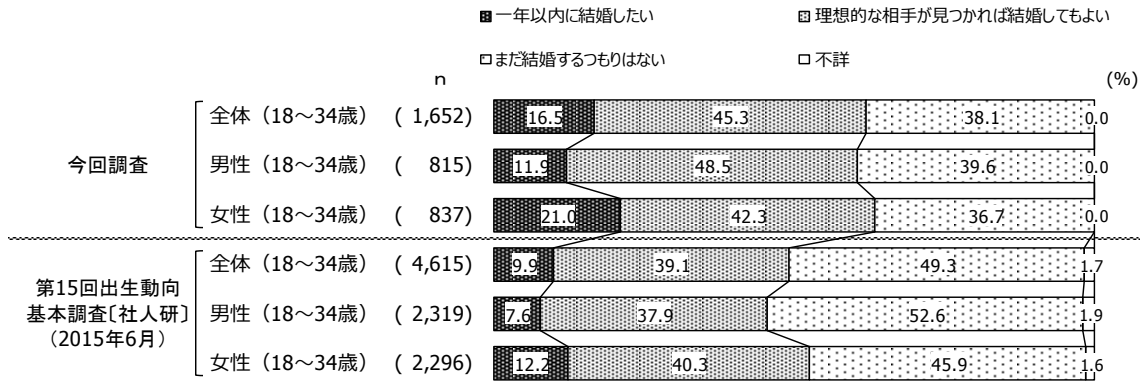
性別でみると、「一年以内に結婚したい」の割合は男性（計）が13.6%、女性（計）が21.2%となっており、女性のほうが男性よりも7.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男女ともに18～24歳で「まだ結婚するつもりはない」の割合が5割を超えている。また、女性の25～34歳では「一年以内に結婚したい」の割合が3割を超えて高くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「まだ結婚するつもりはない」の割合は全体で38.1%、第15回出生動向基本調査の「まだ結婚するつもりはない」の割合は全体で49.3%となっており、今回調査よりも第15回出生動向基本調査のほうが、11.2ポイント高くなっている。

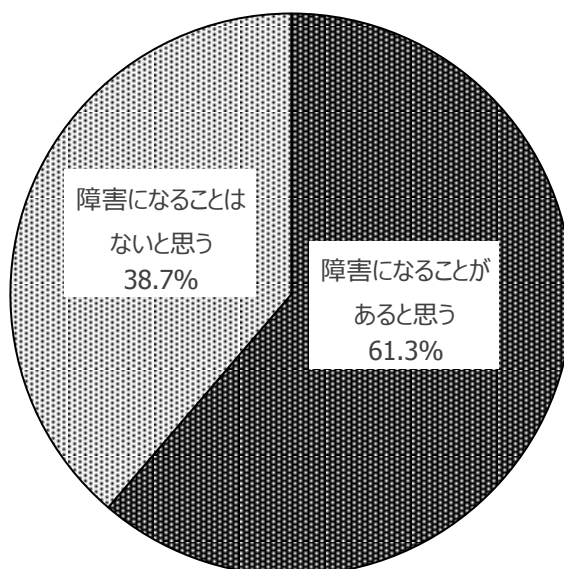


14 結婚の障害の有無

問21 現在交際している人と（あるいは理想的な相手が見つかった場合）一年以内に結婚するとしたら、何か障害になることがあると思いますか。（単数回答）

「一年以内に結婚したい」、あるいは「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した人に、一年以内に結婚するとしたら、何か障害になることがあるか否かを聴取したところ、「障害になることがあると思う」が61.3%、「障害になることはないと思う」が38.7%となっている。

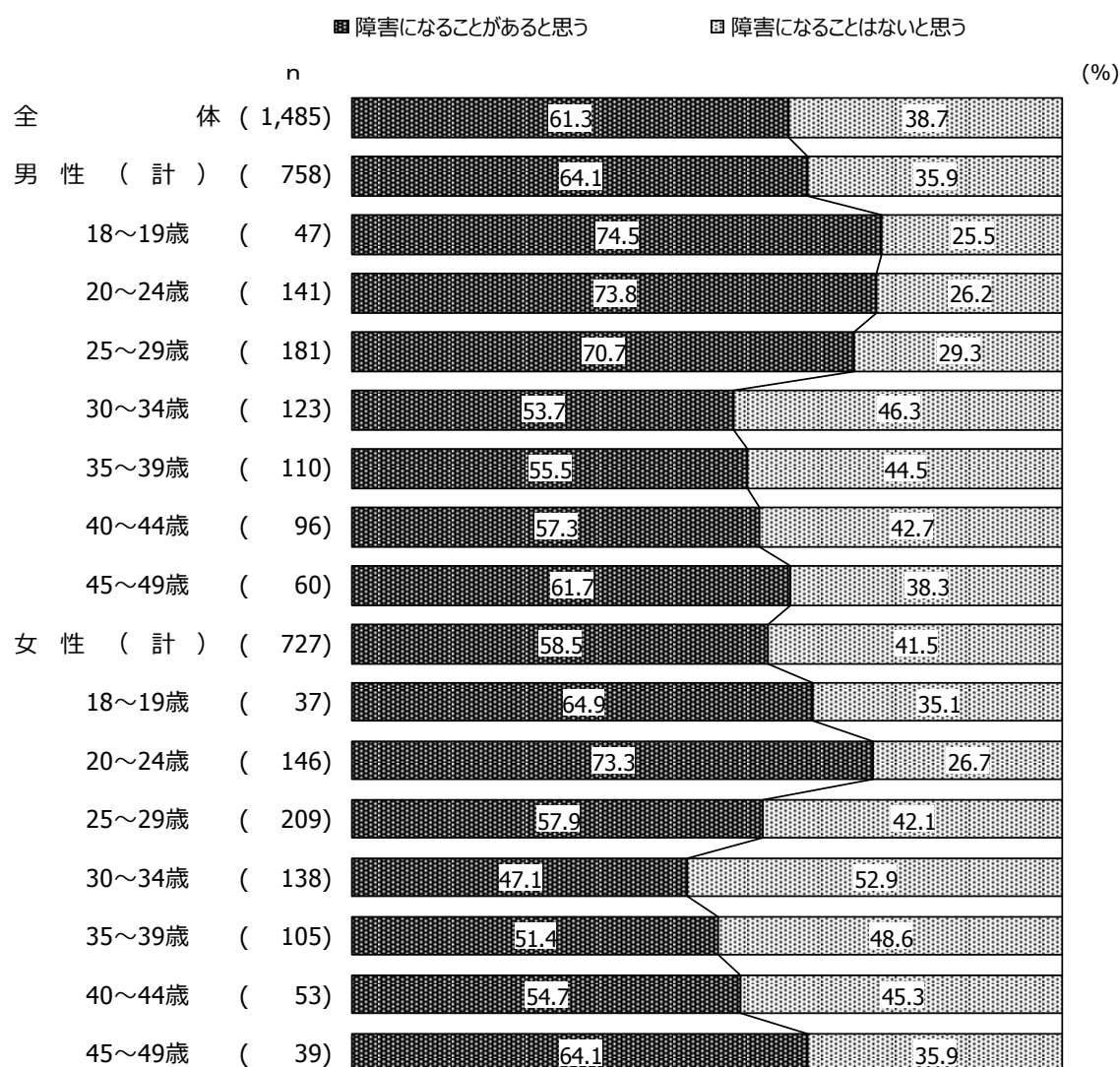
(n= 1,485)



【性別・年齢別】

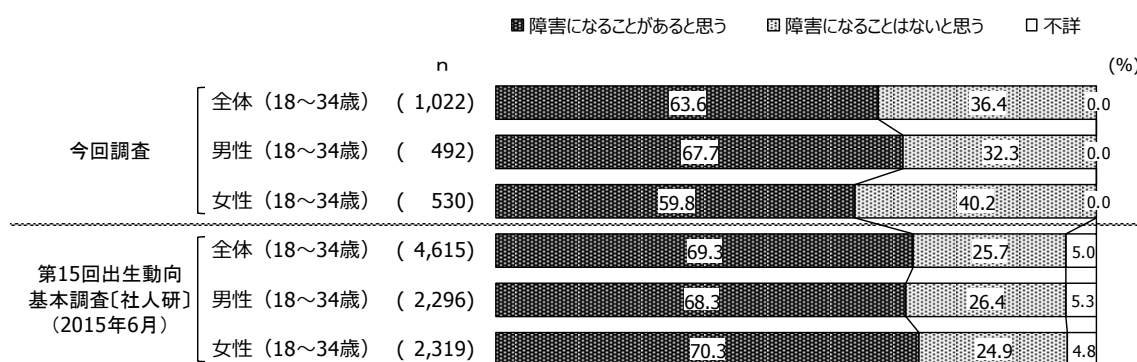
性別でみると、「障害になることがあると思う」の割合は男性（計）が64.1%、女性（計）が58.5%となっており、男性のほうが女性よりも5.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の18～29歳と女性の20～24歳で「障害になることがあると思う」の割合が7割を超えて高くなっている。また、女性の30～34歳では「障害になることはない」の割合が52.9%と半数を超えている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「障害になることがあると思う」の割合は全体で63.6%、第15回出生動向基本調査の「障害になることがあると思う」の割合は全体で69.3%となっており、今回調査よりも第15回出生動向基本調査のほうが、5.7ポイント高くなっている。

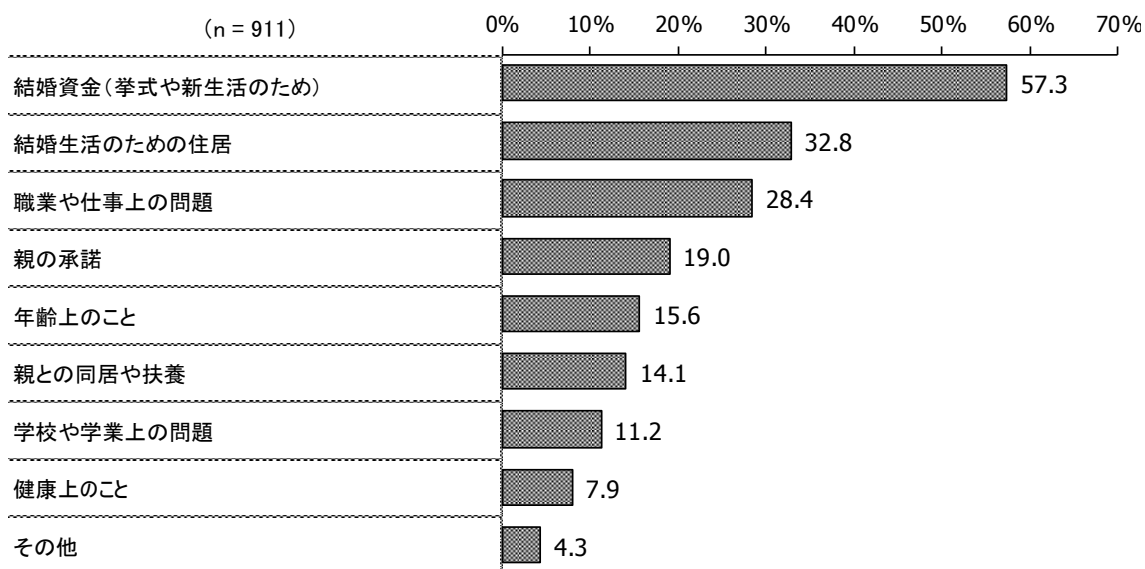


15 結婚の具体的な障害

問22 前問で「障害になることがあると思う」にチェックをつけた方は、次の中から具体的な障害を2つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の障害】【第2の障害】それぞれ1つずつ）

「障害になることがあると思う」と回答した人に、結婚の具体的な障害について聴取したところ、「結婚資金（挙式や新生活のため）」が57.3%で最も高く、次いで「結婚生活のための住居」が32.8%、「職業や仕事上の問題」が28.4%、「親の承諾」が19.0%、「年齢上のこと」が15.6%などと続いている。

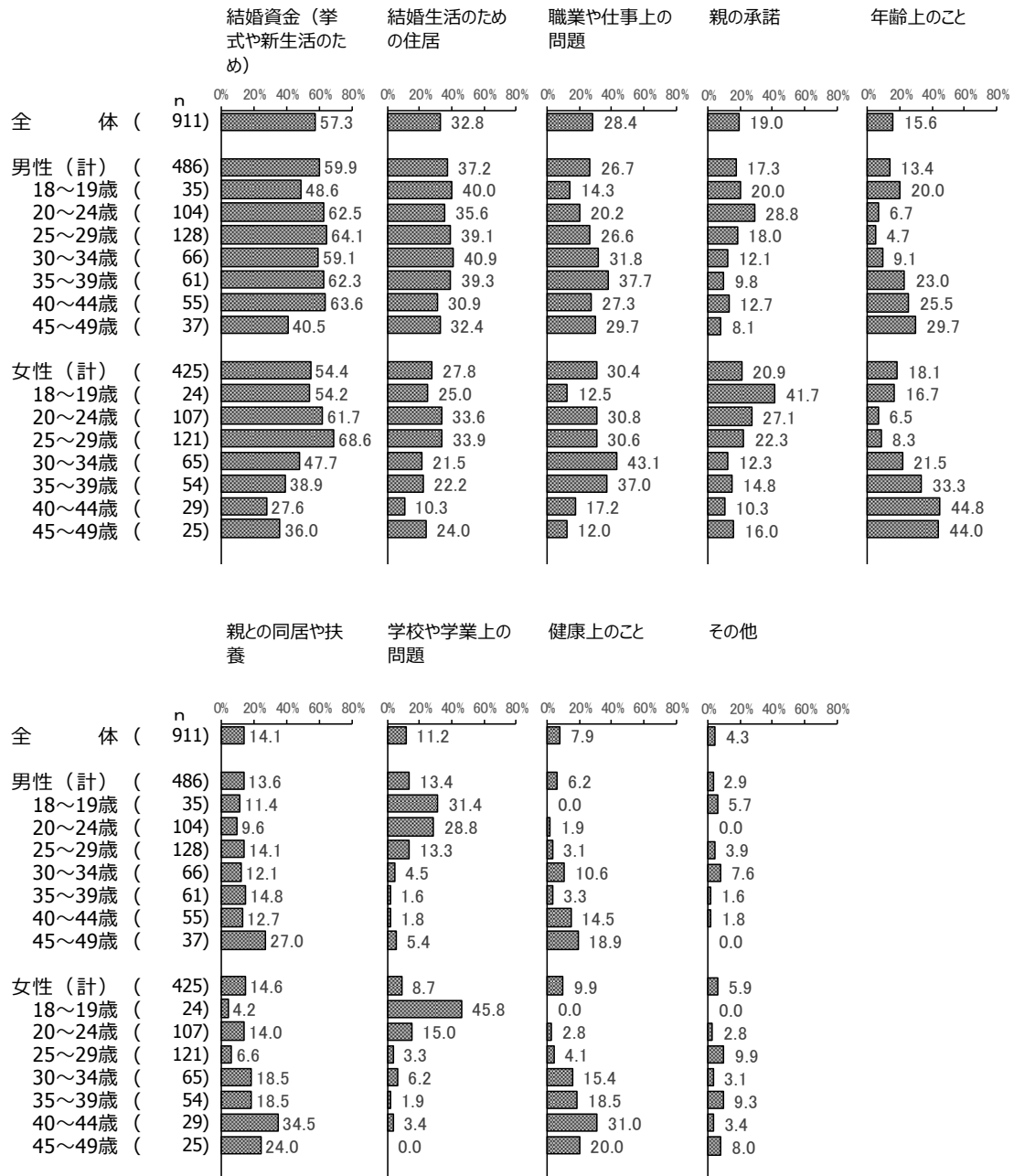
【最大の障害と第2の障害の合計】



【性別・年齢別】

性別でみると、「結婚生活のための住居」の割合は男性（計）が37.2%、女性（計）が27.8%となっており、男性のほうが女性よりも9.4ポイント高くなっている。

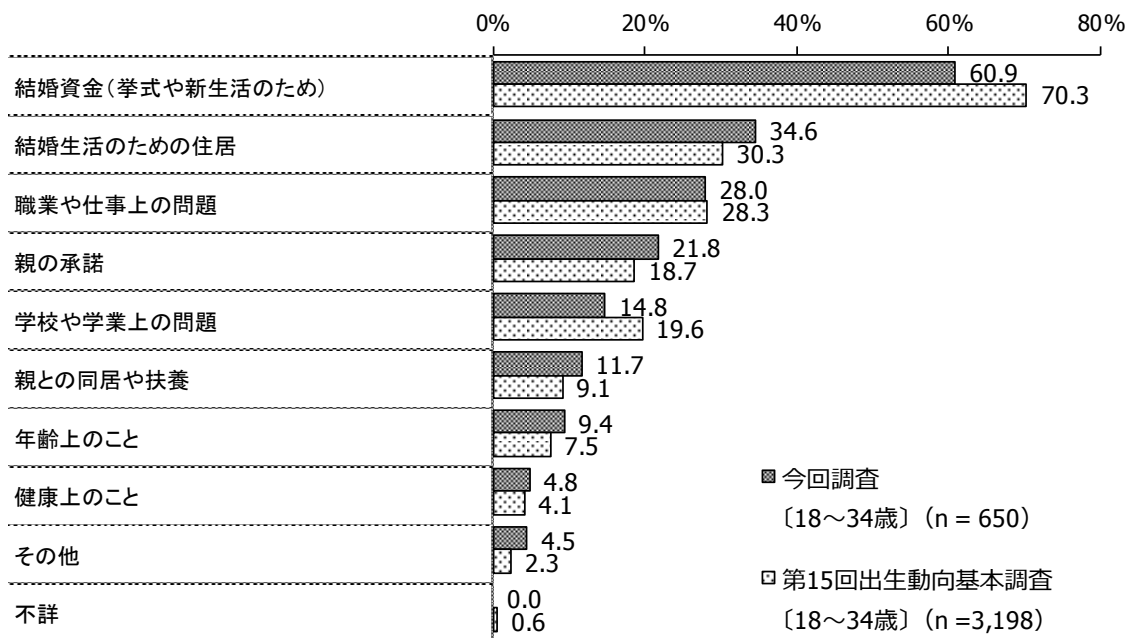
性別・年齢別でみると、女性の25～29歳で「結婚資金（挙式や新生活のため）」の割合が68.6%と他の年齢層よりも高くなっている。



【国の調査との比較】

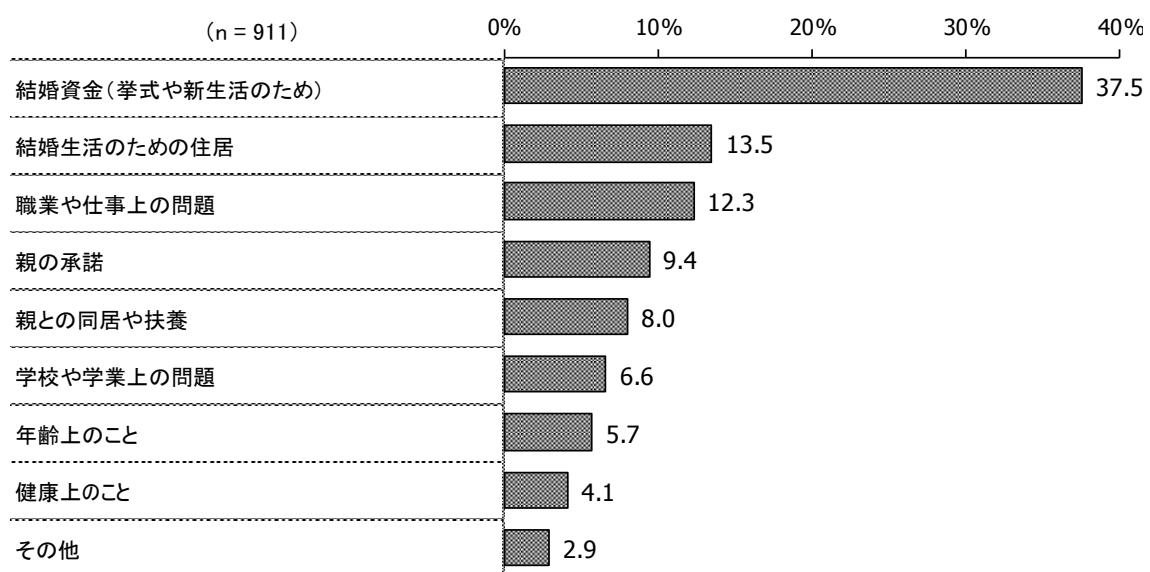
国の調査と比較してみると、「結婚資金（挙式や新生活のため）」の割合は今回調査では60.9%、第15回出生動向基本調査では70.3%となっており、今回調査と比べて第15回出生動向基本調査のほうが9.4ポイント高くなっている。一方、「結婚生活のための住居」の割合は今回調査では34.6%、第15回出生動向基本調査では30.3%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査より4.3ポイント高くなっている。

【最大の障害と第2の障害の合計】



結婚の最大の障害については、「結婚資金（挙式や新生活のため）」が37.5%で最も高く、次いで「結婚生活のための住居」が13.5%、「職業や仕事上の問題」が12.3%などと続いている。

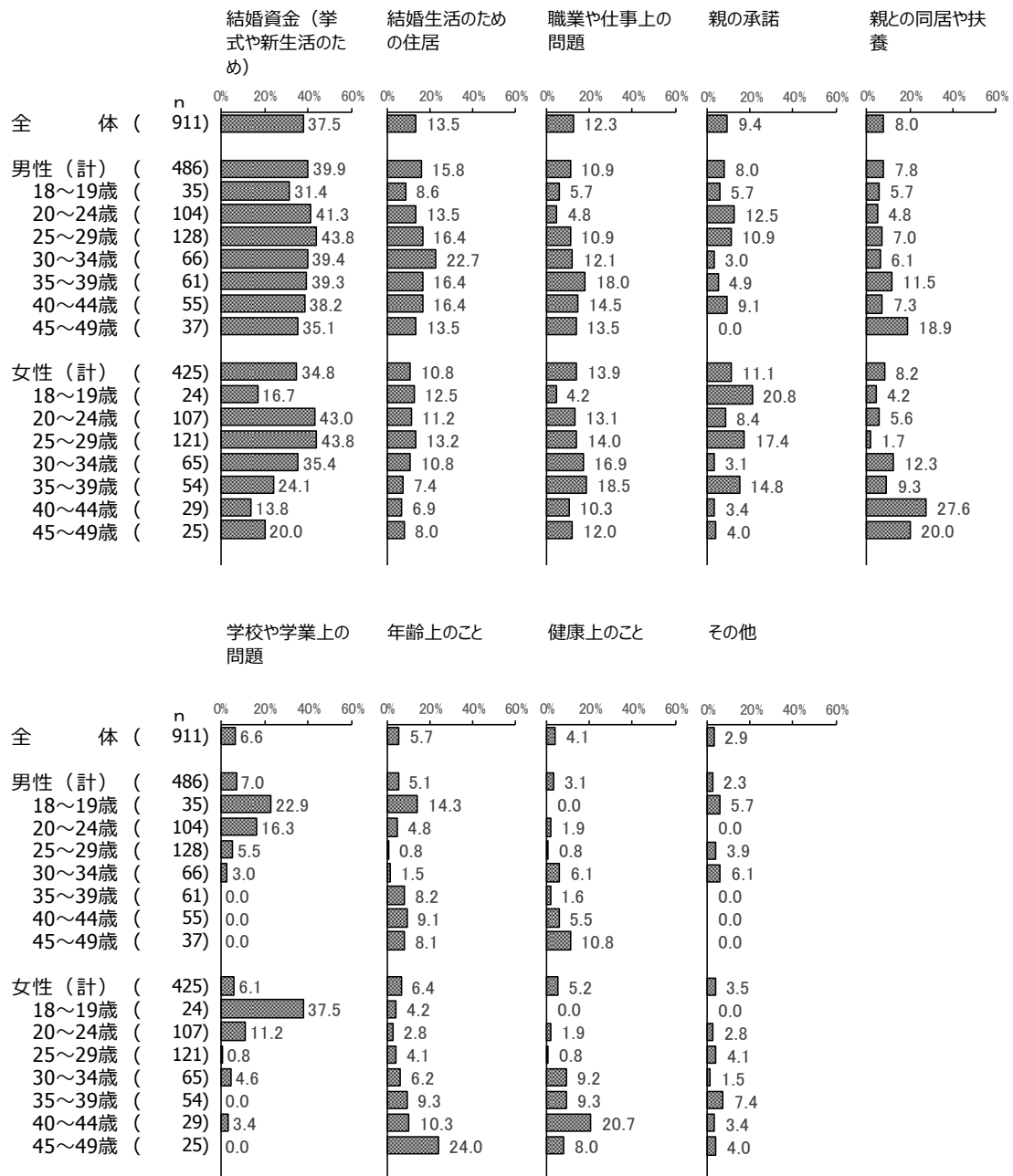
【最大の障害】



【性別・年齢別】

性別でみると、「結婚資金（挙式や新生活のため）」、「結婚生活のための住居」の割合が、男性のほうが女性よりも高くなっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに18～19歳で「学校や学業上の問題」の割合が他の年齢層よりも高い。また、男性の45～49歳と女性の40歳以上では「親との同居や扶養」の割合が高くなっている。



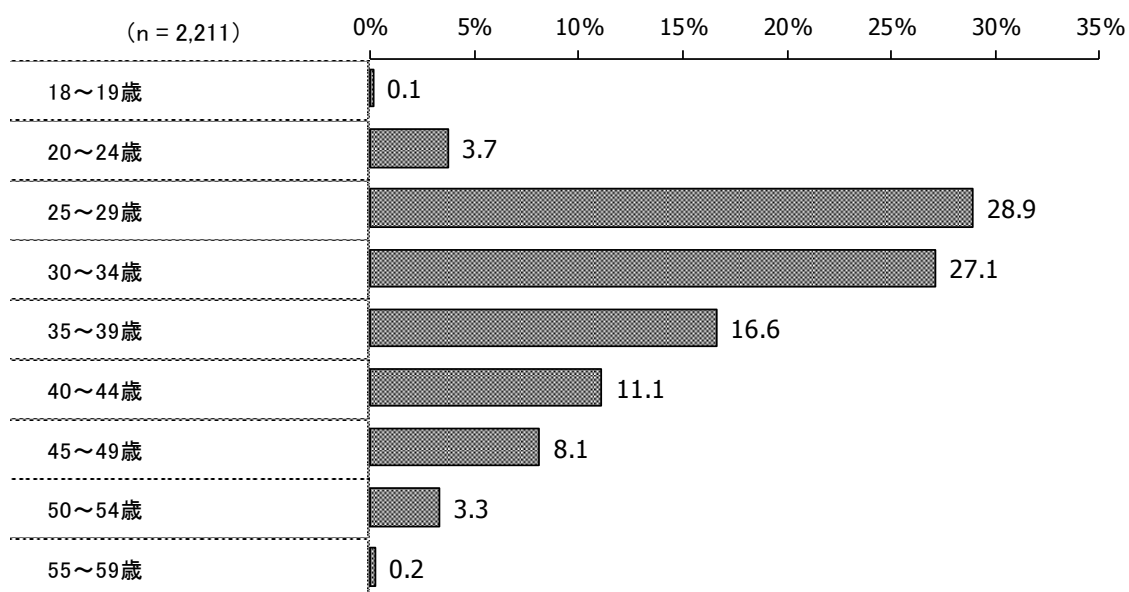
16 結婚したい年齢

問23 あなたは、今後、何歳ぐらいの時に、何歳ぐらいの相手と結婚したいと思いますか。希望する年齢を入力してください。（半角数字で入力）

※回答者自身の結婚希望年齢については、調査の回答画面で回答者の現在の年齢未満の数値は入力できないよう制約を加えた

「いずれ結婚するつもり」と回答した人に、今後、何歳ぐらいの時に結婚したいか聴取したところ、「25～29歳」の割合が28.9%で最も高く、次いで「30～34歳」が27.1%、「35～39歳」が16.6%などと続いている。

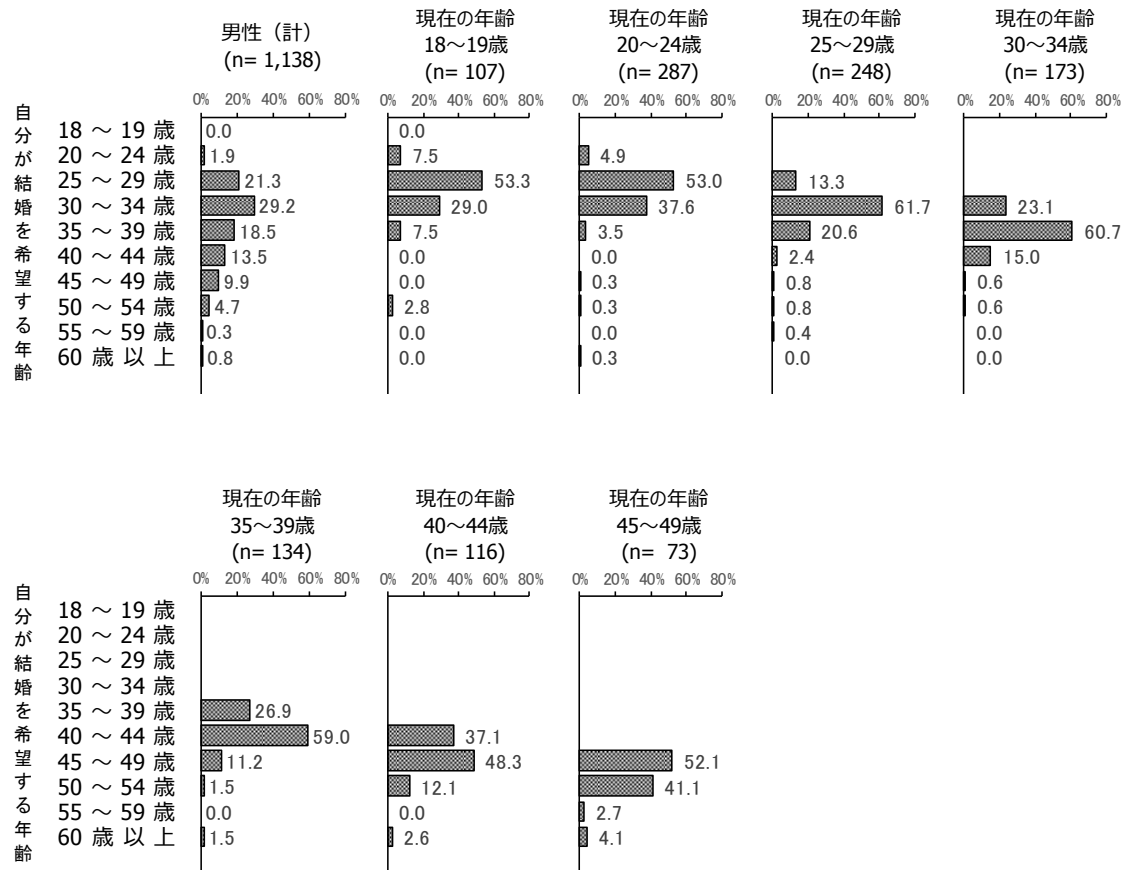
【自分が結婚を希望する年齢】



【男性・年齢別】

男性（計）では「30～34歳」が29.2%で最も高くなっている。

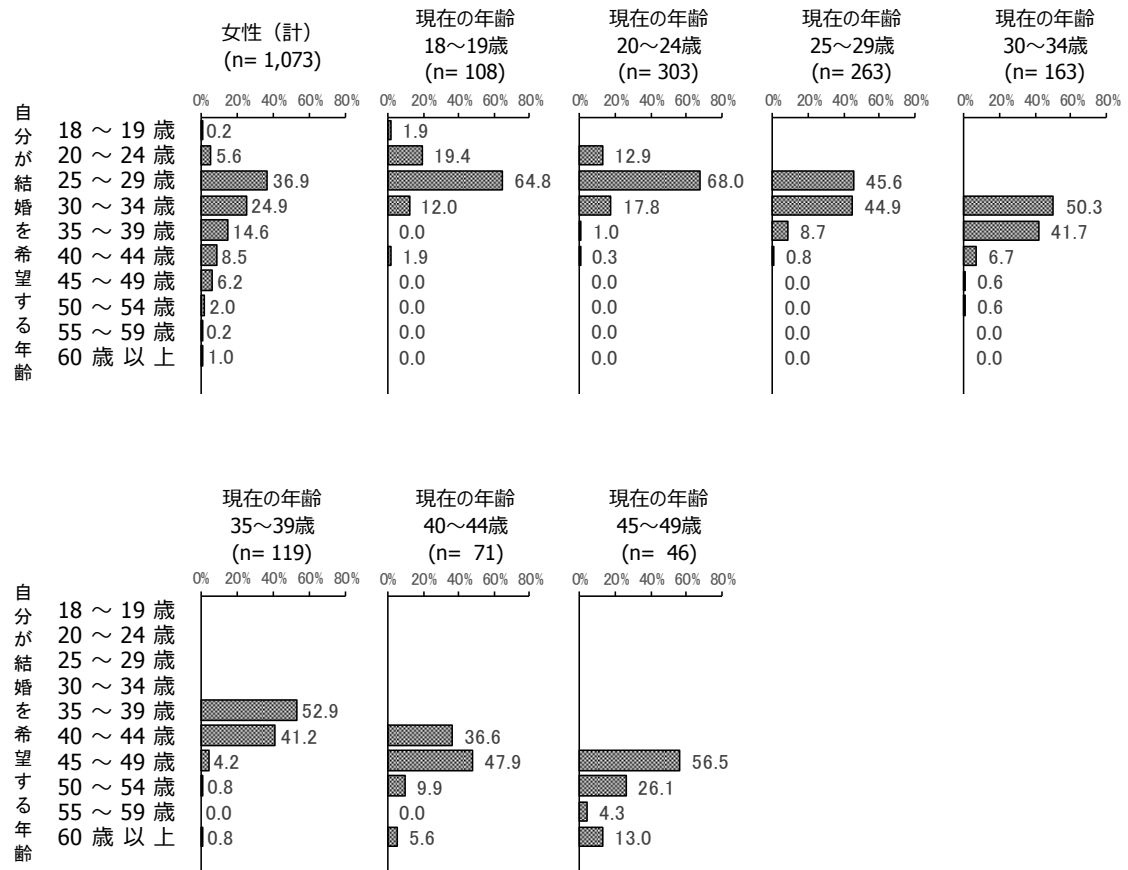
男性の年齢別でみると、18～19歳では「25～29歳」の割合が最も高くなっている。また、20～44歳では、自分の年齢より一つ上の年齢層の割合が最も高い。なお、45～49歳では、自分と同年齢幅の「45～49歳」の割合が高くなっている。



【女性・年齢別】

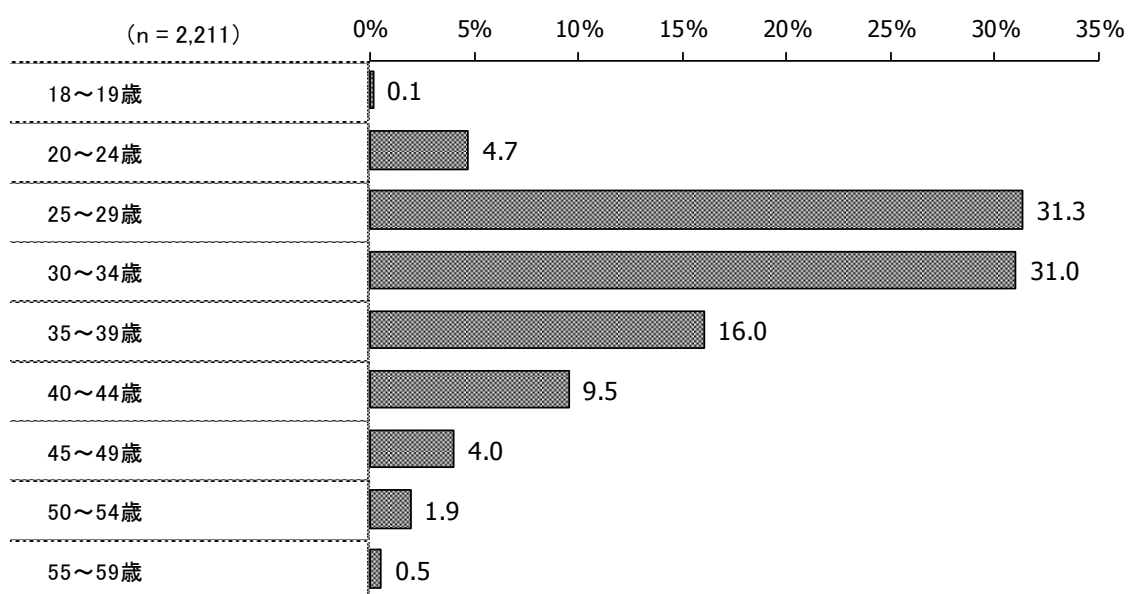
女性（計）では「25～29歳」が36.9%で最も高くなっている。

女性の年齢別でみると、18～29歳では「25～29歳」の割合が最も高くなっている。また、40～44歳では、自分の年齢より一つ上の年齢層の割合が最も高い。なお、30～39歳と45～49歳では、自分と同年齢層の割合が高くなっている。



「いずれ結婚するつもり」と回答した人に、今後、何歳ぐらいの相手と結婚したいか聴取したところ、「25～29歳」の割合が31.3%で最も高く、次いで「30～34歳」が31.0%、「35～39歳」が16.0%などと続いている。

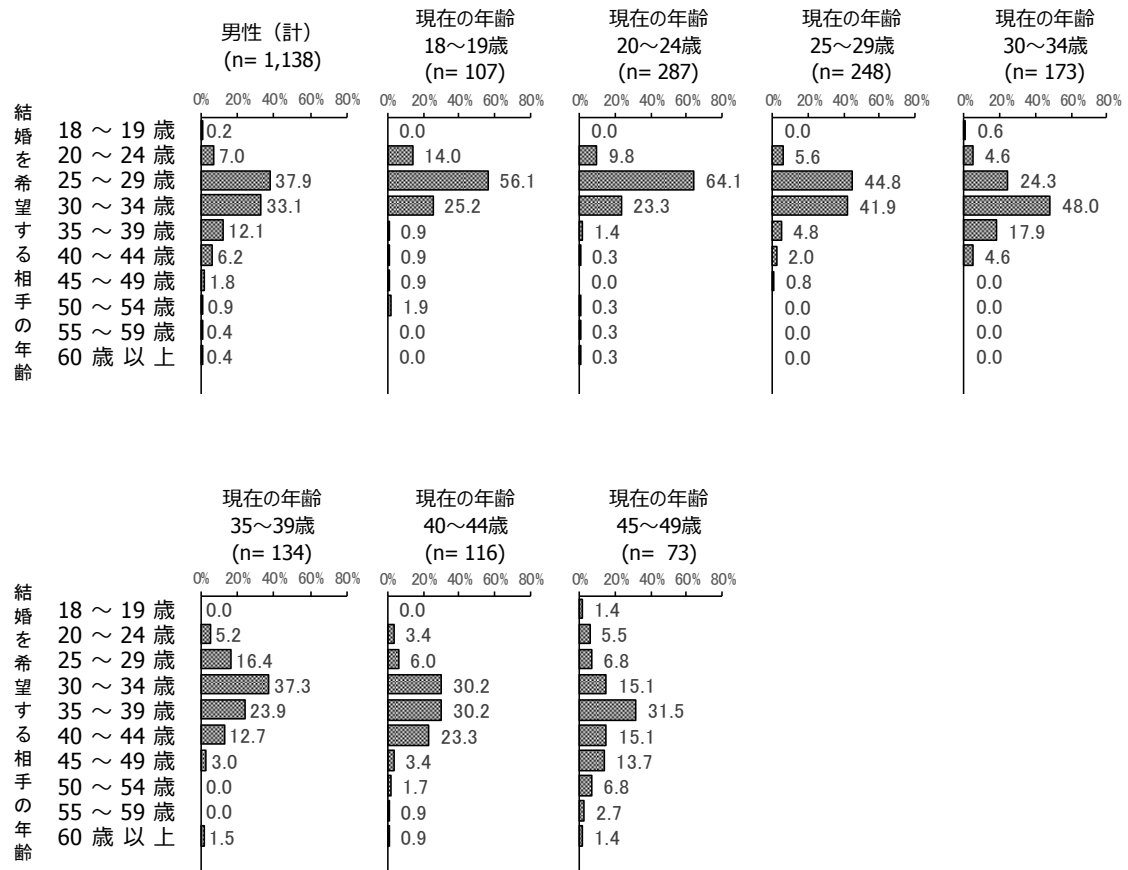
【結婚を希望する相手の年齢】



【男性・年齢別】

男性（計）では「25～29歳」が37.9%で最も高くなっている。

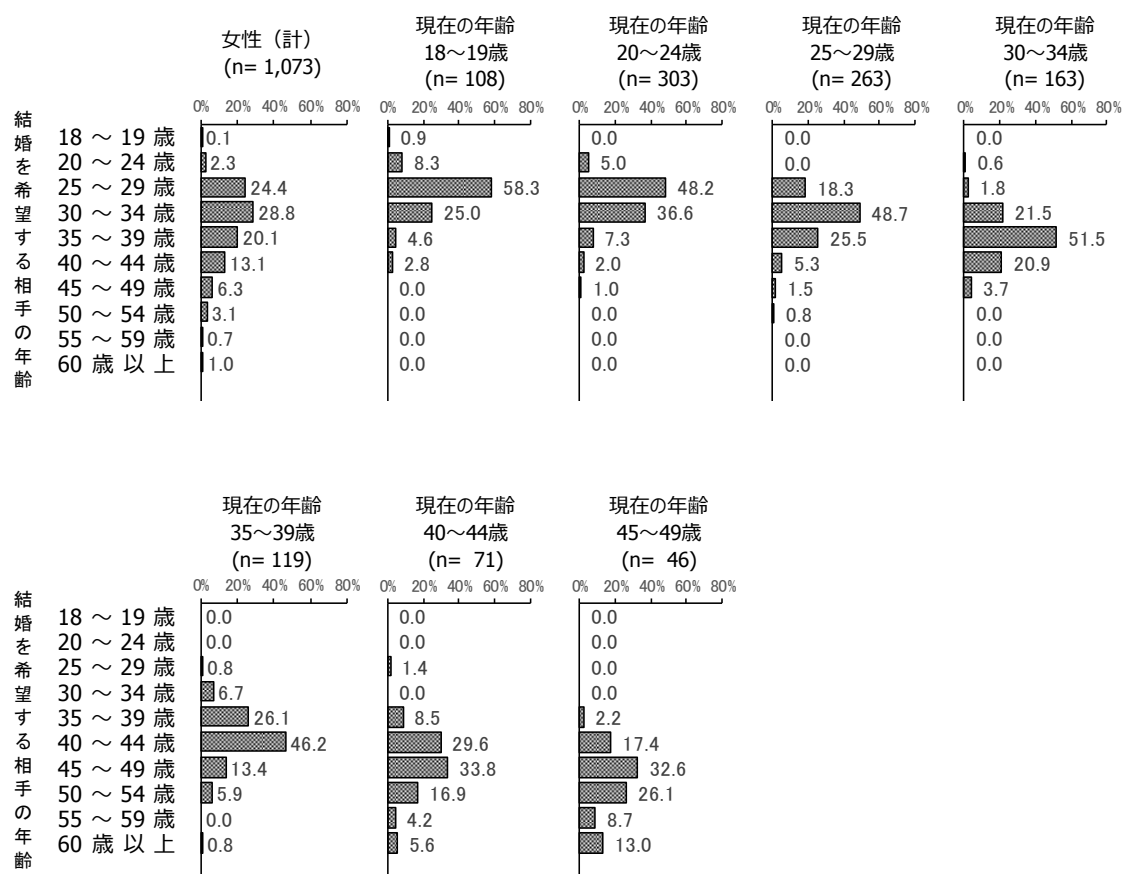
男性の年齢別でみると、18～29歳では「25～29歳」の割合が最も高くなっている。また、30～44歳では、「30～34歳」の割合が最も高い（同率を含む）。なお、45～49歳では、「35～39歳」の割合が高くなっている。



【女性・年齢別】

女性（計）では「30～34歳」が28.8%で最も高くなっている。

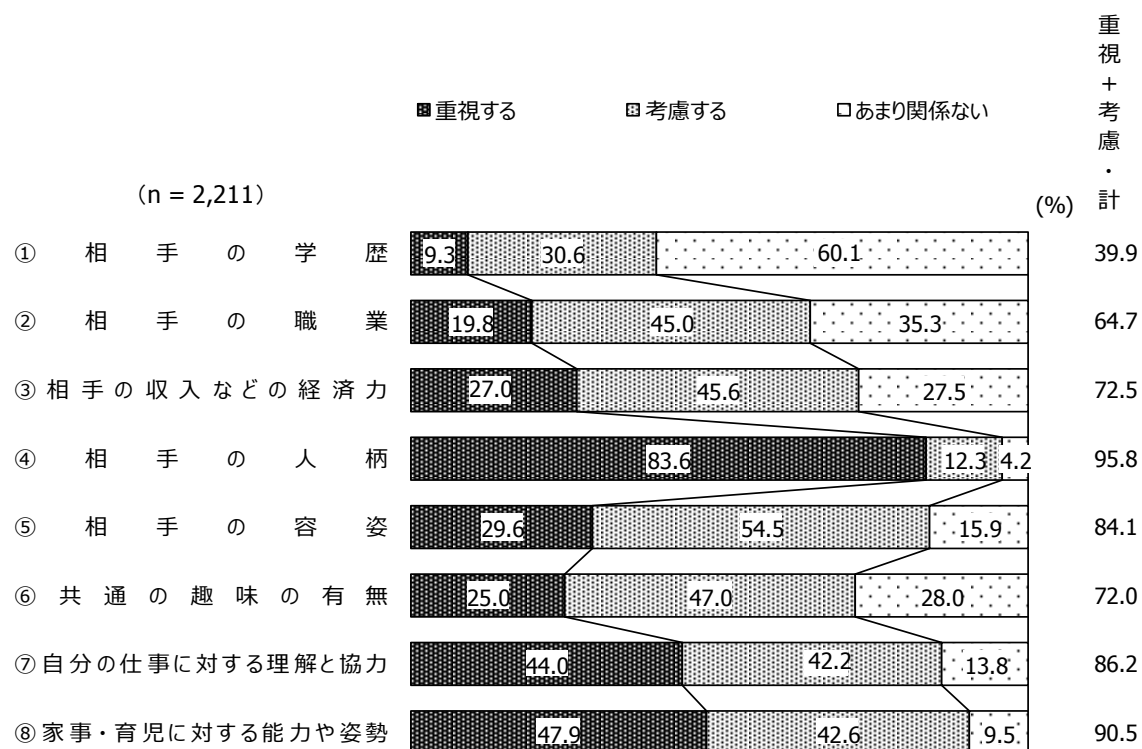
女性の年齢別でみると、18～24歳では「25～29歳」の割合が最も高くなっている。また、25～44歳では、自分の年齢より一つ上の年齢層の割合が最も高い。なお、45～49歳では、自分と同年齢層の「45～49歳」の割合が高くなっている。



17 結婚相手を決めるときの重視度

問24 あなたは結婚相手を決めるとき、次の1.～8.の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。(各単数回答)

「いずれ結婚するつもり」と回答した人の結婚相手を決めるときの「重視する」または「考慮する」と回答した人の合計の割合は、「相手の人柄」が95.8%（重視する83.6%＋考慮する12.3%）で最も高く、次いで「家事・育児に対する能力や姿勢」が90.5%（重視する47.9%＋考慮する42.6%）、「自分の仕事に対する理解と協力」が86.2%（重視する44.0%＋考慮する42.2%）、「相手の容姿」が84.1%（重視する29.6%＋考慮する54.5%）などとなっている。

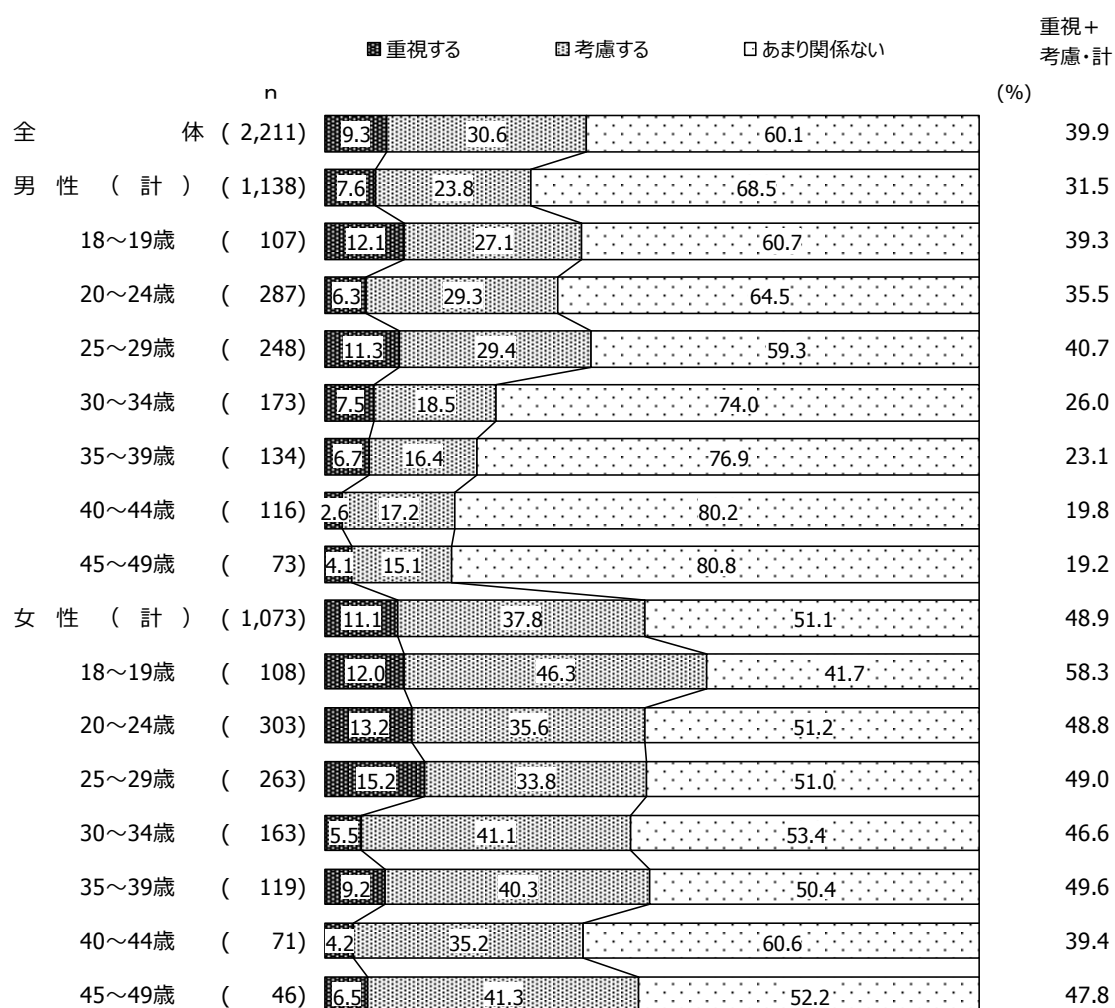


①相手の学歴

【性別・年齢別】

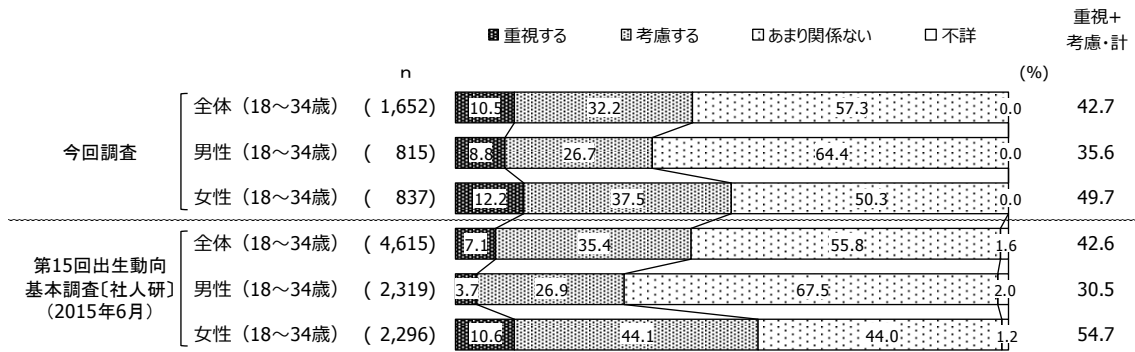
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が31.5%、女性（計）が48.9%となっており、女性のほうが男性よりも17.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、女性の18～19歳で「重視する＋考慮する」の割合が58.3%と、他の性別・年齢層より高くなっている。また、男性の30歳以上では「あまり関係ない」の割合が7割を超えて高くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では42.7%、第15回出生動向基本調査では42.6%となっており、今回調査と第15回出生動向基本調査で大きな差はみられない。

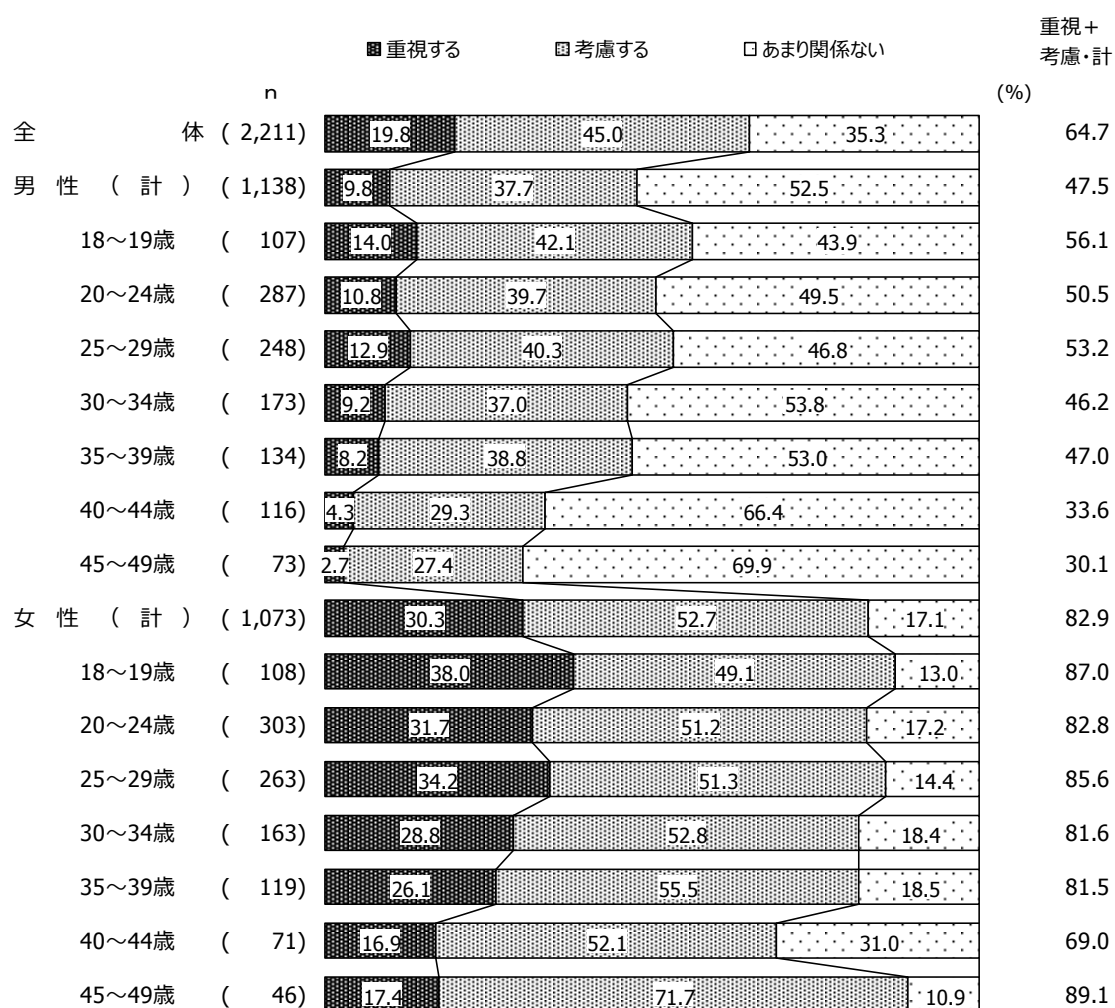


②相手の職業

【性別・年齢別】

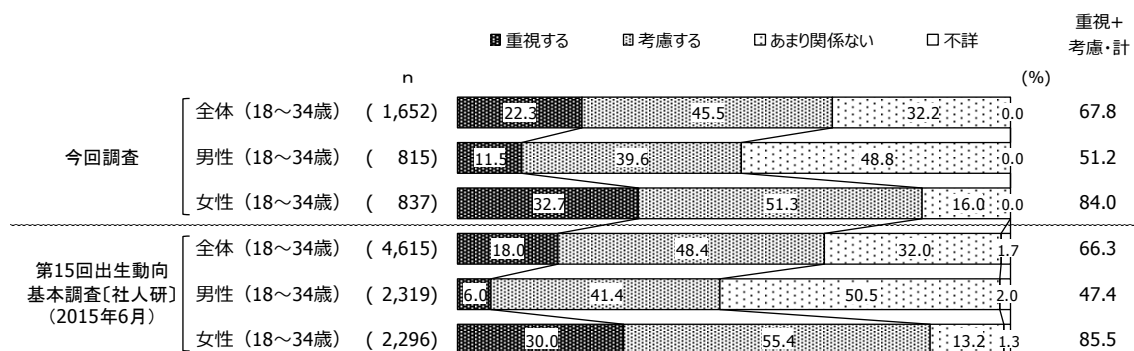
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が47.5%、女性（計）が82.9%となっており、女性のほうが男性よりも35.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、40～44歳を除く女性のすべての年齢層で「重視する＋考慮する」の割合が8割を超えて高くなっている。また、男性では、40～49歳で「あまり関係ない」の割合が6割を超えて高くなっており、年齢層が上がるにつれて「あまり関係ない」の割合が高くなる傾向がある。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では67.8%、第15回出生動向基本調査では66.3%となっており、今回調査と第15回出生動向基本調査で大きな差はみられない。

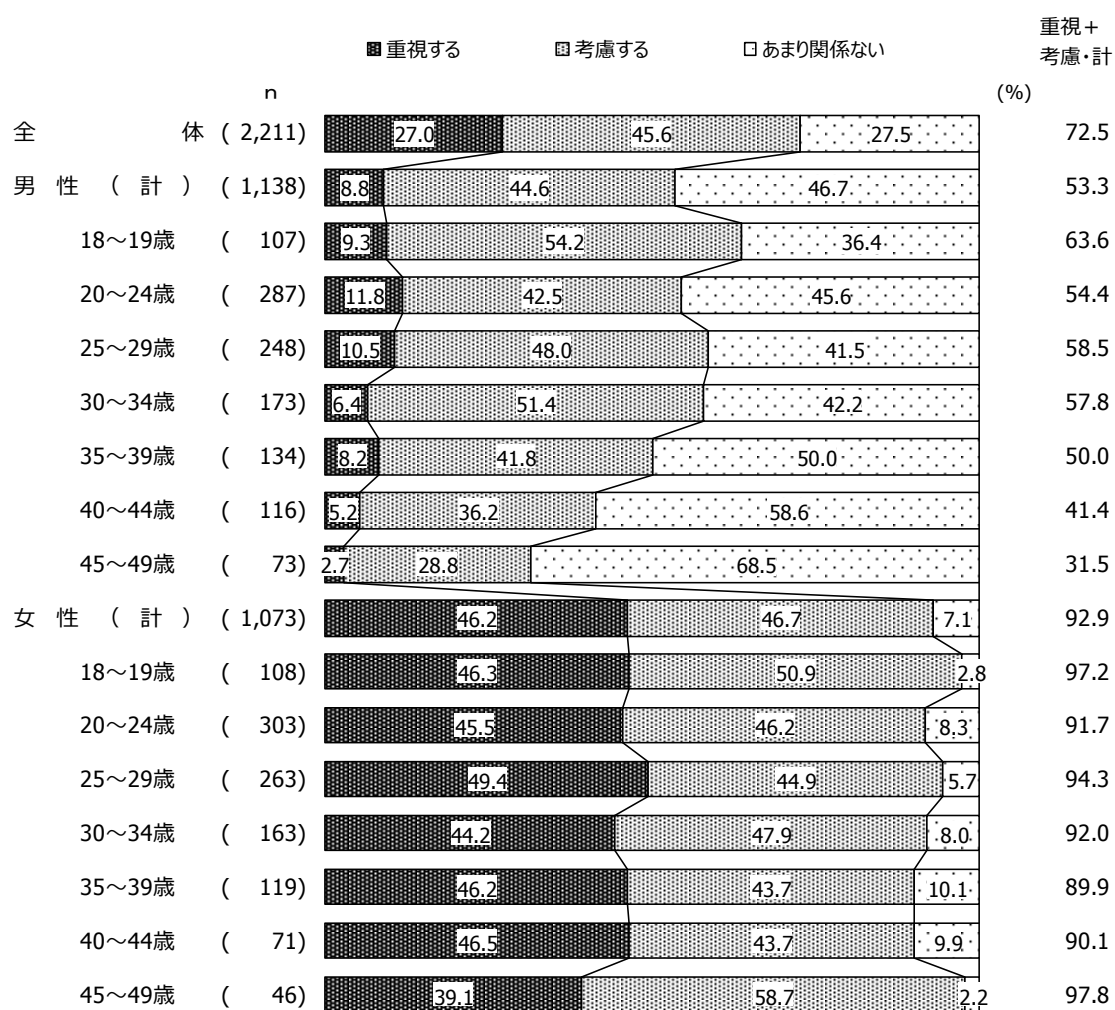


③相手の収入などの経済力

【性別・年齢別】

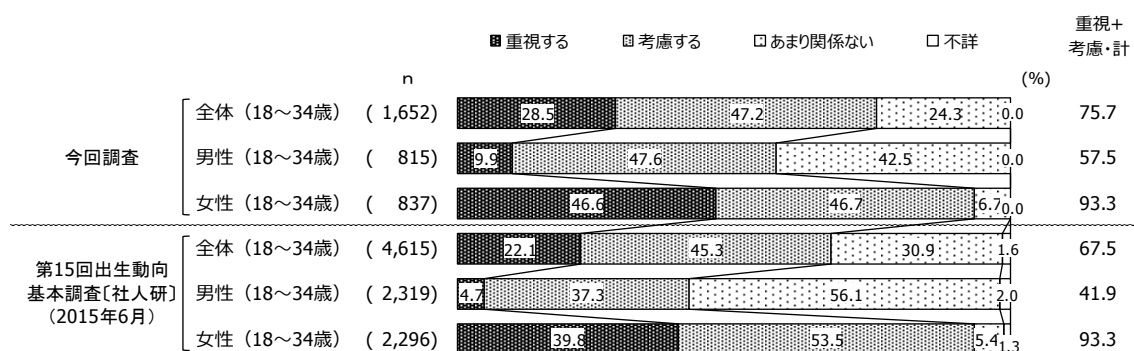
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が53.3%、女性（計）が92.9%となっており、女性のほうが男性よりも39.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、女性のすべての年齢層で「重視する＋考慮する」の割合が約9割～9割台後半と高くなっている。また、男性の場合、年齢が上がるにつれて「あまり関係ない」の割合が高くなる傾向がみられる。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では75.7%、第15回出生動向基本調査では67.5%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査と比べて8.2ポイント高くなっている。

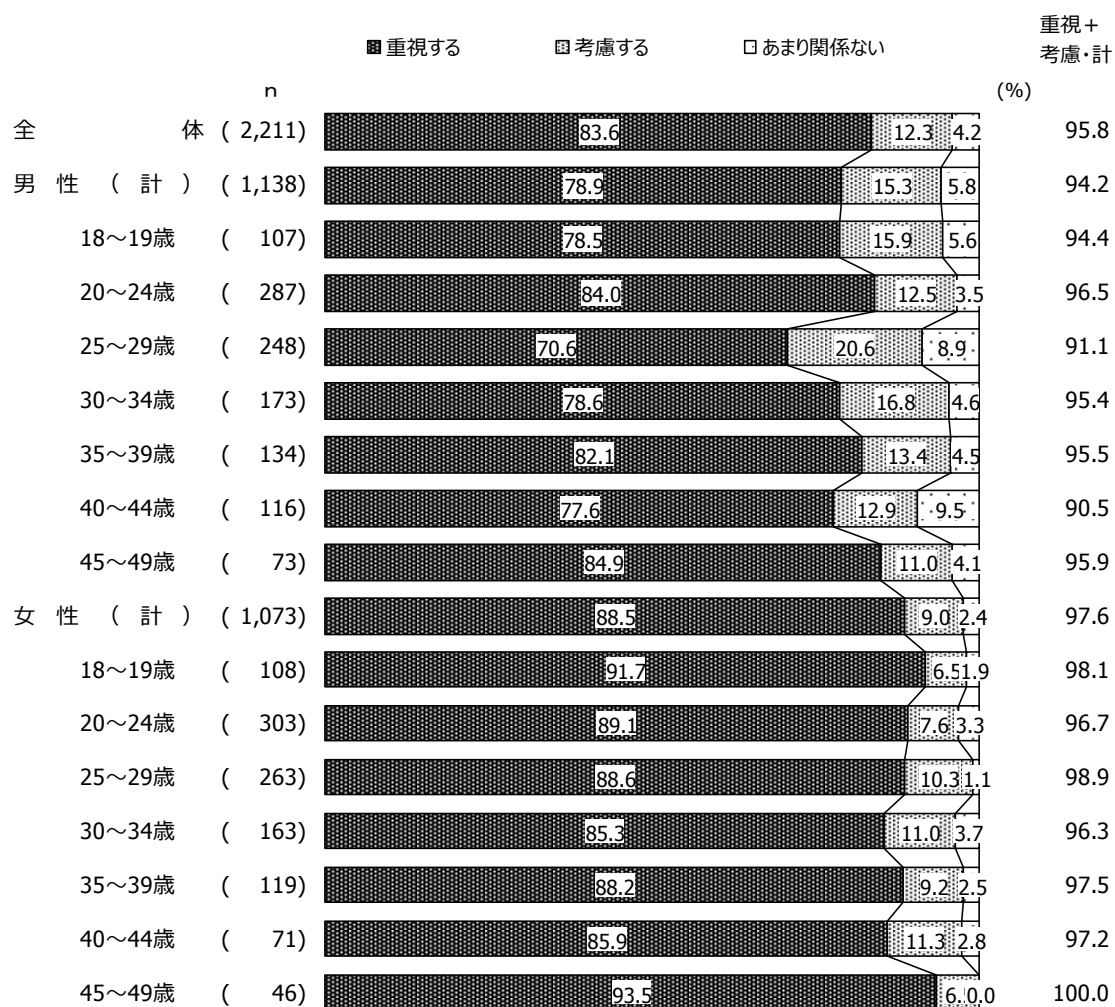


④相手の人柄

【性別・年齢別】

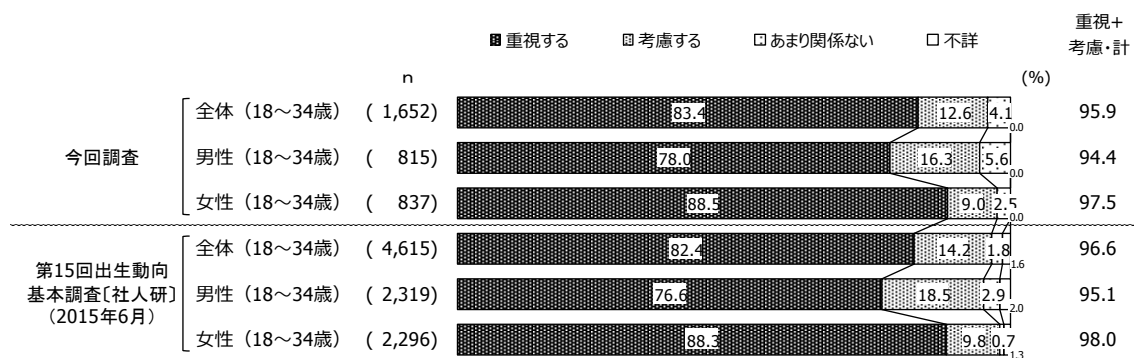
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が94.2%、女性（計）が97.6%となっており、女性のほうが男性よりも3.4ポイント高くなっている。また、「重視する」の割合だけをみると、男性（計）が78.9%、女性（計）が88.5%となっており、女性のほうが男性よりも9.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の25～29歳で「重視する」の割合が70.6%と、他の性別・年齢層と比べて低い。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では95.9%、第15回出生動向基本調査では96.6%となっており、今回調査と第15回出生動向基本調査で大きな差はみられない。

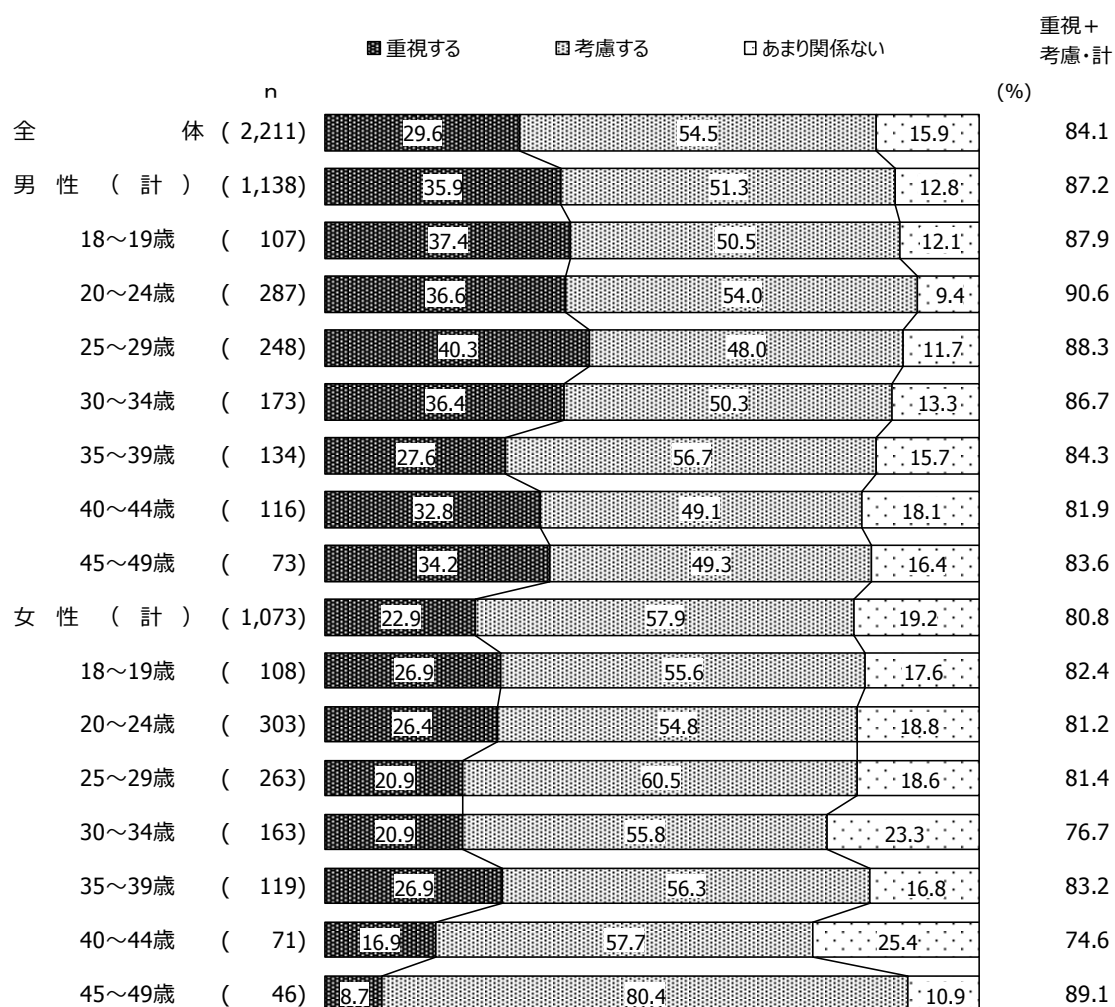


⑤相手の容姿

【性別・年齢別】

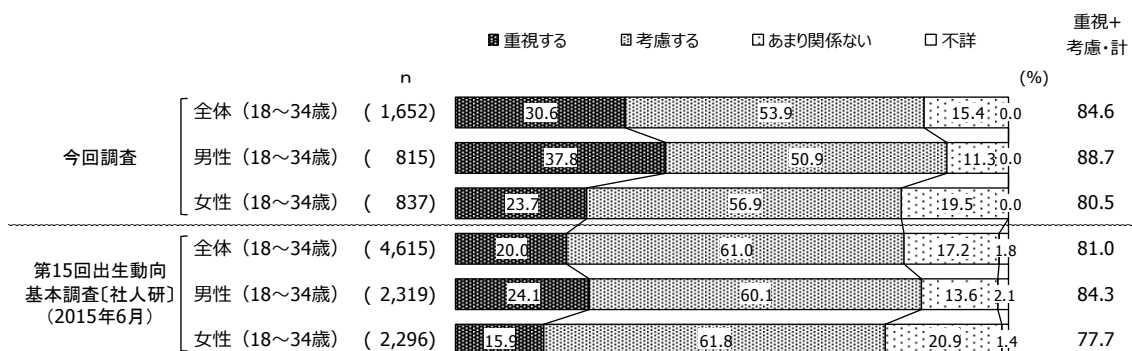
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が87.2%、女性（計）が80.8%となっており、男性のほうが女性よりも6.4ポイント高くなっている。また、「重視する」の割合だけをみると、男性（計）が35.9%、女性（計）が22.9%となっており、男性のほうが女性よりも13.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の18～34歳で「重視する」の割合が3割台半ばから4割と、他の性別・年齢層と比べて高い。一方、女性の45～49歳では「重視する」の割合が8.7%と、他の性別・年齢層と比べて特に低くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では84.6%、第15回出生動向基本調査では81.0%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査より3.6ポイント高くなっている。

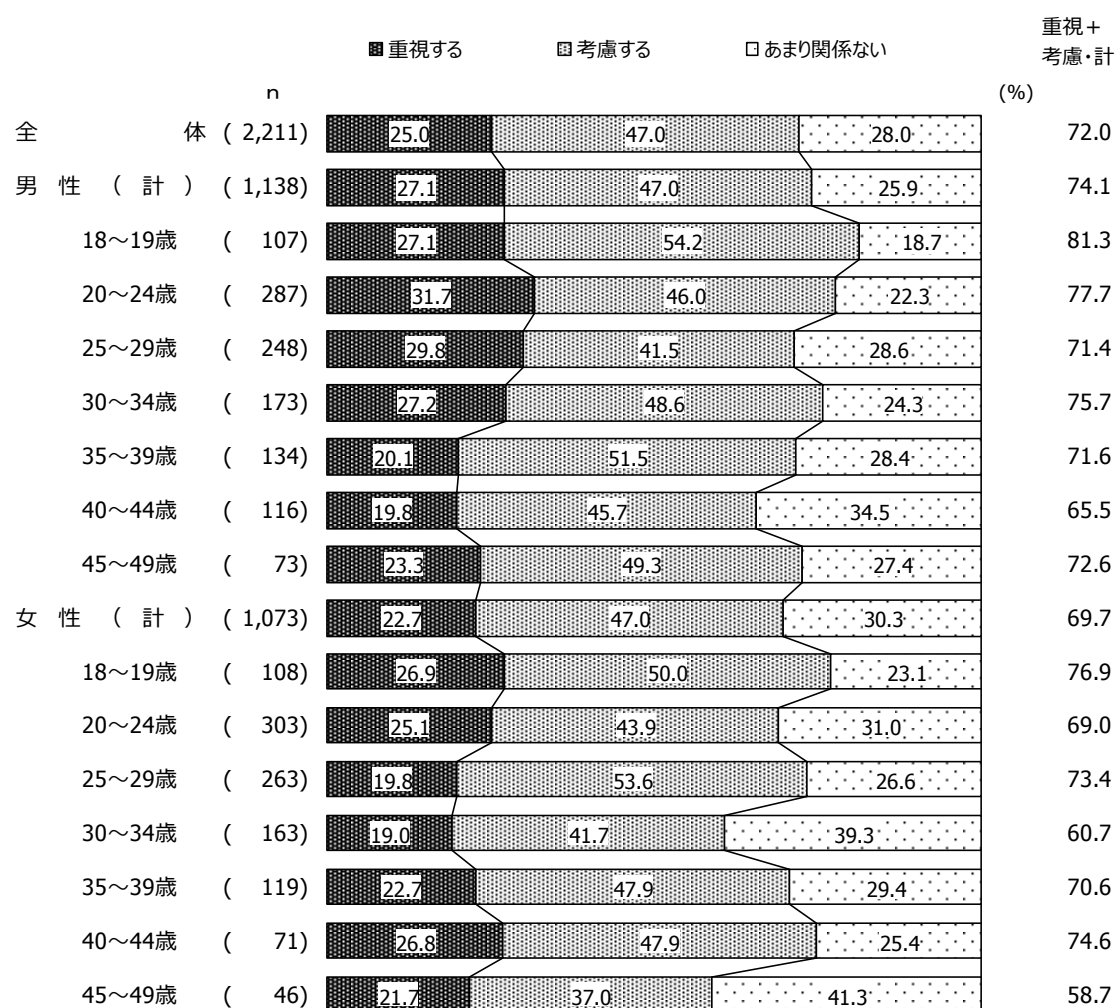


⑥共通の趣味の有無

【性別・年齢別】

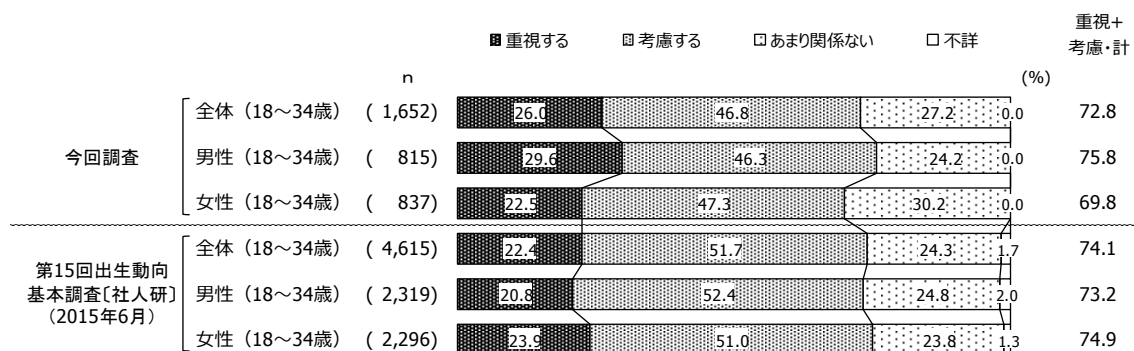
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が74.1%、女性（計）が69.7%となっており、男性のほうが女性よりも4.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の18～19歳で「重視する＋考慮する」の割合が81.3%と、他の性別・年齢層と比べて高くなっている。一方、女性の45～49歳では「重視する＋考慮する」の割合が58.7%と、他の性別・年齢層と比べて低い。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では72.8%、第15回出生動向基本調査では74.1%となっており、今回調査と第15回出生動向基本調査で大きな差はみられない。

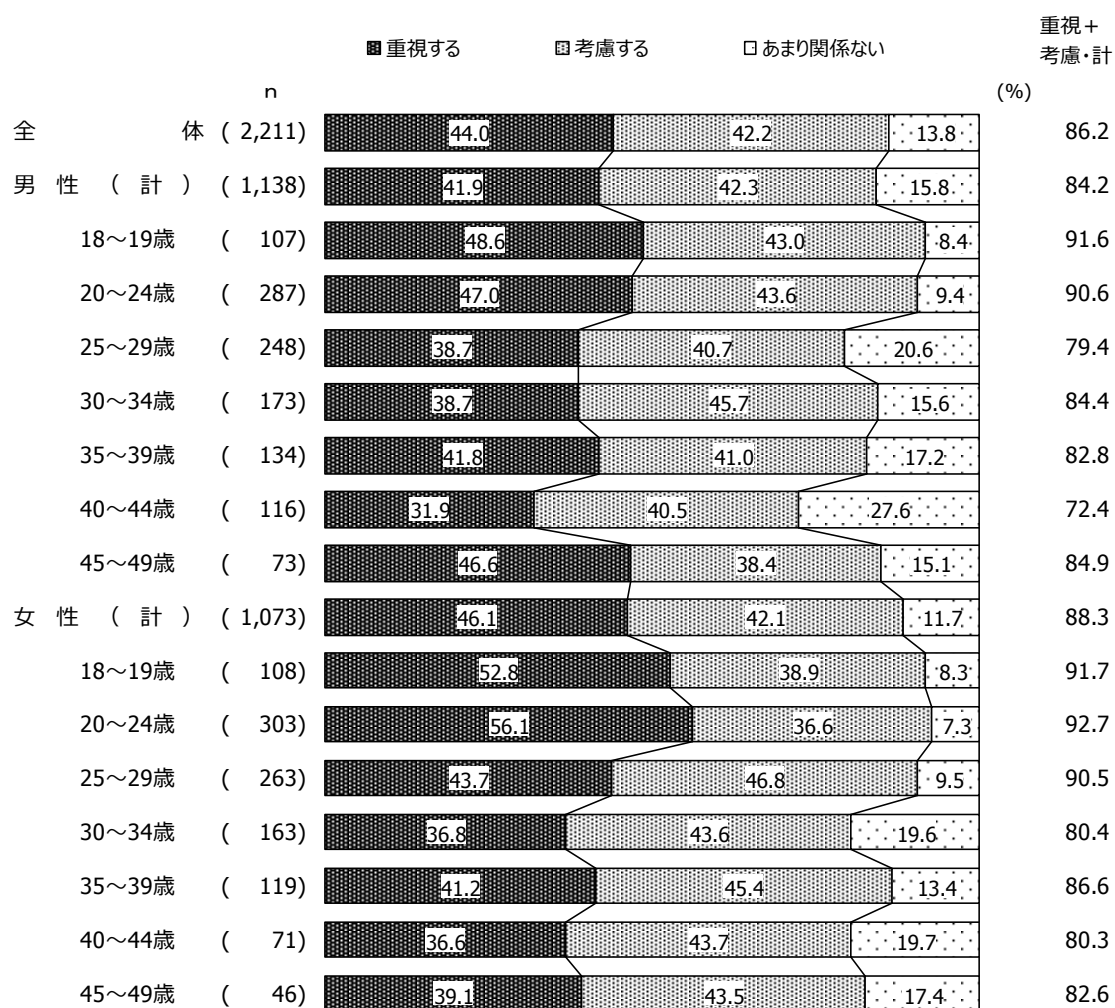


⑦自分の仕事に対する理解と協力

【性別・年齢別】

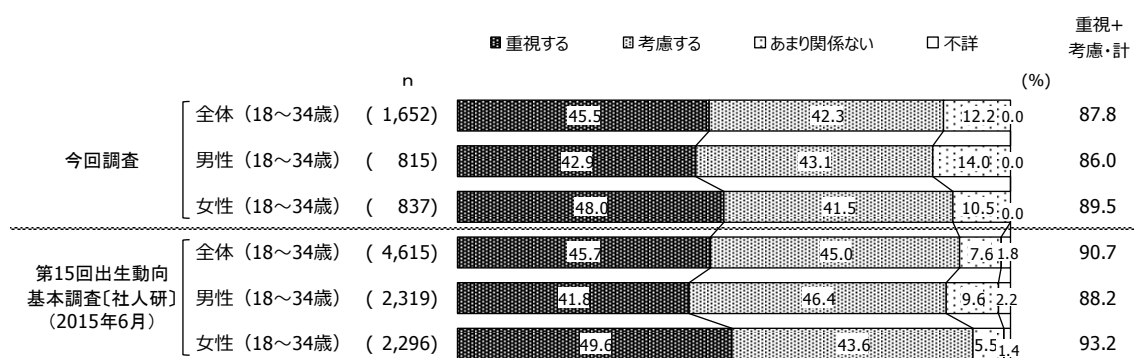
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が84.2%、女性（計）が88.3%となっており、女性のほうが男性よりも4.1ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の18～24歳、女性の18～29歳で「重視する＋考慮する」の割合が9割を超えており、他の年齢層と比べて高い。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では87.8%、第15回出生動向基本調査では90.7%となっており、今回調査と第15回出生動向基本調査で大きな差はみられない。

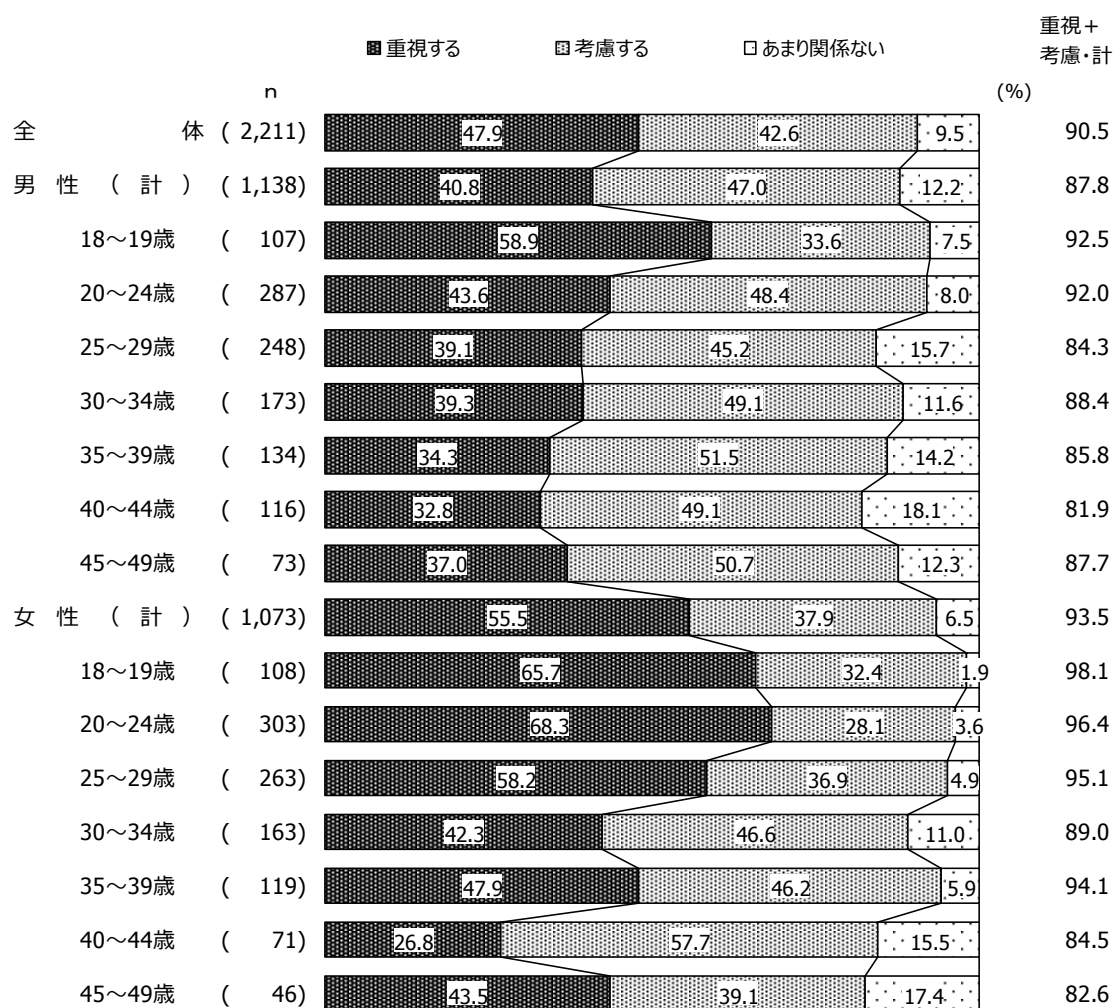


⑧家事・育児に対する能力や姿勢

【性別・年齢別】

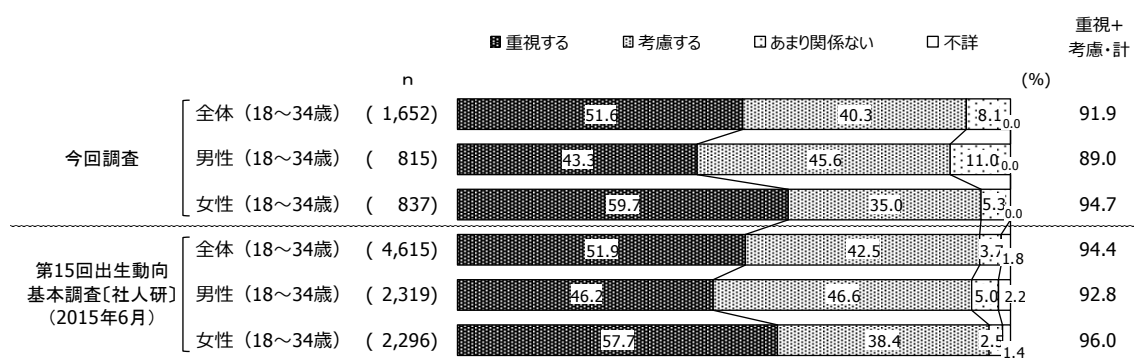
性別でみると、「重視する＋考慮する」の割合は男性（計）が87.8%、女性（計）が93.5%となっており、女性のほうが男性よりも5.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、「重視する」の割合が、男性の18～19歳で約6割、女性の18～24歳で6割を超えており、他の年齢層と比べて高くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、「重視する＋考慮する」の割合は今回調査では91.9%、第15回出生動向基本調査では94.4%となっており、今回調査と第15回出生動向基本調査で大きな差はみられない。

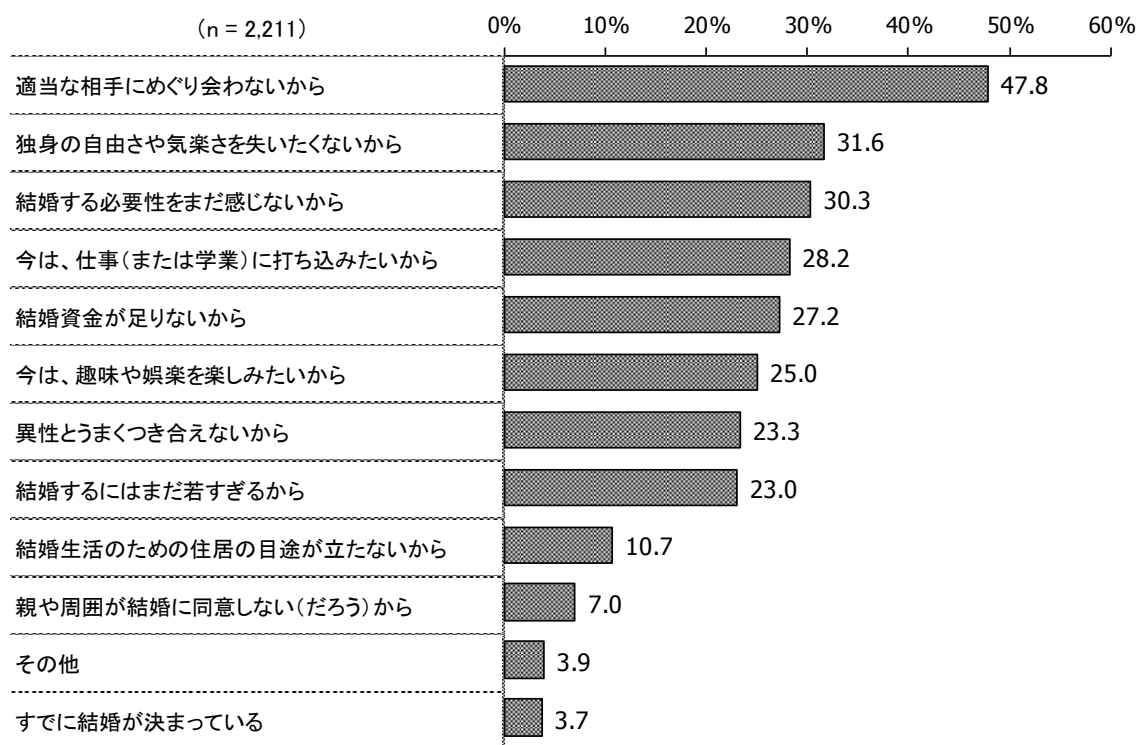


18 独身でいる理由

問25 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最も当てはまると思う理由を最大3つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の理由】【第2の理由】【第3の理由】それぞれ1つずつ）

「いずれ結婚するつもり」と回答した人の現在独身でいる理由は、「適当な相手にめぐり会わないから」の割合が47.8%で最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が31.6%、「結婚する必要性をまだ感じないから」が30.3%、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が28.2%、「結婚資金が足りないから」が27.2%、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が25.0%などと続いている。

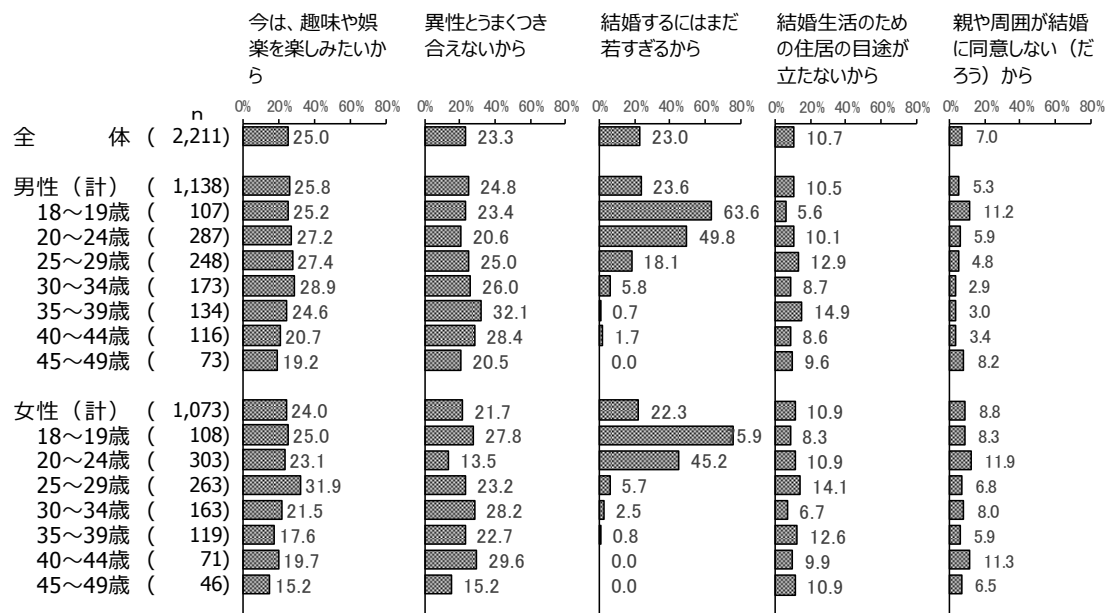
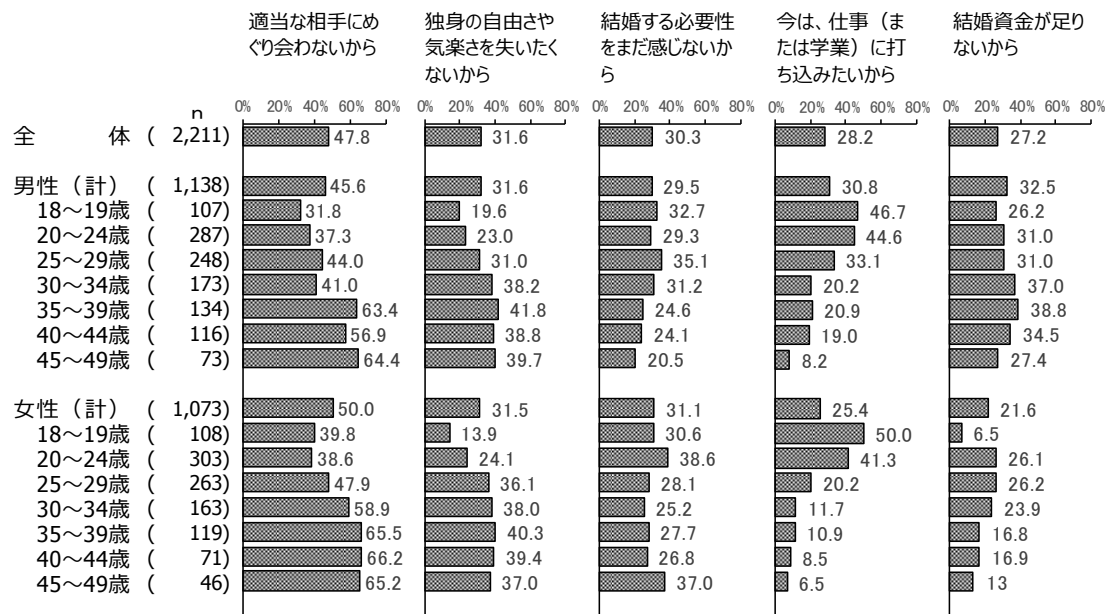
【最大の理由～第3の理由の合計】

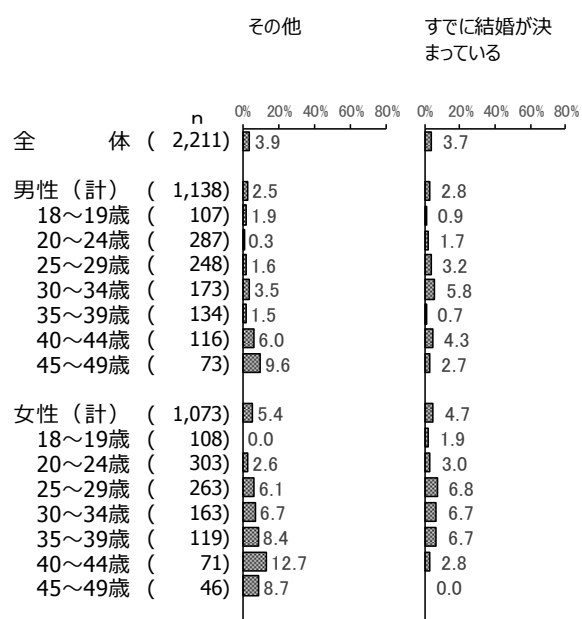


【性別・年齢別】

性別でみると、「結婚資金が足りないから」の割合は男性（計）が32.5%、女性（計）が21.6%となっており、男性のほうが女性よりも10.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに18～24歳で「結婚するにはまだ若すぎるから」と「仕事（または学業）に打ち込みたいから」の割合が、他の年齢層よりも高くなっている。また、男性の35歳以上と女性の30歳以上では「適当な相手にめぐり会わないから」の割合が5割を超え、他の年齢層よりも高い。

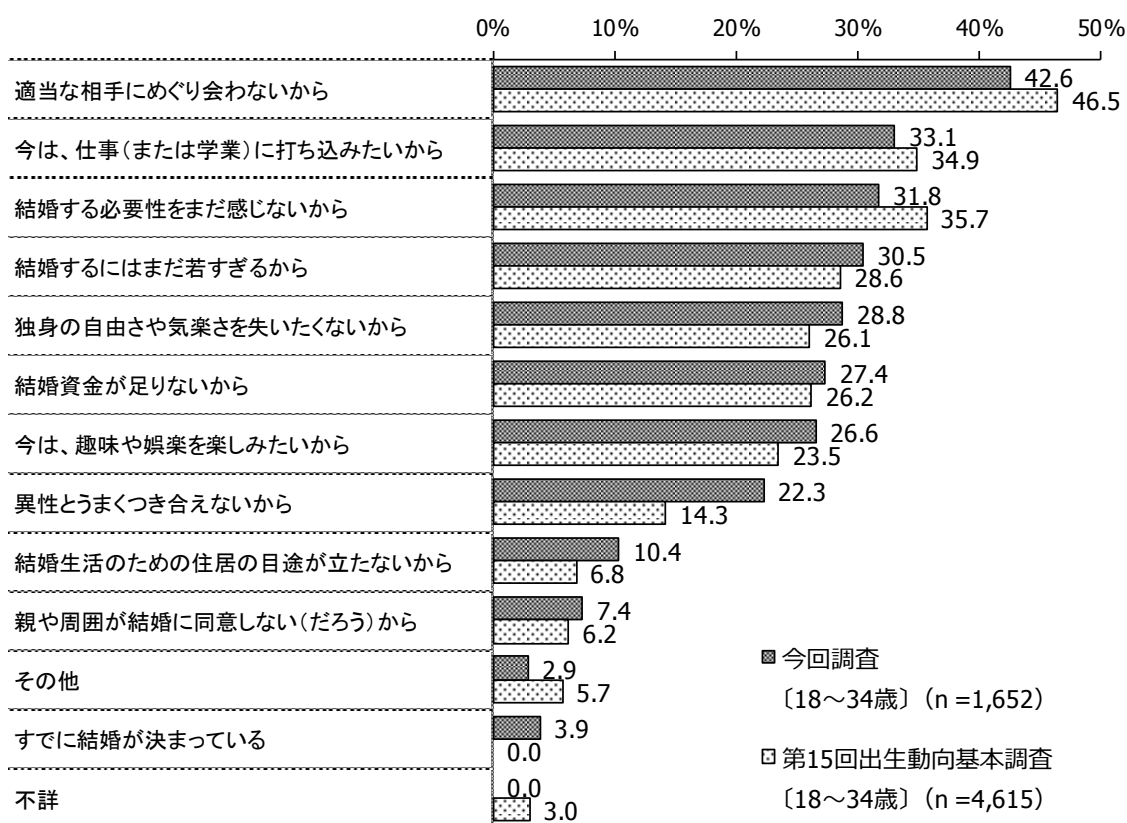




【国の調査との比較】

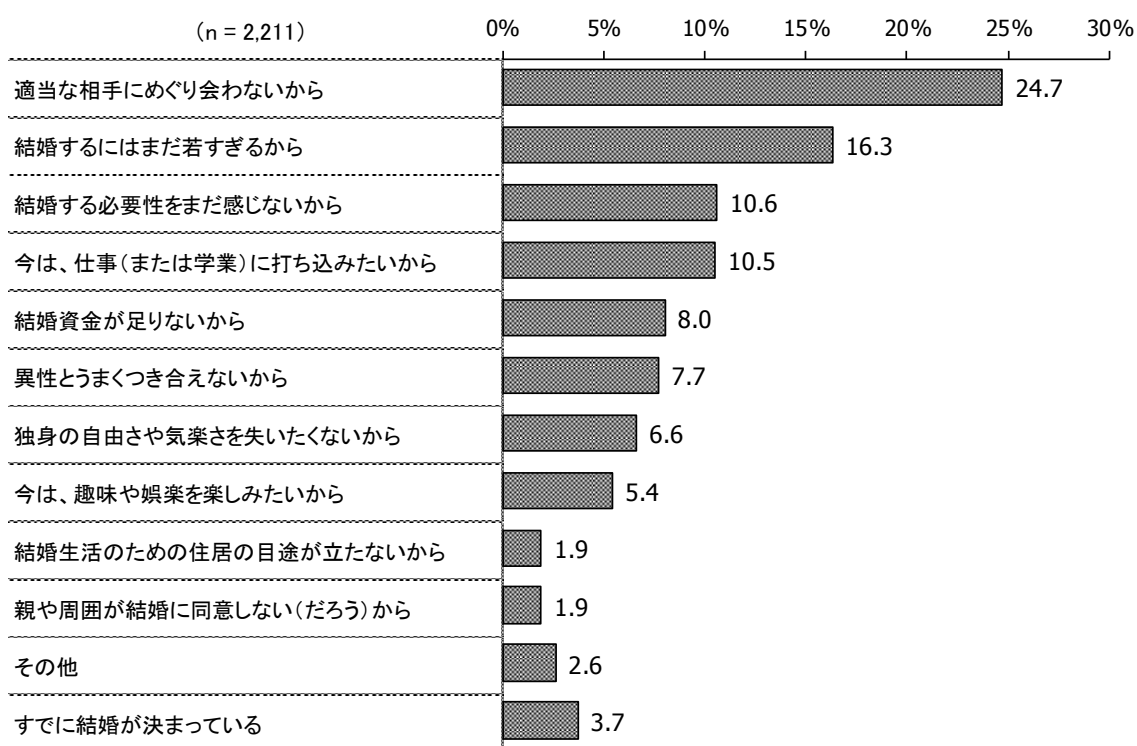
国の調査と比較してみると、「適当な相手にめぐり会わないから」の割合は今回調査では42.6%、第15回出生動向基本調査では46.5%となっており、今回調査と比べて第15回出生動向基本調査のほうが3.9ポイント高くなっている。今回調査と第15回出生動向基本調査で差がみられる「異性とうまくつき合えないから」の割合は今回調査では22.3%、第15回出生動向基本調査では14.3%となっており、今回調査のほうが第15回出生動向基本調査より8.0ポイント高くなっている。

【最大の理由～第3の理由の合計】



「いずれ結婚するつもり」と回答した人の現在独身でいる最大の理由は、「適当な相手にめぐり会わないから」の割合が24.7%で最も高く、次いで「結婚するにはまだ若すぎるから」が16.3%、「結婚する必要性をまだ感じないから」が10.6%、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が10.5%、「結婚資金が足りないから」が8.0%、「異性とうまくつき合えないから」が7.7%などと続いている。

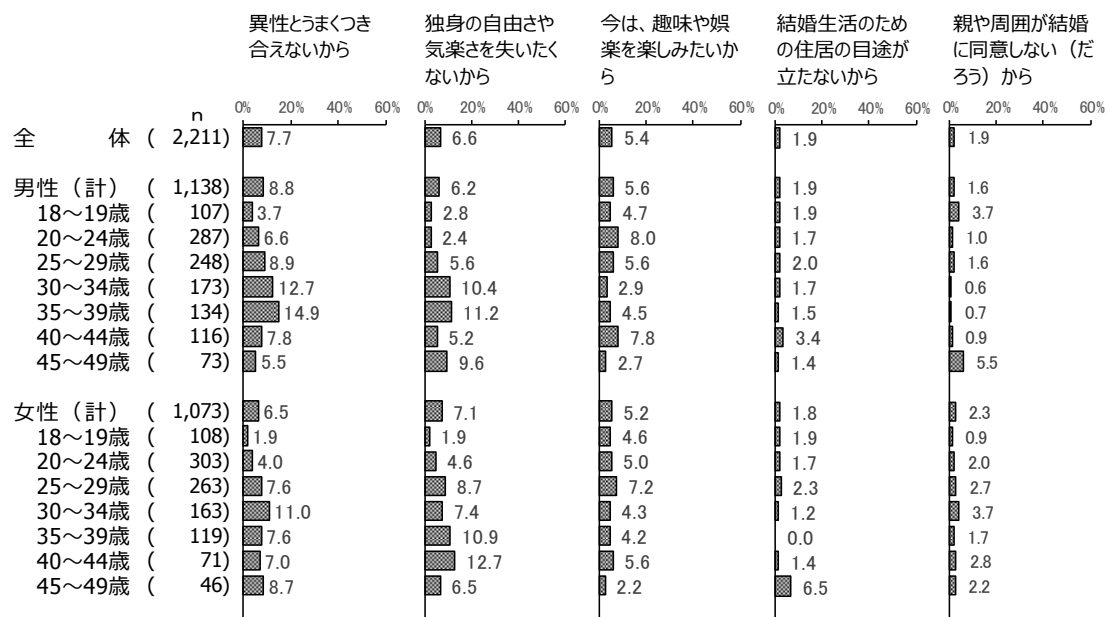
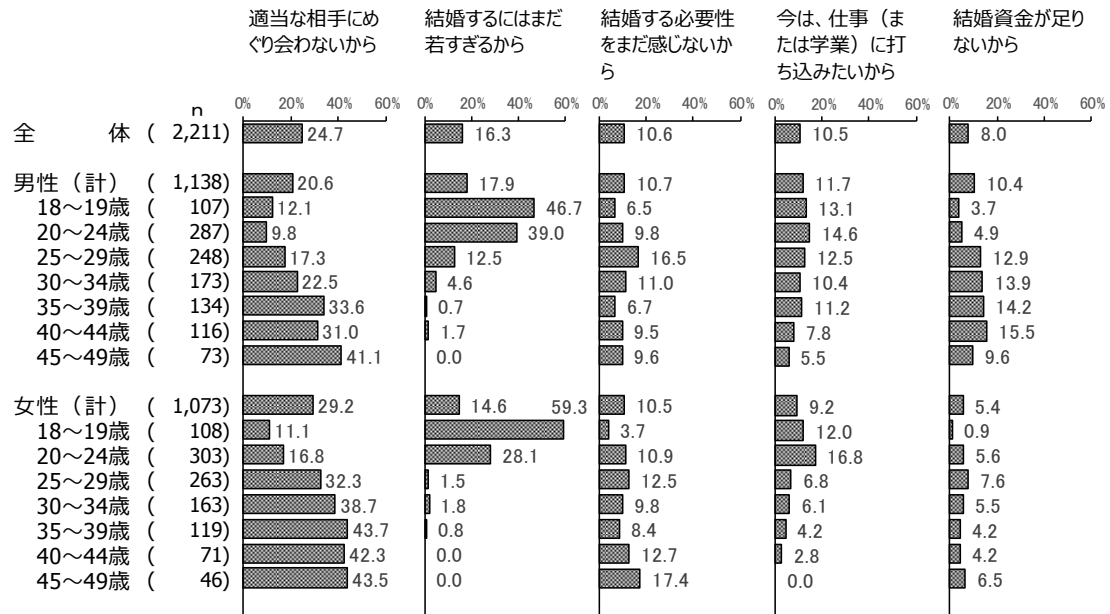
【最大の理由】

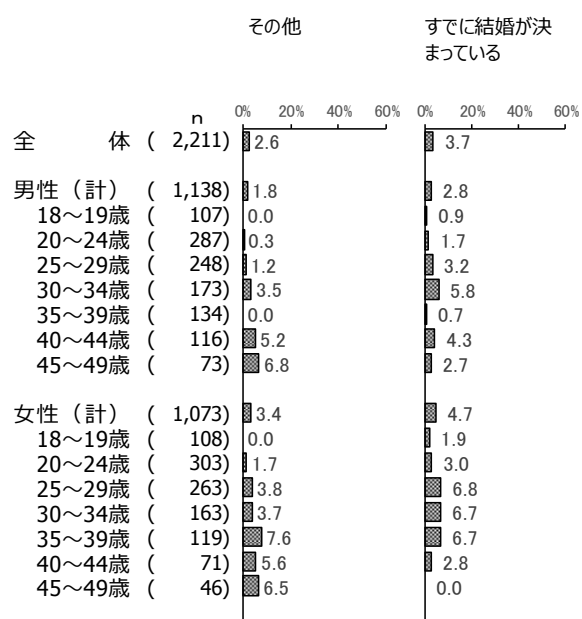


【性別・年齢別】

性別でみると、「適当な相手にめぐり会わないから」の割合は男性（計）が20.6%、女性（計）が29.2%となっており、女性のほうが男性よりも8.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに18～24歳で「結婚するにはまだ若すぎるから」の割合が、他の年齢層よりも高くなっている。また、男性の35歳以上と女性の25歳以上では「適当な相手にめぐり会わないから」の割合が3割を超え、他の年齢層よりも高い。

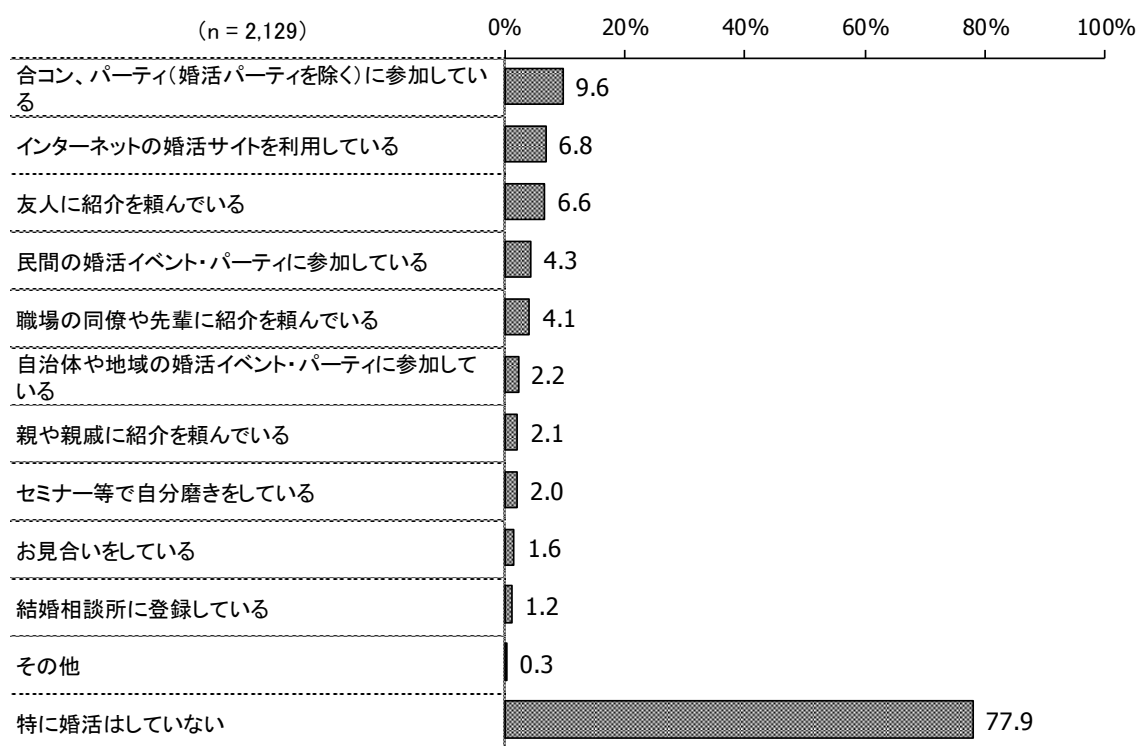




19 現在の結婚に向けた活動

問26 現在の結婚に向けた活動（婚活）についておたずねします。あなたは現在、どのような婚活をしていますか。（複数回答）

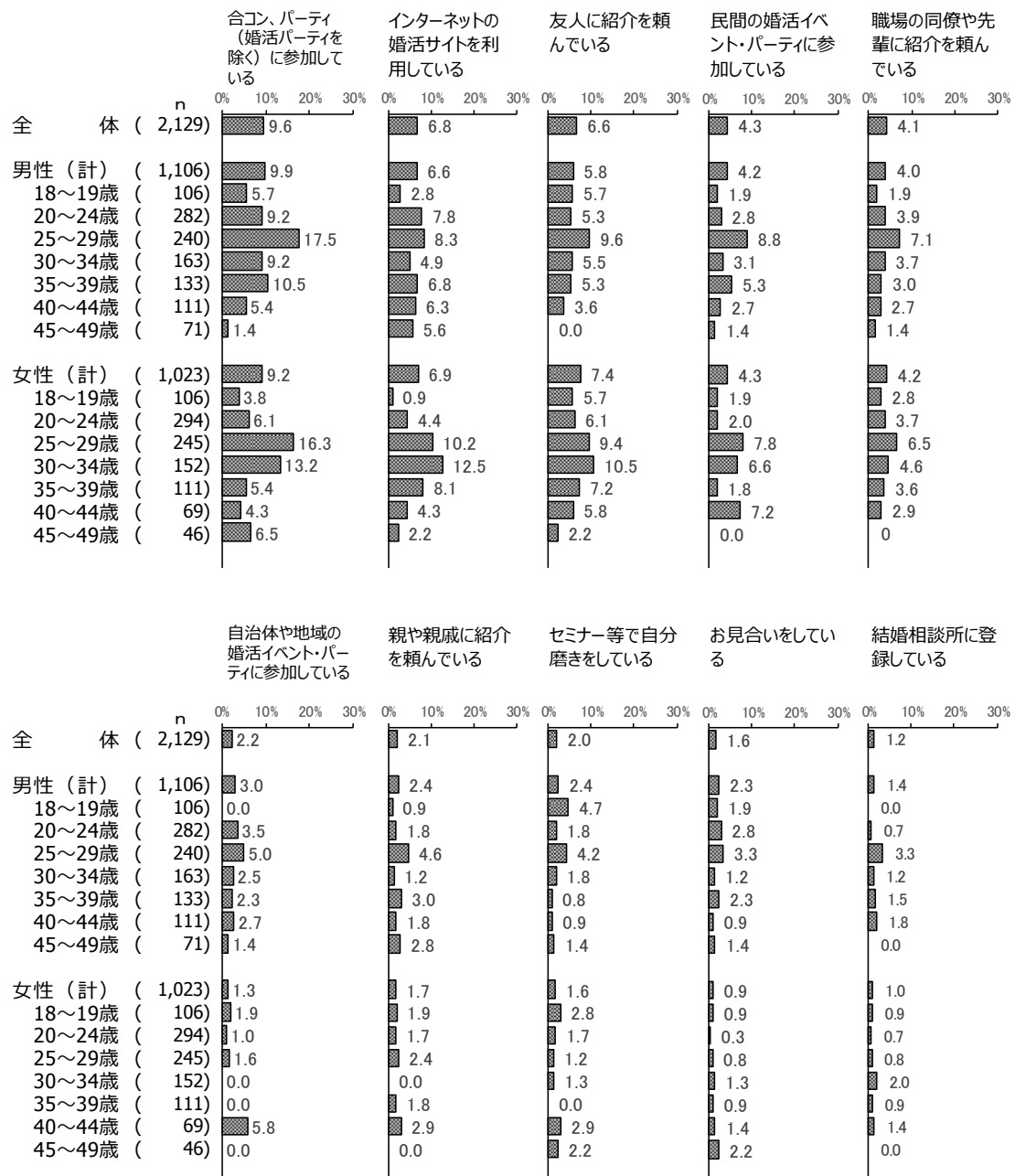
「いずれ結婚するつもり」と回答した人のうち、現在独身でいる理由で、「すでに結婚が決まっている」を選択しなかった人に、現在の結婚に向けた活動（婚活）について聴取したところ、婚活の内容として「合コン、パーティ（婚活パーティを除く）に参加している」の割合が9.6%で最も高く、次いで「インターネットの婚活サイトを利用している」が6.8%、「友人に紹介を頼んでいる」が6.6%などと続いている。なお、「特に婚活はしていない」は77.9%と約8割に達する。

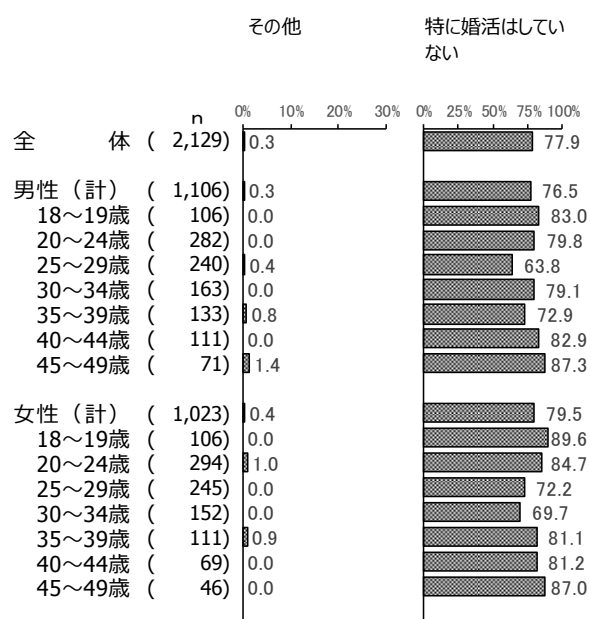


【性別・年齢別】

性別でみると、いずれの項目も大きな差はみられない。

性別・年齢別でみると、男女ともに25～29歳では「合コン、パーティ（婚活パーティを除く）に参加している」の割合が他の年齢層よりも高い。また、男性の25～29歳と女性の30～34歳では「特に婚活はしていない」の割合が7割を下回り、他の年齢層よりも低い。

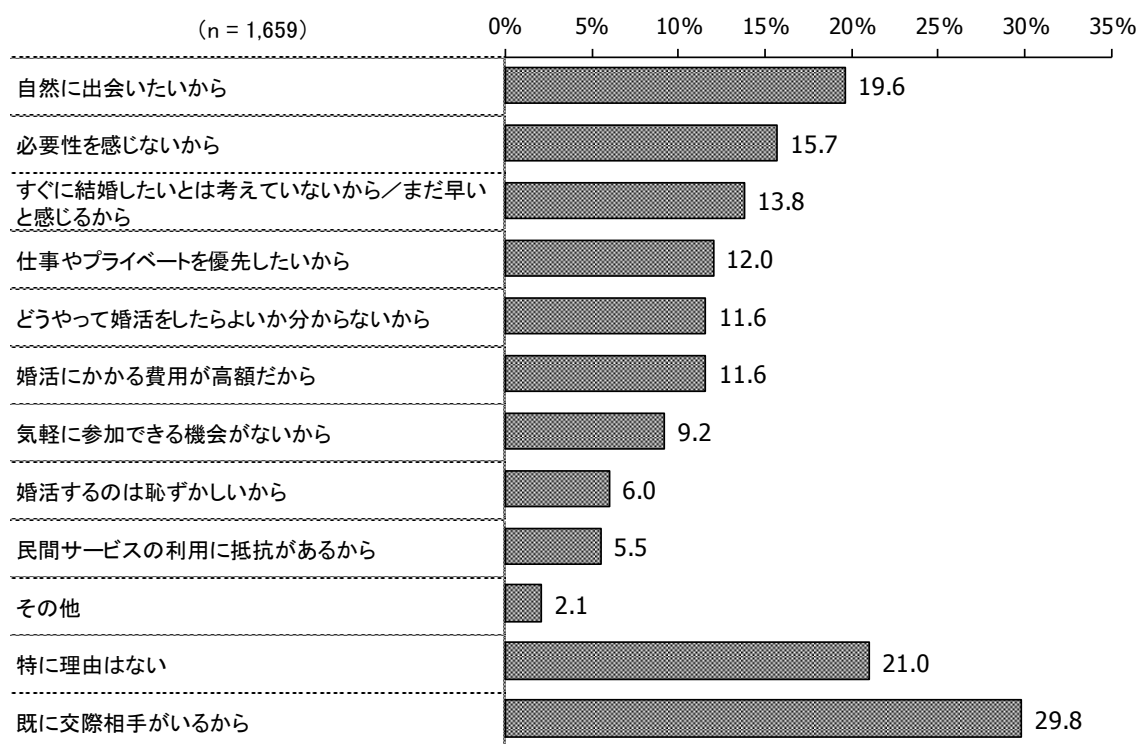




20 婚活の具体的な行動をとっていない理由

問27 現在、婚活について具体的な行動をとっていない理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。（複数回答）

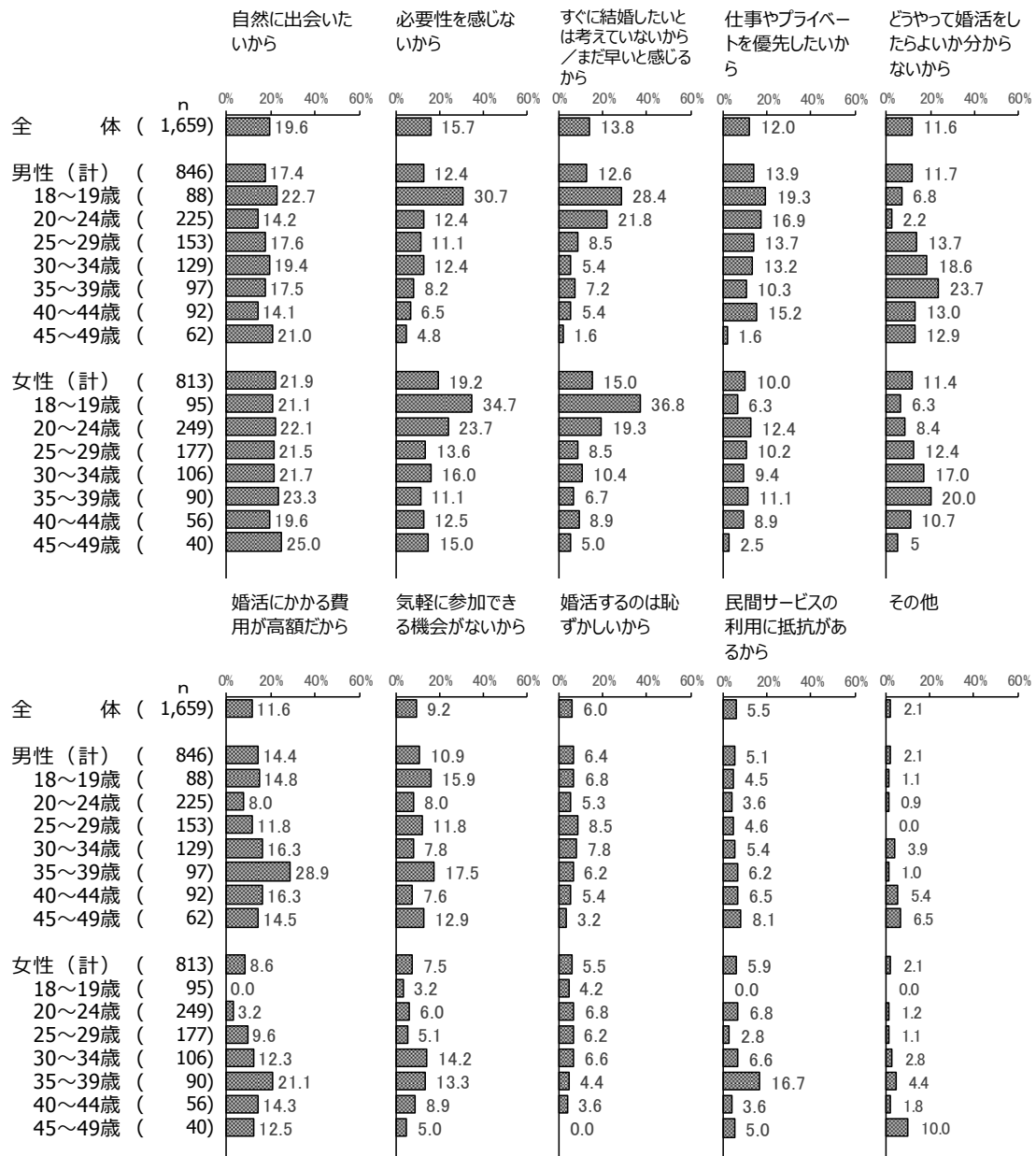
「特に婚活はしていない」人に現在、婚活について具体的な行動をとっていない理由を聴取したところ、「自然に出会いたいから」の割合が19.6%で最も高く、次いで「必要性を感じないから」が15.7%、「すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから」が13.8%、「仕事やプライベートを優先したいから」が12.0%、同率で「どうやって婚活をしたらよいか分からないから」と「婚活にかかる費用が高額だから」が11.6%など続いている。なお、「既に交際相手がいるから」は29.8%となっている。

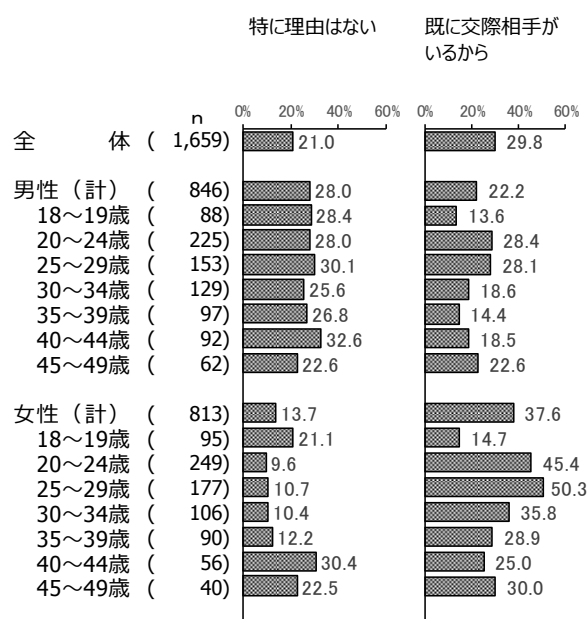


【性別・年齢別】

性別でみると、「必要性を感じないから」の割合は男性（計）が12.4%、女性（計）が19.2%となっており、女性のほうが男性よりも6.8ポイント高くなっている。また、「既に交際相手がいるから」の割合も男性（計）が22.2%、女性（計）が37.6%となっており、女性のほうが男性よりも15.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男女ともに18～19歳では「必要性を感じないから」と「すぐに結婚したいとは考えていないから／まだ早いと感じるから」の割合が、他の年齢層よりも高くなっている。

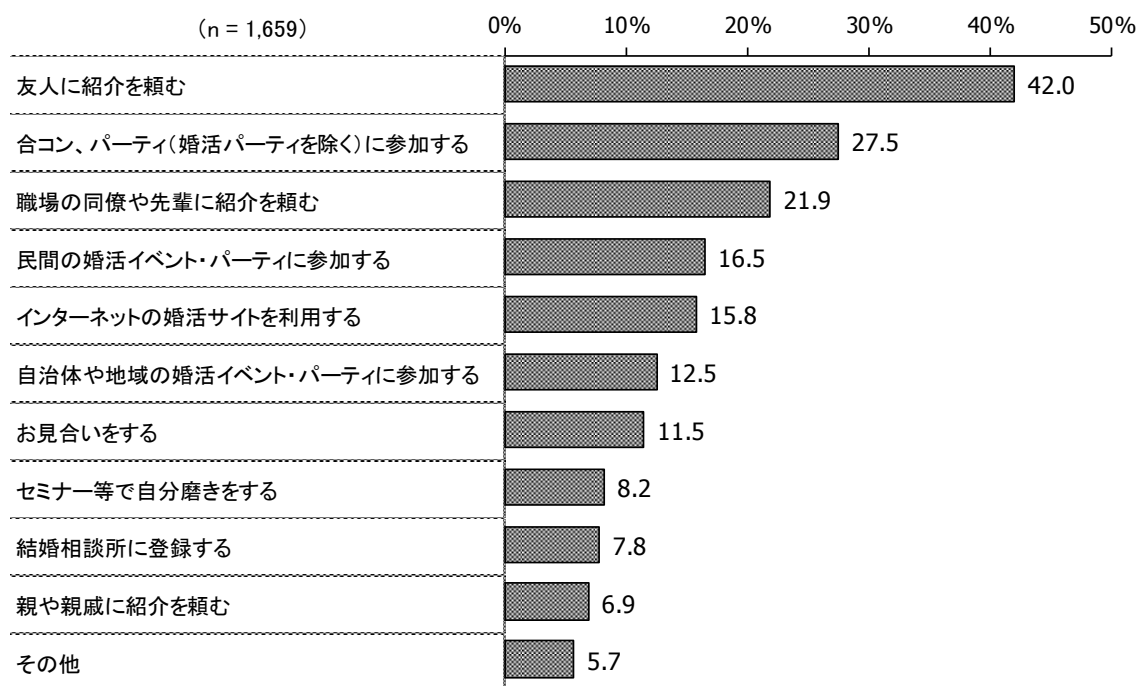




21 婚活するとしたらどのような婚活をしたいか

問28 あなたは、婚活するとしたらどのような婚活をしたいですか。次のうち、あてはまるものを全てお選びください。（複数回答）

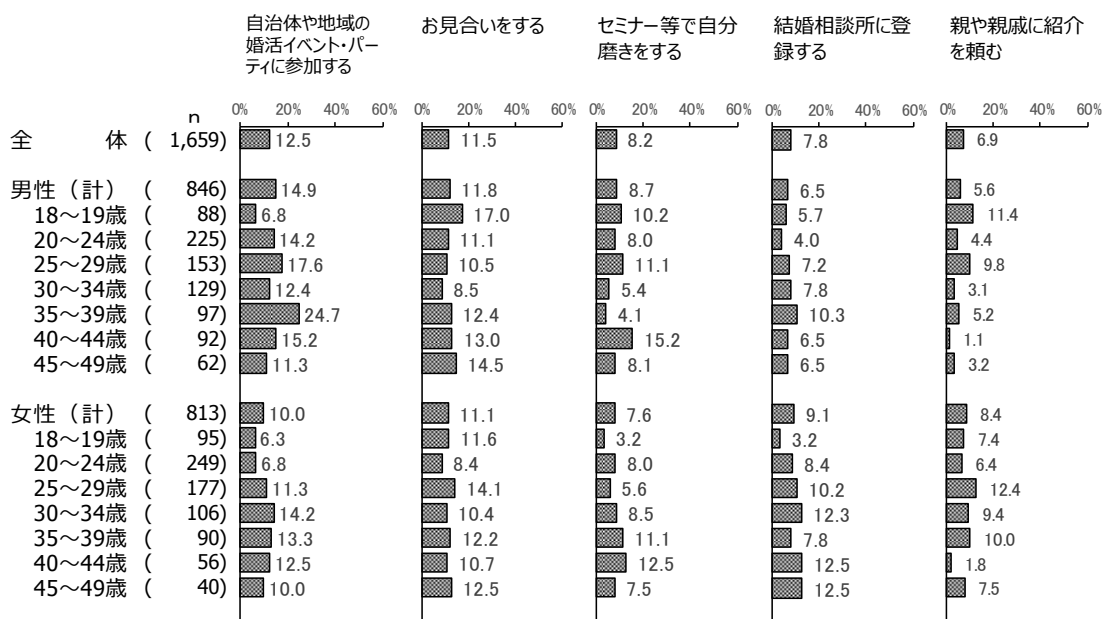
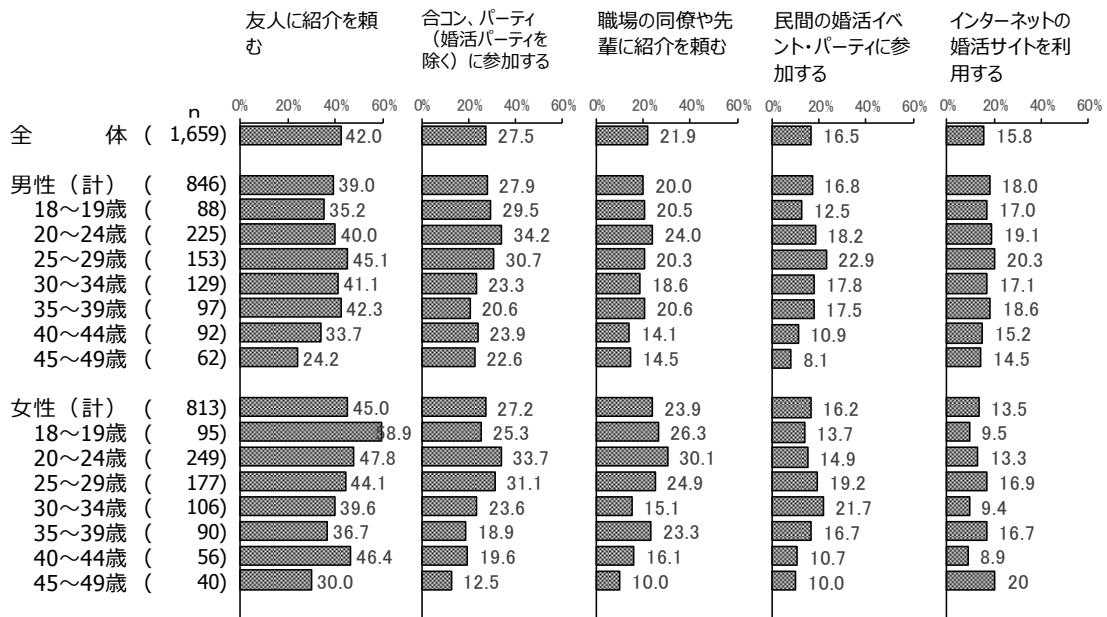
「特に婚活はしていない」人に、婚活するとしたらどのような婚活をしたいか聴取したところ、「友人に紹介を頼む」の割合が42.0%で最も高く、次いで「合コン、パーティ（婚活パーティを除く）に参加する」が27.5%、「職場の同僚や先輩に紹介を頼む」が21.9%、「民間の婚活イベント・パーティに参加する」が16.5%、「インターネットの婚活サイトを利用する」が15.8%、「自治体や地域の婚活イベント・パーティに参加する」が12.5%など続いている。



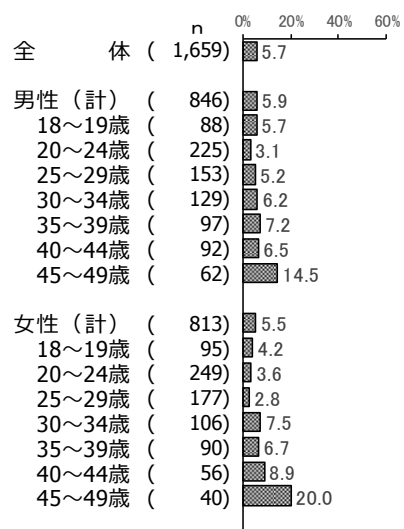
【性別・年齢別】

性別でみると、「友人に紹介を頼む」の割合は男性（計）が39.0%、女性（計）が45.0%となっており、女性のほうが男性よりも6.0ポイント高くなっている。一方、「自治体や地域の婚活イベント・パーティに参加する」の割合は男性（計）が14.9%、女性（計）が10.0%となっており、男性のほうが女性よりも4.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、女性の18～19歳では「友人に紹介を頼む」の割合が58.9%と、他の性別・年齢層に比べて高くなっている。また、男女ともに20～29歳では「合コン、パーティ（婚活パーティを除く）に参加する」の割合が3割を超えており、他の年齢層よりも高くなっている。



その他

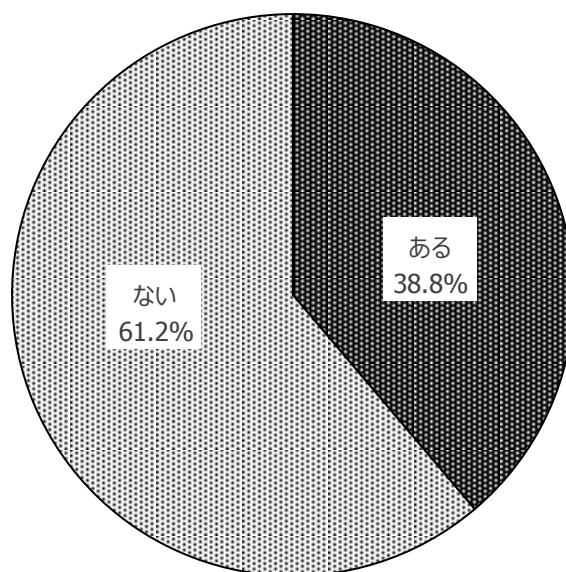


22 「いずれ結婚するつもり」と思ったことの有無

問29 現在の気持ちは別にして、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことはありますか。(単数回答)

自分の一生を通じて考えた場合の結婚に対する考えで、「一生結婚するつもりはない」と回答した人に、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことの有無を聴取したところ、「ある」は38.8%、「ない」は61.2%となっている。

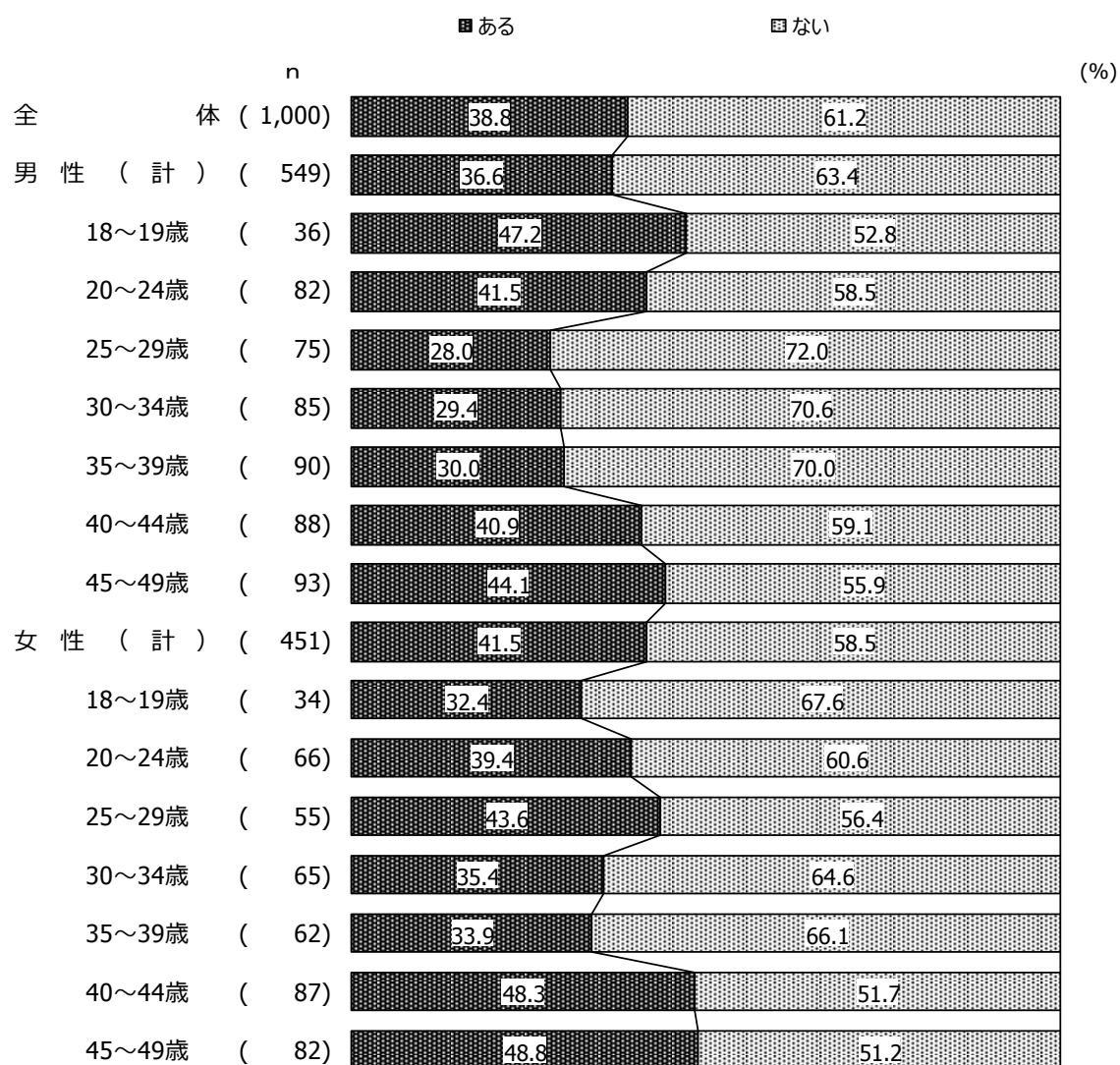
(n= 1,000)



【性別・年齢別】

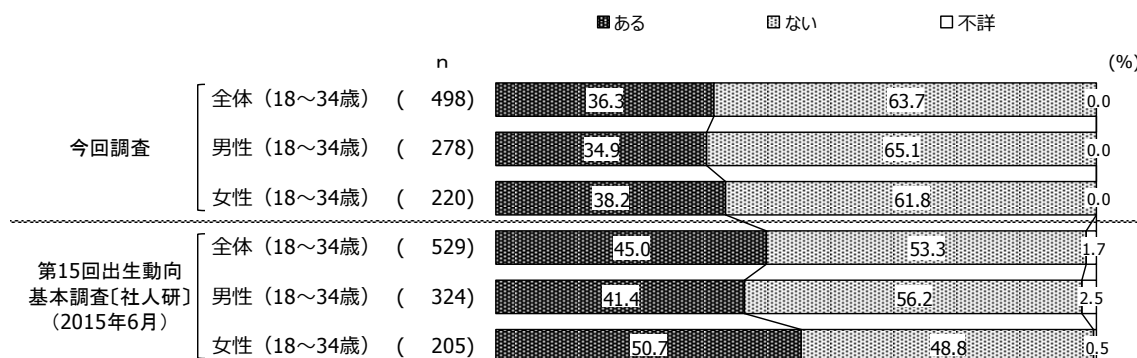
性別でみると、「ある」の割合は男性（計）が36.6%、女性（計）が41.5%となっており、女性のほうが男性よりも4.9ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男性の25～34歳では「ある」の割合が3割を下回り、低くなっている。一方、女性の40～49歳では「ある」の割合が約5割と高くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「ある」の割合は全体で36.3%、第15回出生動向基本調査の「ある」の割合は全体で45.0%となっており、今回調査と比べて第15回出生動向基本調査のほうが8.7ポイント高くなっている。



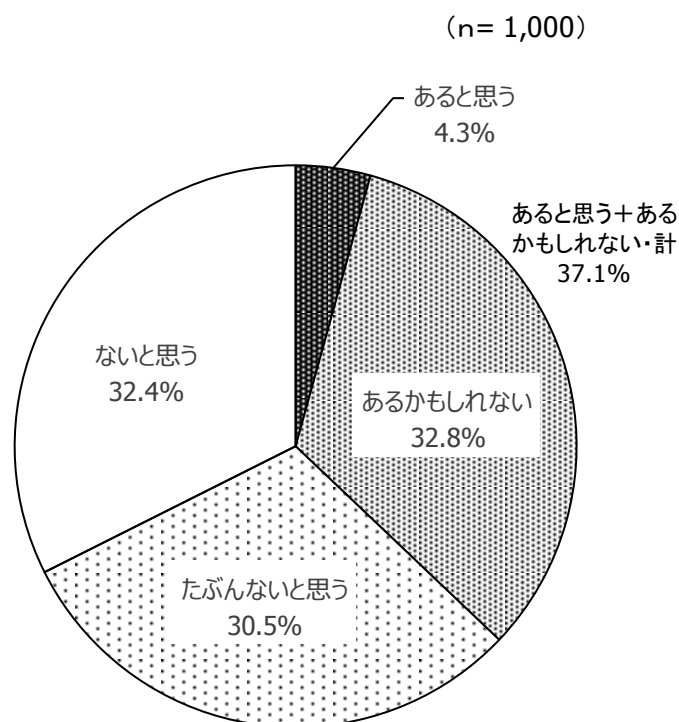
23 考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性

問30 今後、あなたのお考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性はありますか。
(単数回答)

【いずれ結婚するつもりに考えが変わる可能性の理由の例】

雇用・労働条件が改善する／収入や貯蓄が増える／子育て支援策が充実する／家事・育児を男女で分け合う社会になる／家族を養う責任を男女ともに担う社会になる／結婚に関する法律や制度が変わる／異性と出会う機会が増える／結婚したいと思う相手が現れる／子供ができる／自分や家族の個人的事情が変わるなど

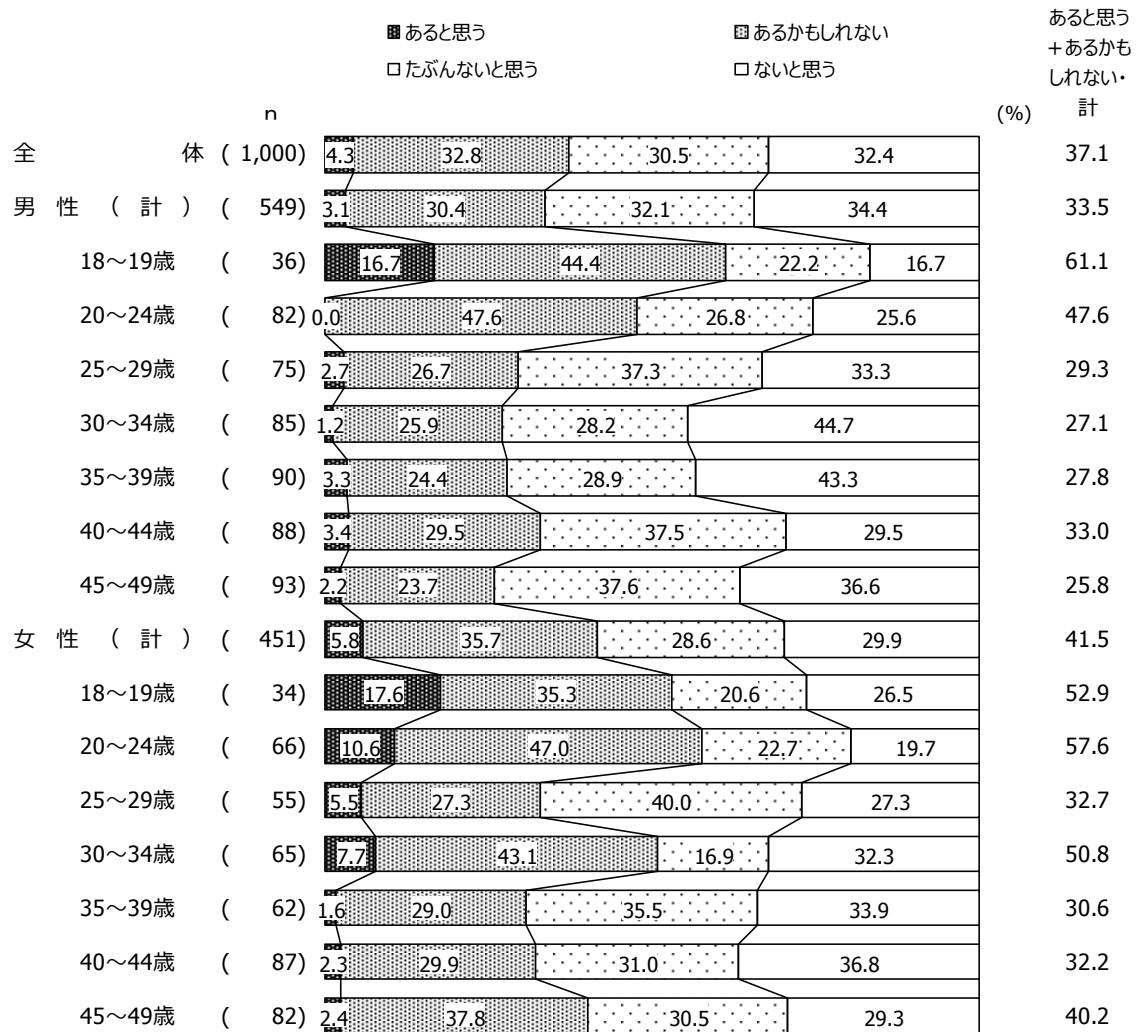
自分の一生を通じて考えた場合の結婚に対する考えで、「一生結婚するつもりはない」と回答した人に、今後、考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性があるかを聴取したところ、「あると思う」の割合が4.3%、「あるかもしれない」が32.8%となっており、「あると思う」と「あるかもしれない」を合わせた、「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性がある割合は37.1%となっている。なお、「たぶんないと思う」の割合が30.5%、「ないと思う」は32.4%となっている。



【性別・年齢別】

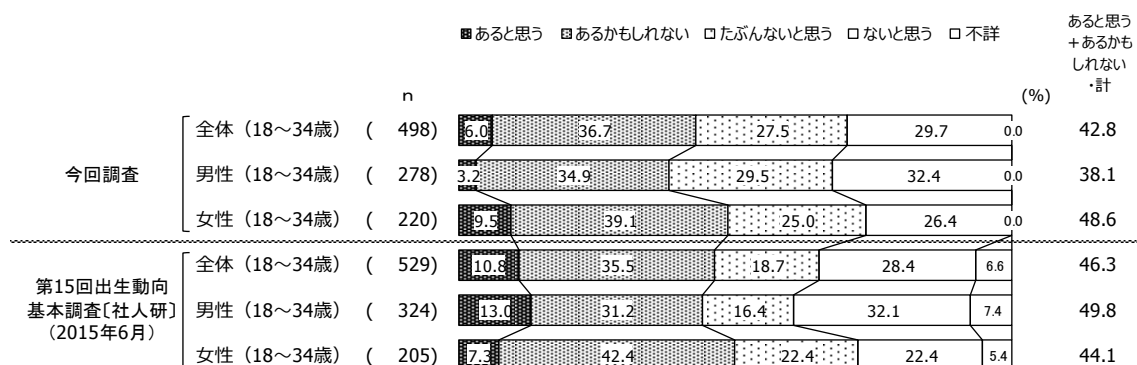
性別でみると、「あると思う」、「あるかもしれない」を合わせた「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性がある割合は、男性（計）が33.5%、女性（計）が41.5%となっており、女性のほうが男性よりも8.0ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の18～19歳で「あると思う」、「あるかもしれない」を合わせた「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性がある割合が6割を超えており、他の年齢層より高くなっている。



【国の調査との比較】

国の調査と比較してみると、今回調査の「あると思う」、「あるかもしれない」を合わせた「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性がある割合は全体で42.8%、第15回出生動向基本調査では46.3%となっており、今回調査よりも第15回出生動向基本調査のほうが3.5ポイント高くなっている。

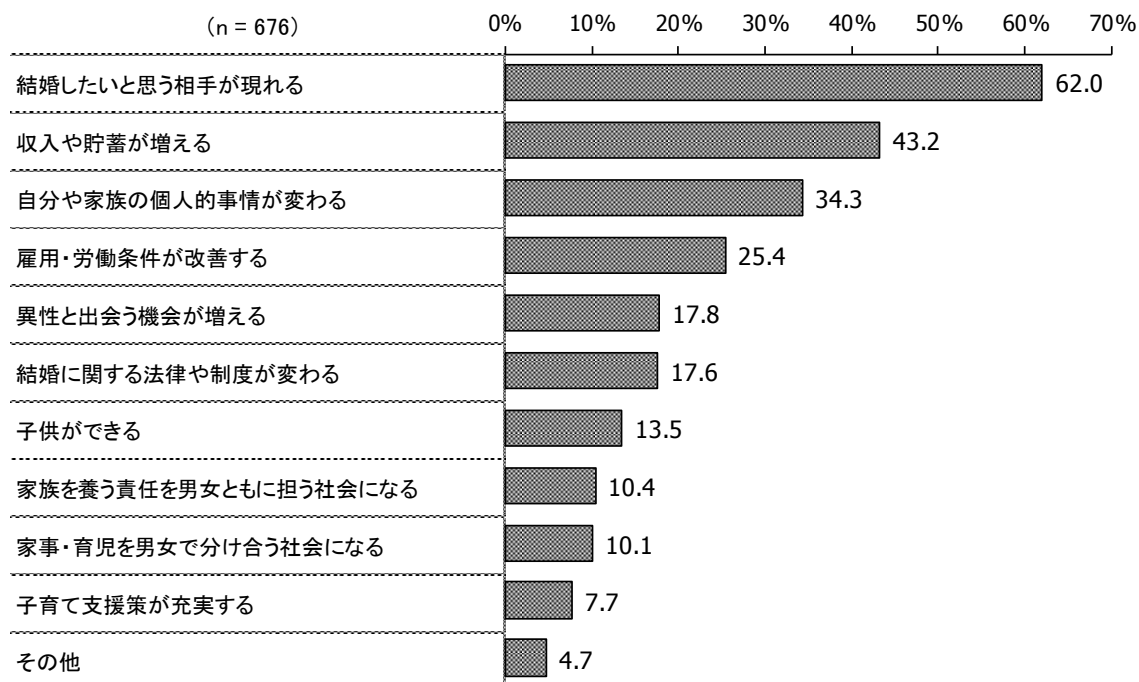


24 「いずれ結婚するつもり」に変わる理由

問31 あなたのお考えが「いずれ結婚するつもり」に変わるとする場合、その理由として考えられるものは、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最も当てはまると思う理由を最大3つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の理由】【第2の理由】【第3の理由】それぞれ1つずつ）

今後、考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性はあるかの問いで、「あると思う」、「あるかもしれない」、「たぶんないと思う」と回答した人に、考えが「いずれ結婚するつもり」に変わるとする場合、その理由として考えられるものを聴取したところ、「結婚したいと思う相手が現れる」の割合が62.0%で最も高く、次いで「収入や貯蓄が増える」が43.2%、「自分や家族の個人的事情が変わる」が34.3%、「雇用・労働条件が改善する」が25.4%、「異性と出会う機会が増える」が17.8%、「結婚に関する法律や制度が変わる」が17.6%などと続いている。

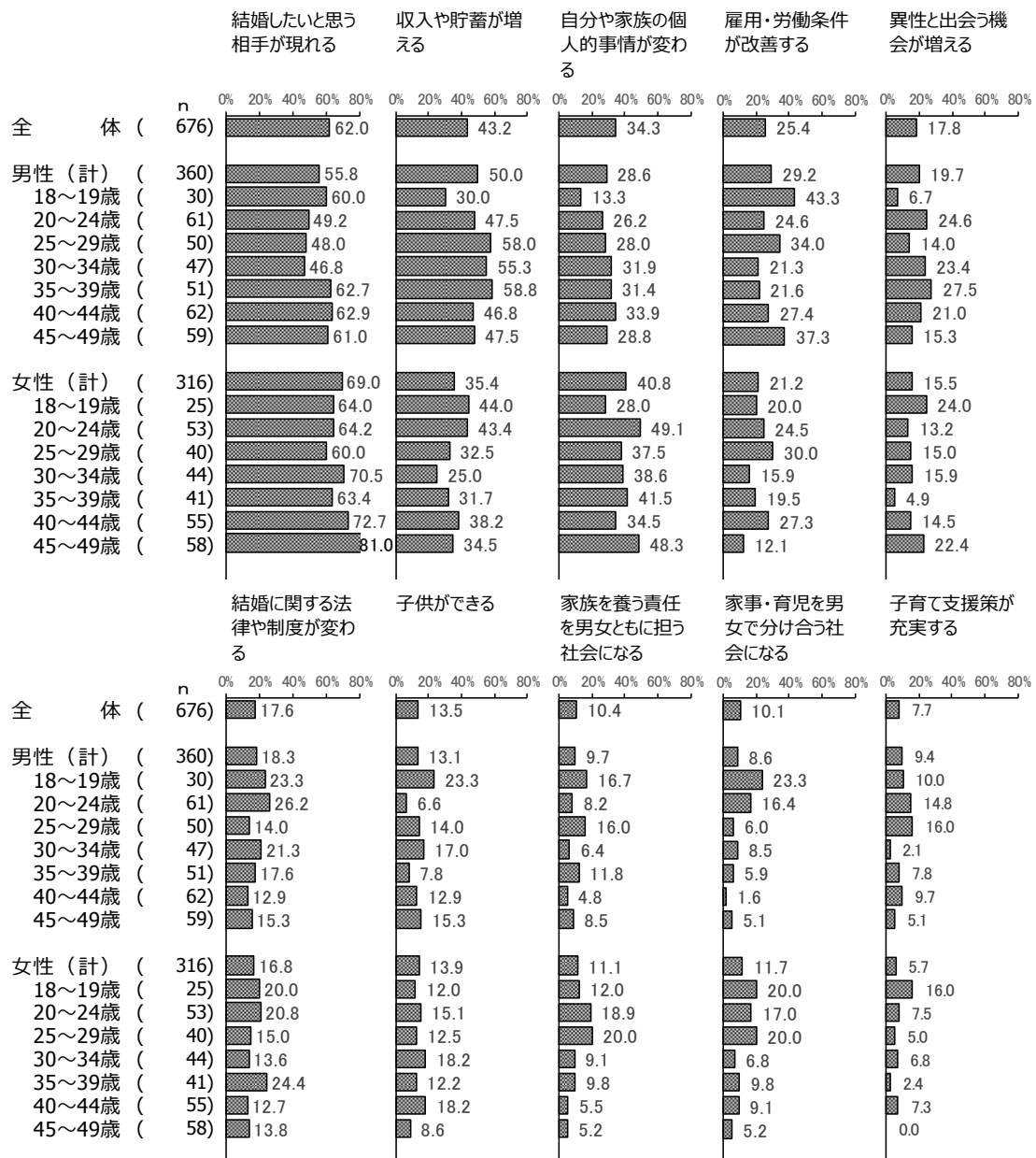
【最大の理由～第3の理由の合計】



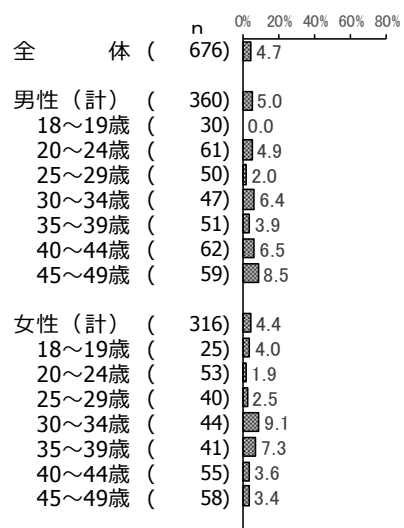
【性別・年齢別】

性別でみると、「結婚したいと思う相手が現れる」の割合は男性（計）が55.8%、女性（計）が69.0%、「自分や家族の個人的事情が変わる」の割合は男性（計）が28.6%、女性（計）が40.8%となっており、どちらも女性のほうが男性よりも高くなっている。一方、「収入や貯蓄が増える」の割合は男性（計）が50.0%、女性（計）が35.4%となっており、男性のほうが女性よりも高くなっている。

性別・年齢別でみると、女性の45～49歳では「結婚したいと思う相手が現れる」の割合が81.0%と、他の性別・年齢層に比べて高くなっている。また、男性の25～39歳では「収入や貯蓄が増える」の割合が5割を超えており、他の性別・年齢層よりも高くなっている。



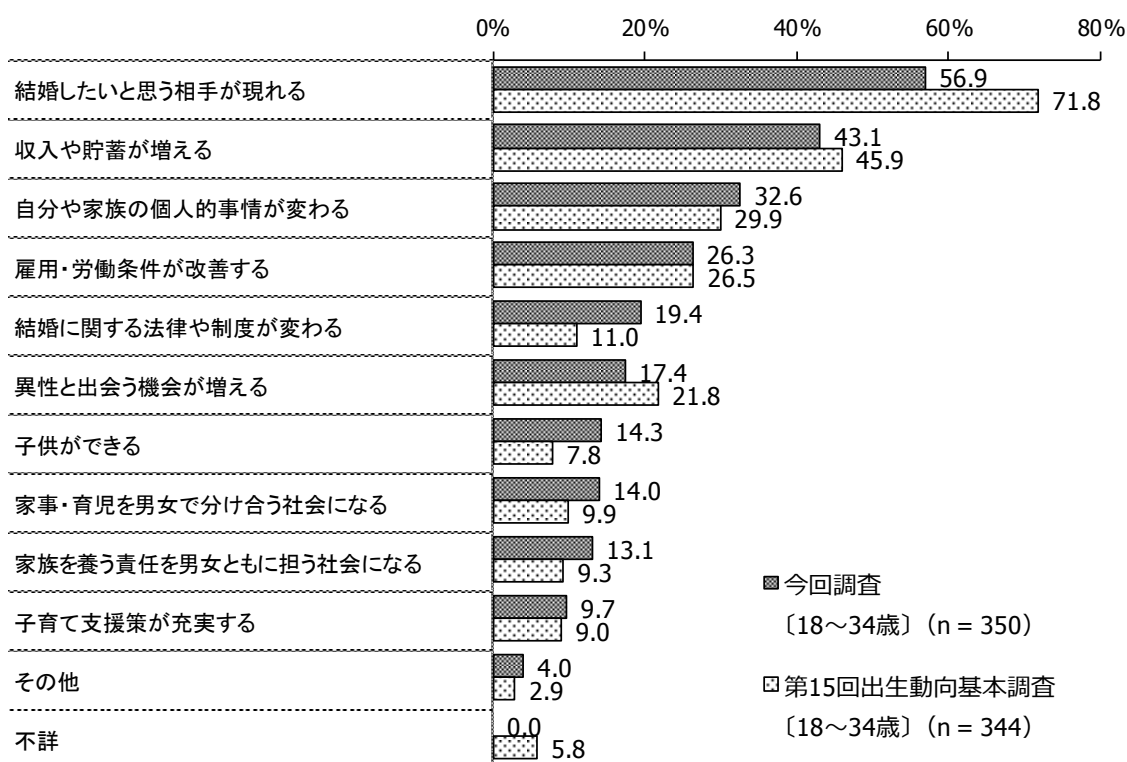
その他



【国の調査との比較】

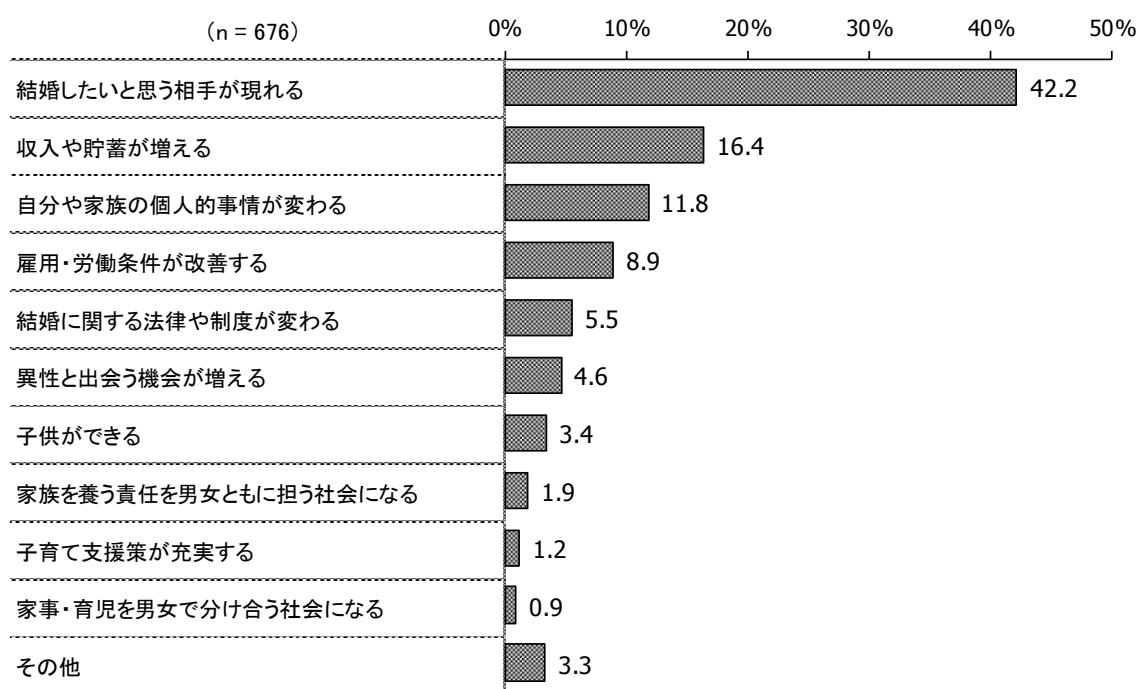
国の調査と比較してみると、「結婚したいと思う相手が現れる」の割合は今回調査では56.9%、第15回出生動向基本調査では71.8%となっており、今回調査と比べて第15回出生動向基本調査のほうが14.9ポイント高くなっている。

【最大の理由～第3の理由の合計】



考えが「いずれ結婚するつもり」に変わるとする場合、最大の理由として考えられるものを聴取したところ、「結婚したいと思う相手が現れる」の割合が42.2%で最も高く、次いで「収入や貯蓄が増える」が16.4%、「自分や家族の個人的事情が変わる」が11.8%、「雇用・労働条件が改善する」が8.9%、「結婚に関する法律や制度が変わる」が5.5%、「異性と出会う機会が増える」が4.6%などと続いている。

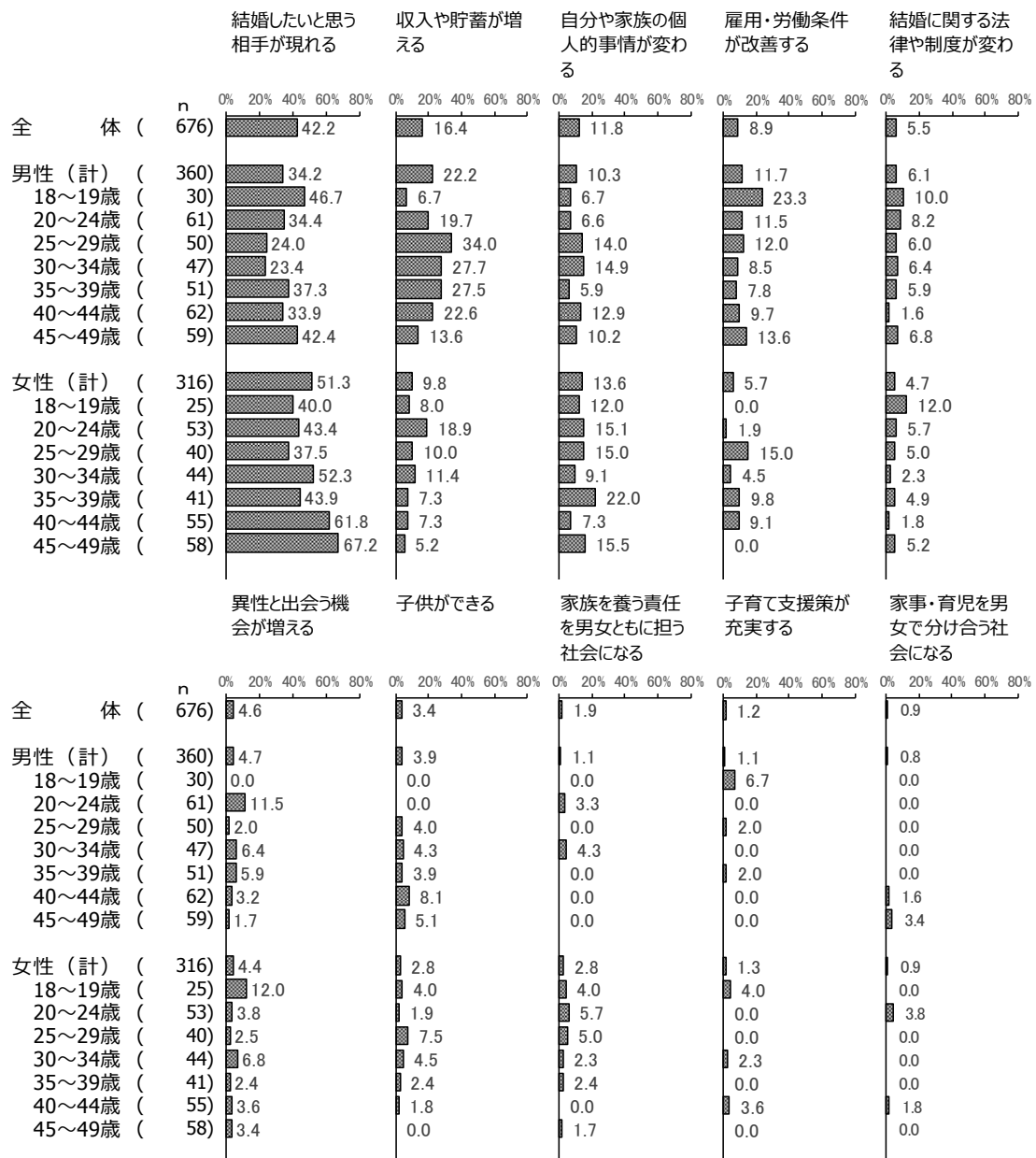
【最大の理由】



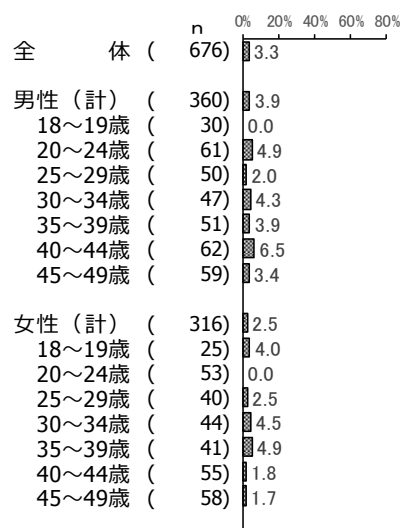
【性別・年齢別】

性別でみると、「結婚したいと思う相手が現れる」の割合は男性（計）が34.2%、女性（計）が51.3%となっており、女性のほうが男性よりも17.1ポイント高くなっている。一方、「収入や貯蓄が増える」の割合は男性（計）が22.2%、女性（計）が9.8%となっており、男性のほうが女性よりも12.4ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、女性の40歳以上では「結婚したいと思う相手が現れる」の割合が6割を超え、他の性別・年齢層に比べて高くなっている。また、男性の25～39歳では「収入や貯蓄が増える」の割合が2割台後半～3割台半ばとなっており、他の性別・年齢層よりも高くなっている。



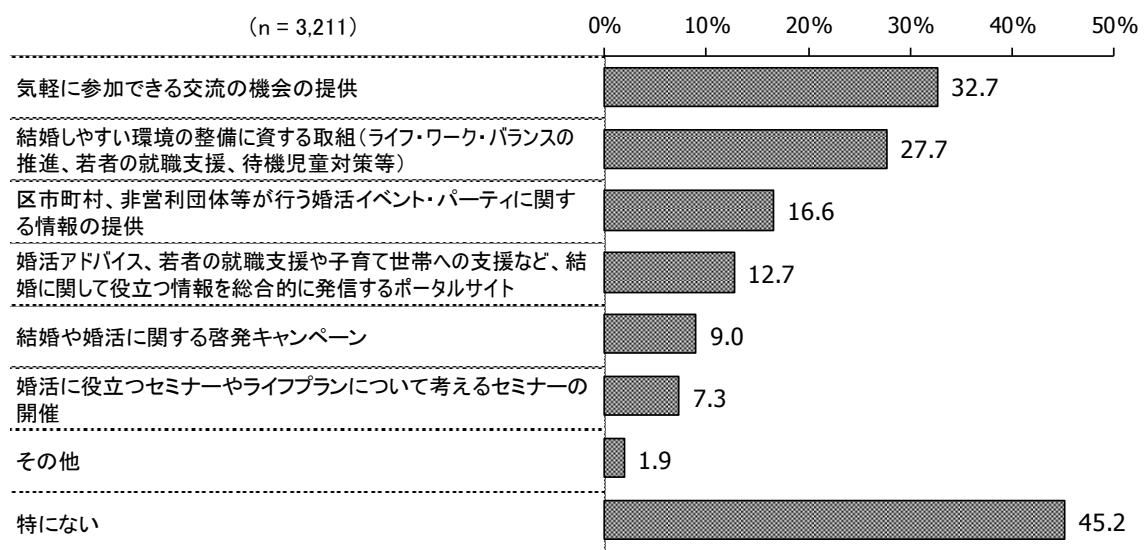
その他



25 東京都に期待する結婚支援の取組

問32 東京都に期待する結婚支援の取組について、全てお選びください。（複数回答）

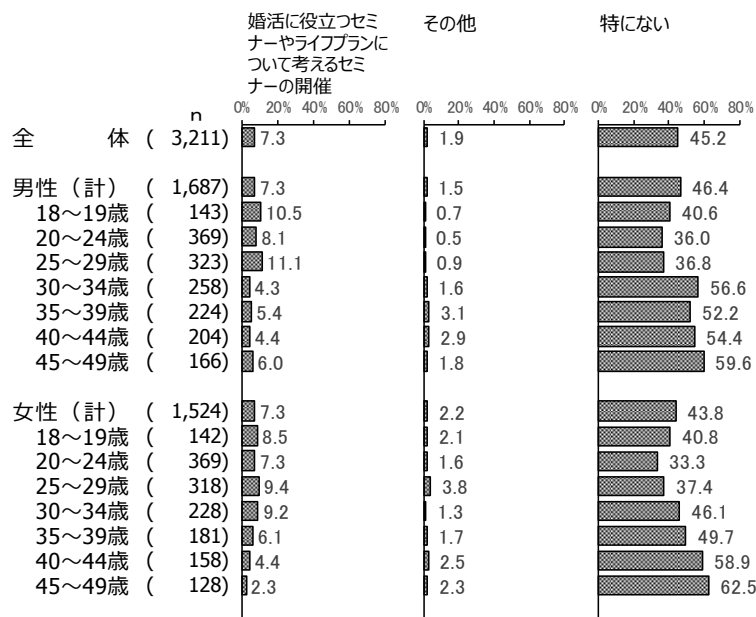
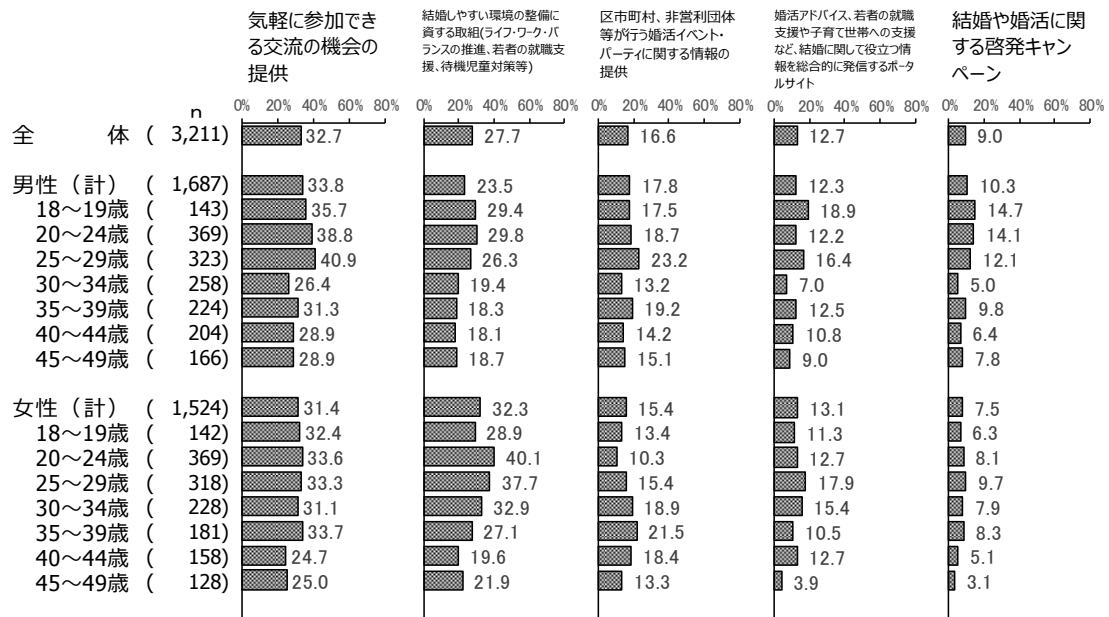
東京都に期待する結婚支援の取組について聴取したところ、「気軽に参加できる交流の機会の提供」の割合が32.7%で最も高く、次いで「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）」が27.7%、「区市町村、非営利団体等が行う婚活イベント・パーティに関する情報の提供」が16.6%、「婚活アドバイス、若者の就職支援や子育て世帯への支援など、結婚に関して役立つ情報を総合的に発信するポータルサイト」が12.7%などと続いている。なお、「特にない」は45.2%となっている。



【性別・年齢別】

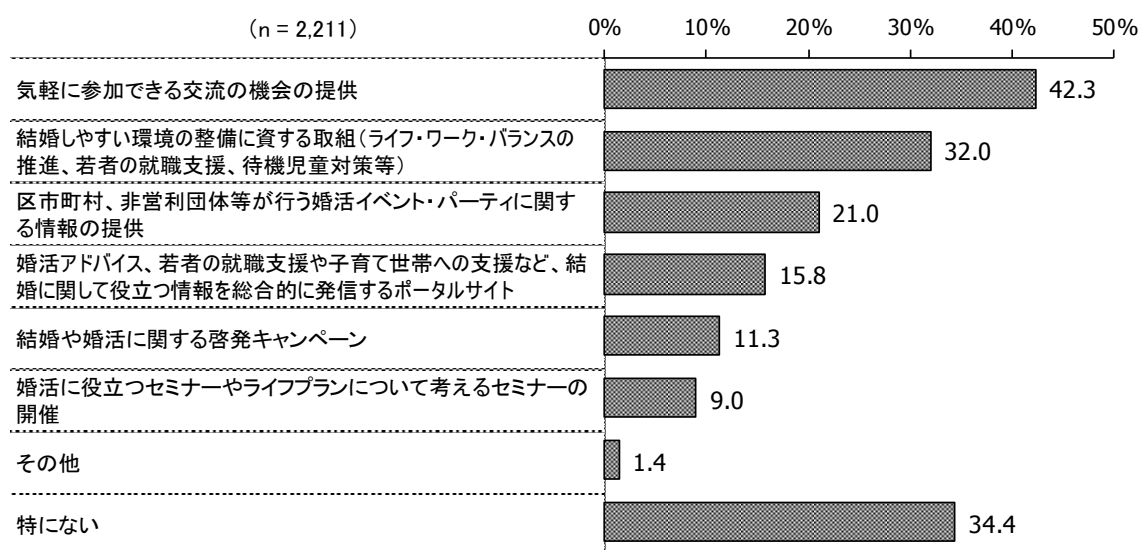
性別でみると、「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）」の割合は男性（計）が23.5%、女性（計）が32.3%となっており、女性のほうが男性よりも8.8ポイント高くなっている。

性別・年齢別でみると、男性の25～29歳では「気軽に参加できる交流の機会の提供」の割合が約4割と他の性別・年齢層に比べて高い。また、女性の20～29歳では「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）」の割合が3割台後半～4割となっており、他の性別・年齢層よりも高い。



【いずれ結婚するつもりと回答した人を母数とした場合】

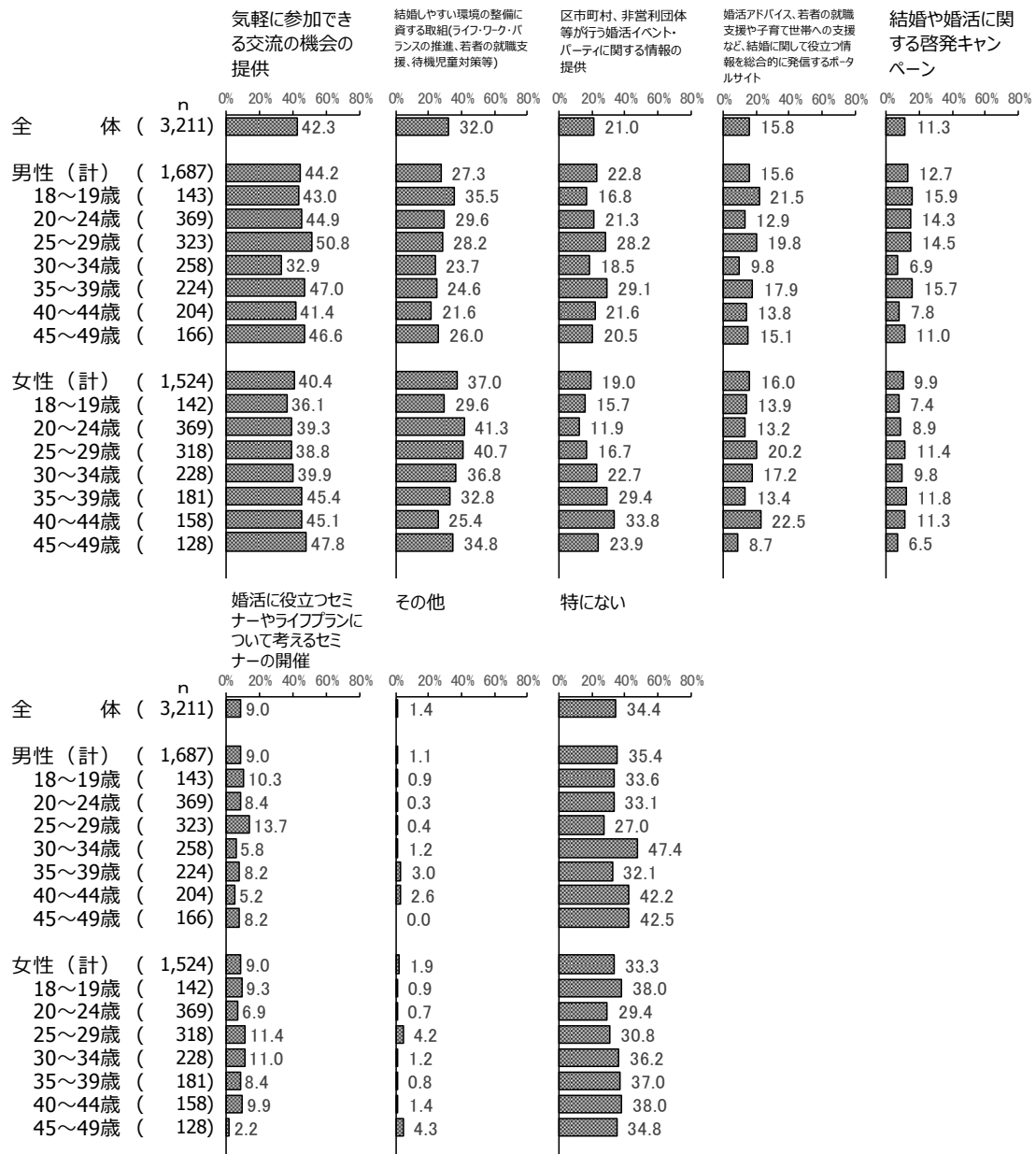
「気軽に参加できる交流の機会の提供」の割合が42.3%で最も高く、次いで「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）」が32.0%、「区市町村、非営利団体等が行う婚活イベント・パーティに関する情報の提供」が21.0%、「婚活アドバイス、若者の就職支援や子育て世帯への支援など、結婚に関して役立つ情報を総合的に発信するポータルサイト」が15.8%などと続いている。



【性別・年齢別（いずれ結婚するつもりと回答した人を母数とした場合）】

性別でみると、「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）」の割合は男性（計）が27.3%、女性（計）が37.0%となっており、女性のほうが男性よりも9.7ポイント高くなっている。

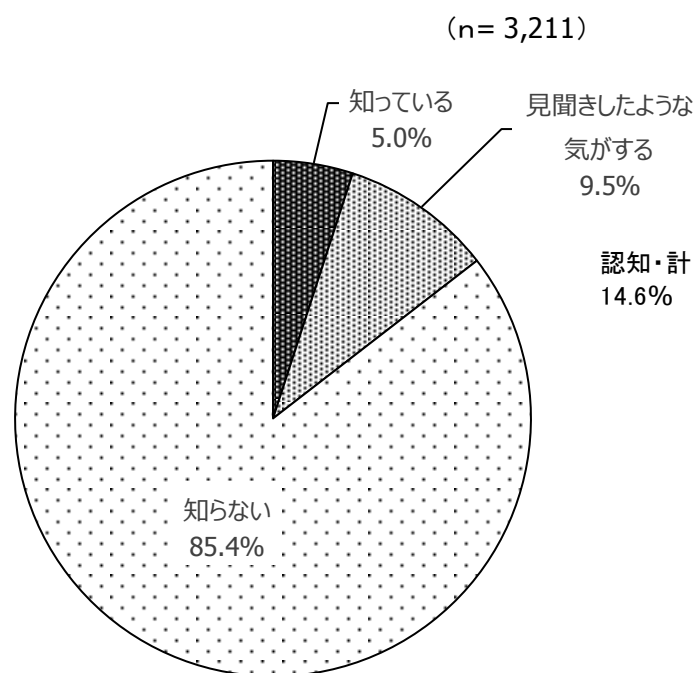
性別・年齢別でみると、男性の25～29歳では「気軽に参加できる交流の機会の提供」の割合が半数を超え他の性別・年齢層に比べて高い。また、女性の20～29歳では「結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）」の割合が4割を超えており、他の性別・年齢層よりも高い。



26 都が結婚支援を行っていることの認知状況

問33 東京都では、結婚支援として様々な取組（TOKYO縁結日2017、結婚に向けた気運醸成のための動画の放映など）を行っていますが、都が結婚支援を行っていることをご存知ですか。（単数回答）

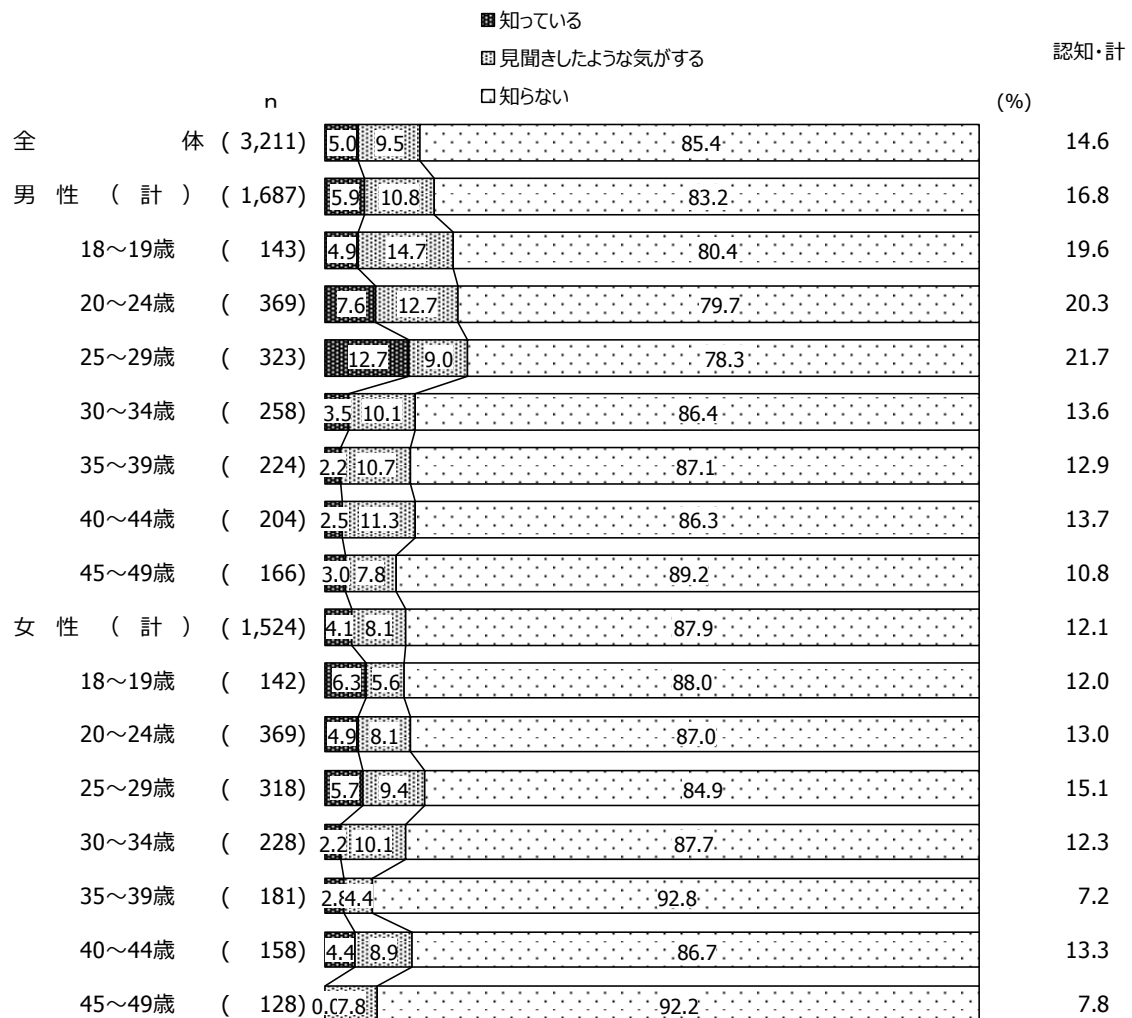
都が結婚支援を行っていることの認知状況については、「知っている」の割合が5.0%、「見聞きしたような気がする」が9.5%となっており、「知っている」と「見聞きしたような気がする」を合わせた認知・計は14.6%となっている。一方、「知らない」の割合は85.4%となっている。



【性別・年齢別】

性別でみると、「知っている」と「見聞きしたような気がする」を合わせた認知・計の割合は男性（計）が16.8%、女性（計）が12.1%となっており、男性のほうが女性よりも4.7ポイント高くなっている。

性別・年齢別では、男性の20～29歳で「知っている」と「見聞きしたような気がする」を合わせた認知・計の割合が2割を超えており、他の性別・年齢層より高くなっている。



27 東京都の結婚支援についての意見・要望

問34 その他東京都の結婚支援についてご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも構いませんので具体的にお聞かせください。（自由記述）

東京都の結婚支援に対する意見や要望等について、アンケート調査票の最後に設けた自由記述欄に記載していただいたところ、837 人（「特になし」「わからない」等を除く。）からご意見やご要望等が寄せられた。内容は極めて多岐にわたり、すべてを掲載することはないが、意見等の趣旨に沿って分類し、いくつかの例を掲載した。

都の取組への希望・要望など	380件
（意見例） 公的な支援があるなら受けてみたい。 安心して利用しやすい出会いの場を提供できないか。 軽い気持ちで参加可能なセミナーや懇親会などを企画してほしい。 結婚に関して気軽に考えることができる環境を考えてほしい。 婚活に必要な資金の助成金。 金銭面で新婚生活スタートの手筈を整えること。 様々なイベントを発信してほしい。 地域重視のイベントや中高年向けのイベントなどがあるといいと思う。	
結婚しやすい環境整備に資する取組への希望・要望など	187件
（意見例） 若い夫婦が安心して暮らしていけるような経済的な支援がほしい。 結婚しても、女性が働きやすい職場環境の整備に力を入れてほしい。 子育てしやすい環境作りをしてほしい。 男性が家事育児できる環境を整えてほしい。 働き方や収入などの改革をして自由な時間や自由に人と出会えるようにしてほしい。 育休の整備あるいは年休をフレキシブルに取れるように仕組化してほしい。 住居費への支援に取り組んだ方が結婚のメリットを感じるのでは。	
都の取組への反対意見	153件
（意見例） 結婚はプライベートなことだから東京都に支援してもらわなくてよい。 結婚支援は民間事業者に任せるべき。 恋愛は自由にすべきものだから、そんなことに税金を使うのはおかしい。 東京都がやる理由が分からない。 結婚支援よりも他に優先すべき事案が多くあると思う。	
その他 結婚支援に直接関係ないものも含め、多岐にわたるご意見を回答いただきました。	117件

IV 調 査 票

結婚等に関するアンケート

いつもアンケートに協力いただきまして、誠にありがとうございます。

このアンケートは、東京都が未婚の都民の方に行う結婚等に関するアンケートです。

ご回答いただきました内容は、結婚を希望しながらも一歩を踏み出せないでいる方の後押しをするための効果的な施策を考える上で、大切な資料となります。

なお、お答えいただいた内容について、個人が特定されるかたちで公表されることは絶対にありませんので、どうぞ安心してお答えくださいますようお願いいたします。

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。

JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 11

Firefox 14.0以降

Google Chrome 21.0以降

推奨OS

Windows7

Windows8

次へ

[必須]

Q1. 現在お住まいの区市町村

選択して下さい ▼

選択して下さい ▲

千代田区

中央区

港区

新宿区

文京区

台東区

墨田区

江東区

品川区

目黒区

大田区

世田谷区

次へ

[必須]

Q2. 現在のあなたの年齢

- ☐ 17歳以下
- ☐ 18～19歳
- ☐ 20～24歳
- ☐ 25～29歳
- ☐ 30～34歳
- ☐ 35～39歳
- ☐ 40～44歳
- ☐ 45～49歳
- ☐ 50歳以上

次へ

[必須]

Q3. 結婚経験の有無

- ☐ 未婚
- ☐ 既婚（離別・死別）
- ☐ 既婚

次へ

[必須]

Q4. あなたの性別

- ☐ 男性
- ☐ 女性

次へ

[必須]

Q5. あなたの雇用形態

- ☐ 正規の社員・職員
- ☐ 派遣・嘱託・契約社員
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 会社役員・その他法人団体の役員
- ☐ 自営業主・家族従事者・内職
- ☐ 無職・家事
- ☐ 学生

次へ

[必須]

Q6. あなたと同居している世帯の構成（複数回答可）

- ☐ 一人暮らし
- ☐ 父母
- ☐ 祖父母
- ☐ 兄弟姉妹
- ☐ 友人・恋人
- ☐ その他

次へ

[必須]

Q7. あなたの居住形態

- ☐ 持ち家（一戸建て）
- ☐ 持ち家（マンション等）
- ☐ 賃貸（一戸建て）
- ☐ 賃貸（マンション）
- ☐ 賃貸（アパート）
- ☐ 間借り・下宿
- ☐ 社宅・寮・シェアハウス等

次へ

[必須]

Q8. 今のあなたにとって、結婚することには何か利点があると思いますか。

【結婚することの利点の例】

経済的に余裕が持てる／社会的信用を得たり、周囲と対等になれる／精神的な安らぎの場が得られる／現在愛情を感じている人と暮らせる／自分の子供や家族を持てる／生活上便利になる／親から独立できる／親を安心させたり、周囲の期待にこたえられるなど

- ☐ 利点があると思う
- ☐ 利点はないと思う

次へ

【必須】

Q9. 前問で「利点があると思う」にチェックをつけた方は、次の中から具体的な利点を2つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の利点】【第2の利点】それぞれ1つずつ）

		経済的に余裕が持てる	社会的信用を得たり、周囲と対等になれる	精神的に安らぎの場が得られる	現在愛情を感じている人と暮らせる	自分の子供や家族を持てる	生活が便利になる	親から独立できる	親を安心させたり、周囲の期待にこたえられる	その他	第2の利点はない
最大の利点	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-
第2の利点	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐

次へ

【必須】

Q10. 逆に、今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。

【独身生活にあり、結婚生活にはない利点の例】

行動や生き方が自由／異性との交際が自由／金銭的に裕福／住宅や環境の選択の幅が広い／家族を養う責任がなく、気楽／友人などとの広い人間関係が保ちやすい／職業を持ち、社会とのつながりが保てる／現在の家族とのつながりが保てるなど

☐ 利点があると思う

☐ 利点はないと思う

次へ

【必須】

Q11. 前問で「利点があると思う」にチェックをつけた方は、次の中から具体的な利点を2つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の利点】【第2の利点】それぞれ1つずつ）

		行動や生き方が自由	異性との交際が自由	金銭的に裕福	住宅や環境の選択の幅が広い	家族を養う責任がなく、気楽	友人などとの広い人間関係が保ちやすい	職業を持つ、社会とのつながりが保てる	現在の家族とのつながりが保てる	その他	第2の利点はない
最大の利点	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-
第2の利点	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐

次へ

【必須】

Q12. 恋人の方との交際状況についておたずねします。次のうち、あなたにあてはまるものをお選びください。

- ☐ 現在交際している恋人はいない（まだ交際経験がない）
- ☐ 現在交際している恋人はいない（かつてはいた）
- ☐ 現在交際している恋人がいる

次へ

【必須】

Q13. あなたは今、恋人が欲しいですか。あてはまるものをお選びください。

- ☐ はい
- ☐ いいえ

次へ

[必須]

Q14. 恋人として交際する上での不安は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。（複数回答可）

- ☐ 気になる人がいても、どのように声をかけてよいかわからない
- ☐ どうしたら親しい人と恋人になれるのかわからない
- ☐ 恋愛交際の進め方がわからない
- ☐ 恋人として交際するのがなんとなくこわくて、交際に踏み切れない
- ☐ 過去の失恋経験からまた振られるのではないかと思う
- ☐ 自分は魅力がないのではないかと思う
- ☐ 自分が恋愛感情を抱くことができるのか不安だ
- ☐ そもそも出会いの場所がない
- ☐ その他

次へ

[必須]

Q15. 今、恋人が欲しいと思わない理由を教えてください。あてはまるものを全てお選びください。（複数回答可）

- ☐ 仕事や勉強に力を入れたい
- ☐ 自分の趣味に力を入れたい
- ☐ 友人と過ごす時間を大切にしたい
- ☐ 過去に恋愛で失敗した
- ☐ 恋愛が面倒
- ☐ 恋愛に興味がない
- ☐ 他人と恋人として交際するのがこわい
- ☐ その他

次へ

[必須]

Q16. あなたは、交際相手との結婚の希望はありますか。あてはまるものをお選びください。

- ☐ 結婚したいと思っている
- ☐ 特に結婚は考えていない

次へ

[必須]

Q17. 現在の恋人とどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。最もよくあてはまるものをお選びください。

- | | |
|--|--|
| ☐ 学校で | ☐ 婚活パーティで |
| ☐ 職場や仕事の関係で | ☐ 合コンやパーティで（婚活パーティは除く） |
| ☐ 幼なじみ・隣人関係 | ☐ インターネットで |
| ☐ 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で | ☐ 地域の活動やボランティア活動で |
| ☐ 友人や兄弟姉妹を通じて | ☐ 街なかや旅先で |
| ☐ 見合いで（親戚・上役などの紹介も含む） | ☐ アルバイトで |
| ☐ 結婚相談所で | ☐ その他 <input type="text"/> |

次へ

[必須]

Q18. 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

- ☐ いずれ結婚するつもり
- ☐ 一生結婚するつもりはない

次へ

[必須]

Q19. 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

- ☐ ある程度の年齢までには結婚するつもり
- ☐ 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

次へ

【必須】

Q20. それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。

- ☐ 一年以内に結婚したい
- ☐ 理想的な相手が見つければ結婚してもよい
- ☐ まだ結婚するつもりはない

次へ

【必須】

Q21. 現在交際している人と（あるいは理想的な相手が見つかった場合）一年以内に結婚するとしたら、何か障害になることがあると思いますか。

【障害になることの例】

結婚生活のための住居／結婚資金（挙式や新生活のため）／親の承諾／親との同居や扶養／学校や学業上の問題／職業や仕事上の問題／年齢上的こと／健康上的ことなど

- ☐ 障害になることがあると思う
- ☐ 障害になることはないと思う

次へ

【必須】

Q22. 前問で「障害になることがあると思う」にチェックをつけた方は、次の中から具体的な障害を2つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の障害】【第2の障害】それぞれ1つずつ）

		結婚生活のための住居	結婚資金（挙式や新生活のため）	親の承諾	親との同居や扶養	学校や学業上の問題	職業や仕事上の問題	年齢上的こと	健康上的こと	その他	第2の障害はない
最大の障害	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-
第2の障害	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐

次へ

[必須]

Q23. あなたは、今後、何歳ぐらいの時に、何歳ぐらいの相手と結婚したいと思いますか。希望する年齢を入力してください。（半角数字で入力）

自分が（ ）歳ぐらいの時に、（現時点のあなたの年齢以上のお歳を入力）

相手（ ）歳ぐらいの人と結婚したい

次へ

[必須]

Q24. あなたは結婚相手を決めるとき、次の1.～8.の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。

		重視する	考慮する	あまり関係ない
1. 相手の学歴	→	●	●	●
2. 相手の職業	→	●	●	●
3. 相手の収入などの経済力	→	●	●	●
4. 相手の人柄	→	●	●	●
5. 相手の容姿	→	●	●	●
6. 共通の趣味の有無	→	●	●	●
7. 自分の仕事に対する理解と協力	→	●	●	●
8. 家事・育児に対する能力や姿勢	→	●	●	●

次へ

[必須]

Q25. あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最も当てはまると思う理由を最大3つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の理由】【第2の理由】【第3の理由】それぞれ1つずつ）

（すでに結婚が決まっている方は、【最大の理由】は「すでに結婚が決まっている」、【第2の理由】は「第2の理由はない」、【第3の理由】は「第3の理由はない」をチェックしてください）

		結婚するにはまだ若すぎるから	結婚する必要性をまだ感じないから	今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	適当な相手にめぐり会わないから	異性とうまくつき合えないから	結婚資金が足りないから	結婚生活のための住居の目途が立たないから	親や周囲が結婚に同意しない（たろう）から	結婚生活のための住居の目途が立たないから	その他	すでに結婚が決まっている	第2の理由はない	第3の理由はない
最大の理由	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐	-	-
第2の理由	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-	☐	-
第3の理由	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-	-	☐

[必須]

Q26. 現在の結婚に向けた活動（婚活）についておたずねします。あなたは現在、どのような婚活をしていますか。（複数回答可）

☐ 合コン、パーティ（婚活パーティを除く）に参加している	☐ 職場の同僚や先輩に紹介を頼んでいる
☐ 民間の婚活イベント・パーティに参加している	☐ 親や親戚に紹介を頼んでいる
☐ 自治体や地域の婚活イベント・パーティに参加している	☐ お見合いをしている
☐ インターネットの婚活サイトを利用している	☐ セミナー等で自分磨きをしている
☐ 結婚相談所に登録している	☐ その他
☐ 友人に紹介を頼んでいる	☐ 特に婚活はしていない

次へ

[必須]

Q27. 現在、婚活について具体的な行動をとっていない理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。（複数回答可）

☐ どうやって婚活をしたらよいかわからないから

☐ 仕事やプライベートを優先したいから

☐ 婚活にかかる費用が高額だから

☐ 必要性を感じないから

☐ 民間サービスの利用に抵抗があるから

☐ 自然に出会いたいから

☐ 気軽に参加できる機会がないから

☐ その他

☐ 婚活するのは恥ずかしいから

☐ すぐに結婚したいとは思っていないから／まだ早
いと感じるから

☐ 特に理由はない

☐ 既に交際相手がいるから

次へ

[必須]

Q28. あなたは、婚活するとしたらどのような婚活をしたいですか。次のうち、あてはまるものを全てお選びください。（複数回答可）

☐ 合コン、パーティ（婚活パーティを除く）に参加
する

☐ 職場の同僚や先輩に紹介を頼む

☐ 民間の婚活イベント・パーティに参加する

☐ 親や親戚に紹介を頼む

☐ 自治体や地域の婚活イベント・パーティに参加す
る

☐ お見合いをする

☐ インターネットの婚活サイトを利用する

☐ セミナー等で自分磨きをする

☐ 結婚相談所に登録する

☐ その他

☐ 友人に紹介を頼む

次へ

[必須]

Q29. 現在の気持ちは別にして、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことはありますか。

☐ ある

☐ ない

次へ

【必須】

Q30. 今後、あなたのお考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性はありますか。

【いずれ結婚するつもりに考えが変わる可能性の理由の例】

雇用・労働条件が改善する／収入や貯蓄が増える／子育て支援策が充実する／家事・育児を男女で分け合う社会になる／家族を養う責任を男女ともに担う社会になる／結婚に関する法律や制度が変わる／異性と出会う機会が増える／結婚したいと思う相手が現れる／子供ができる／自分や家族の個人的事情が変わるなど

- ☐ あると思う
- ☐ あるかもしれない
- ☐ たぶんないと思う
- ☐ ないと思う

次へ

【必須】

Q31. あなたのお考えが「いずれ結婚するつもり」に変わるとする場合、その理由として考えられるものは、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最も当てはまると思う理由を最大3つまで選んでご回答ください。（チェックは【最大の理由】【第2の理由】【第3の理由】それぞれ1つずつ）

		雇用・労働条件が改善する	収入や貯蓄が増える	子育て支援策が充実する	家事・育児を男女で分け合う社会になる	家族を養う責任を男女ともに担う社会になる	結婚に関する法律や制度が変わる	異性と出会う機会が増える	結婚したいと思う相手が現れる	子供ができる	自分や家族の個人的事情が変わる	その他	第2の理由はない	第3の理由はない
最大の理由	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-	-
第2の理由	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		☐	-
第3の理由	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		-	☐

次へ

[必須]

Q32. 東京都に期待する結婚支援の取組について、全てお選びください。（複数回答可）

☐	気軽に参加できる交流の機会の提供
☐	区市町村、非営利団体等が行う婚活イベント・パーティに関する情報の提供
☐	婚活アドバイス、若者の就職支援や子育て世帯への支援など、結婚に関して役立つ情報を総合的に発信するポータルサイト
☐	結婚や婚活に関する啓発キャンペーン
☐	婚活に役立つセミナーやライフプランについて考えるセミナーの開催
☐	結婚しやすい環境の整備に資する取組（ライフ・ワーク・バランスの推進、若者の就職支援、待機児童対策等）
☐	その他
☐	特にない

次へ

[必須]

Q33. 東京都では、結婚支援として様々な取組（TOKYO縁結日2017、結婚に向けた気運醸成のための動画【リンク先<https://tokyodouga.jp/dLorsBAHrT4.html>】の放映など）を行っていますが、都が結婚支援を行っていることをご存知ですか。

※リンク先の動画を再生してからご回答ください。

☐	知っている
☐	見聞きしたような気がする
☐	知らない

次へ

Q34. その他東京都の結婚支援についてご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも構いませんので具体的にお聞かせください。

次へ

ご協力ありがとうございました。
これでアンケートは終了です。ご回答ありがとうございました

閉じる

都民の結婚等に関する実態及び意識についてのインターネット調査

平成 30（2018）年 12 月

問い合わせ先 東京都 生活文化局 都民生活部 地域活動推進課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
TEL:03-5320-4236（直通）

